

岸に建てり、舊都の一にしてロシア人の以て聖地と爲す處なり、寺院極めて多くの數四百有餘に達せり、殊にクレムルの宮殿は歴史上有名なりとす、本市は此の國上流社會の避寒の地なれば庭園別墅多く、廣袤甚だ大にして頗る殷賑なり、從て商工業共に見るべきものあり、當地の西九十七軒にポロヂノ (Porodino) あり、一八一二年フランス、ロシア兩軍の戦ひし處なり、オデッサ (Odessa) (四〇、五〇、四一) 東經三〇度北緯四六度二分は黒海に瀕す、建設一七九四年以來百餘年に過ぎざるも帝國第四の大都會第二の貿易港にして盛に穀類を輸出し、製粉、其の他の工業行はる、リガ (Riga) (二八、二九、四三) 東經二四度六分五九秒は、ヂナ河口より十一軒の上流にありてオデッサに次げる商港なり、亞麻、大麻、穀類、木材等を集散す、キエフ (Kiew) (二四、七四、三二) 東經五〇度二分一〇秒北緯五〇度二分一〇秒は舊都の一にして寺院に富めり、ロシア人の聖地として崇拜する所なり、參詣者は毎年三十萬人に達すと云ふ、又軍府としては防備堅固なるが商工業共に頗る見るべきものあり、ハルロフ (Chaskow) (一七、四八、四六) はモスクバの南、微西、ドネツ河の流域にあり、砂糖、石鹼等を製するが殊に年市を以て著はる、住民中にはドイツ人、ユダヤ人多し、キルナ (Vinnitsa) (一五、四五、三二) は軍府の一にして商業

も盛なり、住民にユダヤ人少なからず、サラトフ (Saratof) (一三、七一、〇九) は網具、鑄物等を製す、カザン (Kasan) (一三、九八、五九) 東經四九度七分四二秒北緯五五度四分四二秒はボルガ河岸を距る五軒にあり、十五世期に於て欽察國の首都たりしが、現今キリシヤ教のロシア人とマホメット教のタタール人との雜居する處なり、商業繁榮す、イェカテリノスラフ (Jekaterinoslaw) (一一、二二、一六) はドニエヘル河畔に位し、皮類、生毛、獸脂を集散す、ロストフ (Rostow) (一一、九八、八九) はドン三角洲の原頭に位し、穀類、生毛、チリス、煙草等を産す、アストラハン (Astrachan) (一一、二八、八〇) 東經四八度二分三秒北緯四六度二分三秒はボルガの河口を距ると四十五軒にある商業地なり、絹布、綿布、鞣皮を製するが殊に漁業を以て著はる、ツラ (Tula) (一一、一〇、四八) はモスクバの南に當れり、鐵物殊に武器を製す、キシネフ (Kischinow) (一〇、八七、九六) はベッサラビアの首府なり、ドニエステル河の支流に臨みて穀粉、煙草の産あり、商業活潑なり、ニコライエフ (Nikolajew) (九、二〇、六〇) 東經三一度北緯四六度五分二分はイングル河とブグ河との會流する處にありて黒海艦隊の根據地たり、黒海の岸を距ること六十八軒なりとす、サマラ (Samara) (九、一六、七二) はモスクバの東南東に當り、ボルガ河とサマラ河との合する地に位する商業地なるが熟皮、煙草等を

製す、ミンスク(Minsk)九、一四九四はモスクバの南西西プリベットの流域にあり、居民にユダヤ人多く商業稍盛なり、ニジニノブゴロド(Nischni Nowgorod)九、〇〇五三はボルガ、オコの相合する地に位し年市場として名あり造船に従事す、ポロネン(Woronezh)八、〇五九九はボルガの支流口モスクバの南微東にあり、鞣皮、穀類等を集散す、コフナ(Kowna)七、三五四三はニエメン河に近し、小麦、亞麻を集散す、住民にユダヤ人多し、オレンブルグ(Orenburg)七、二七四〇はウラル河地方に於ける一市にして又要塞地たりヤロスラフ(Jaroslaf)七、〇六一〇はモスクバの北東ボルガ河畔にある商業地なり、アリオル(Orel)六、九八五八はオカ河に沿ひ繩、煉瓦等を製す、ヂャナブルグ(Djanaburg)六、九六七八即ちドビンスク(Dwinsk)は西ロシアの一軍府たり、ケルソン(Cherson)六、九二一九はドニエベル河の下流に位し木材の取引盛なり、キテプスク(Witebsk)六、五八七一はヂャナ河に沿ふ農産物の倉庫地たり、ジトミル(Jitomir)六、五四五二はベテルスブルグの南西にあり、各種の工業に従事し酒類を集散す、レナル(六、四五七八)はエストニア(Esthesia)の首府にして、船艦、兵器を製作し畜産農産を集散す、リバウ(Libaw)六、四五〇五はリガの西微南鐵路二百三十五軒に位しバルト海に

沿ひ第一流の軍港たり、港形佳良にして氷結期二週間は極めて短し、ビエロストク(Bialostok)六、三九二七は毛織物を製す、イリサントグラド(Jelissawetgrad)六、一八四二はオデッサの北東にありて、石鹼、蠟燭等を製す、ペンザ(Pensa)五、九九八一はモスクバの南東に位し紙、其の他の産あり、クレメンチヤグ(Kremenschnag)五、八六四八はドニエベルに沿へる工業地なり、ツァリツィン(Tsaritsyn)五、五九六七はボルガ河に瀕し、鑛泉を有す、エカテリンブルグ(Jekaterinburg)五、五四八八はウラル鑛區の中心なり、イバノボ、ボスネンスク(Jwanowo = Wosnensik)五、四二〇八はウラヂミルの北西にあり、盛に綿布を製す、ベルヂチーフ(Berdischew)五、三七二八はキエフの西南西にある商業地なり、トベル(Twer)五、三四七七はボルガに沿ふ商業市にして汽船の終航點なり、綿糸の産あり、ポルタバ(Poltawa)五、三〇六〇はドニエベルの支流に瀕し、煙草、熟皮の産あり、ペテロ大帝がカロロ十二世を破りし處とす、クルスク(Kursk)五、二八九六はキエフの北北東に當り熟皮を産す、ノボチルカスタ(Nowoscherlask)五、二〇五五はドンコサク省にあり、年市を以て知らる、タガンログ(Taganrog)はアソフ海に瀕し港を有す、セバストポリ(Ssewastopol)五、〇七一〇は城塞地にして良港を有するがクリ

ム戦争に依りて其の名著はれたり、カルガ(Kaluga)四九五一三はオカ河畔にありて穀類を集散す、ウフ(Уфа)四九二七五は同名の河に瀕す、石鹼、革類を製す、シムフエロポル(Simferopol)四八八二二はセバストポルの北東にあり、石鹼、煙草を製す、住民にタル人、ユダヤ人多し、タムボフ(Tambov)四八一三四はモスクバの南東にあり、穀類を集散す、スモレンスク(Smolensk)四六八八九はモスクバの西、微南ドニエベル河畔にあり、製粉、製革に従事す、グロドノ(Grodono)四六八七一はニエメンの右岸にありて煙草を製す、リエザン(Rjazan)四六一二二はオカ河の右岸に近し、絹布、刃物を製す、ペルム(Perm)四五四〇三はカマ河に瀕せる商業地にして冶金に従事す、シンピルスク(Ssinbisk)四三二九八はボルガに沿ひ、鞣皮、石鹼等を製し、穀類の市場として名あり、モヘレン(Mohilew)四三一一九はドニエベル河を帯び、熟皮を製す、ユルイエフ(Jurjew)四二四二二はドルント(Dorpat)とも云ふ、バイブス湖の西にありて印刷、醸造等を營む、ロストロマ(Kostrona)四一三三六はモスクバの北北東、ボルガの濼に位し、熟皮、紡績等に従事す、コスロン(Koslow)四〇三四七はモスクバの南東にあり、穀物を集散す、イエレツ(Jelez)三二七四五はアリオルの南東東に在て、家畜を集散す、ボブル

イスク(Bobruisk)三五一七七はミンスクの南東、ヘレシナ河畔にあり、ミタウ(Mitau)三三〇〇一はクルランドの首府にして、アア河に沿ふ、麻布、鞣皮を製し、亞麻、穀類を集散す、カメネツ、ポドルスク(Kamenez-Podolsk)三三四八三はドニエステルの支流に臨めり、シスラン(Syslan)三三三三七はボルガ河の西に於ける都會なり、ベンデリー(Bendery)三一八五一はドニエステルに臨める軍府にして、煉瓦、石器等の産あり、マリウポル(Mariupol)三一七七二はアソフ海に瀕して一港を有し、石炭の産地を控ゆ、イスマイル(Ismail)三一二九三はドナウ河の分流なるキリアに瀕して河港たり、プスコフ(Pskow)三〇四七八はペテルブルグの南南西にあり、ノブゴロド(Novgorod)はペテルブルグの南南東、イルメン湖の北に位す、ロシア帝國の基礎地たりし處なり、アルハンゼル(Archangel)はドビナ河の口に近くして、白海の主商港たり、エカテリナ(Ekaterina)はロシアラブラントに於ける不凍港なり、(以上ロシア諸州)
 ワルシニツ(Warschau)六三三八二〇八北緯五二度一分四分九秒はポーランド名をワルシニツ(Warszawa)と云ふ、一王國の首都たりし處にして、ペテルブルグの南西一千二百十七軒、ワイクセル河畔にあり、往昔の如き盛況を呈せざるも、ロシア第三の都會に

して宮殿寺院を有す軍府の一たるのみならず、商工業にも見るべきものあり、ロツ Lodz (三一、四一、二〇) は ワルシャワ の南西百二十二軒にありて ロシア 第五の都會たり、綿絲 の紡績、綿布、毛織 の製造、鐵器 の製作に従事す、ルブリン Lublin (五〇、一五二) は ワルシャワ の南東に位し、煙草、ビール 等の産あり、ブレストリトフスク Brest-Litvsk (四、六五四二) は軍府にして商業に従事す、チェンストホバ Czenstochowa (四、五〇四五) ピオトルコフ Piotrkow (三一、一八二) は孰れも稍名を知らる(以上ポーランド)。

フィンランド

境域 フィンランド 大侯國は ロシア の北西部にありて、西は ボトニア 灣に臨み、スウェーデン に境し、南は フィンランド 灣に瀕し、東は ベテルブルグ、オロネツ、アルハンジエ、ルスク の三府に接し、北は ノルウェー の ラボニア に隣するが、三十七萬餘方軒の地積を有せり。

土地 土地は主として花崗岩層より成りて、多少の起伏を見るも、海拔は著しからず、臺地は北極洋に向ひて緩斜するも、フィンランド 灣の沿岸には絶壁多し、而して海岸は スウェーデン の海岸の如く、小灣狹灣に富みて、無數の島嶼は航行の妨害を爲す、主要なる島嶼は ボトニア 灣中に於ける クルケン (Åland)、オランダ (Åland) の諸島なり、此の地が不流の瀧水に富めるは實に世界無比にして、サントミカエル 府にありては、沼湖 は地積の半以上を占む、此の外、殊に記すべきは、河流 が互に並行するの一事なり、フィンランド の 河流 にして ボトニア 灣に注ぐものは、南東 より 北東 に赴きて、スウェーデン の 北面 より 南東 に流るるものと相對せり、而して フィンランド の 沼湖 の中に最廣大なるは サイマ (Saima) にして、一千七百万方軒の面積を有するが、イマトラ (Imatra) の 瀑布 を爲して、ラクセン 河に依りて、フィンランド 灣に注げり、氣候は凛烈なるも健康に適し、七ヶ月に亘る冬期は嚴寒なれども、夏季は溫暖にして殊に乾燥を極む。

住民 人口は二百七十八萬餘ありて、一方軒に付き八人の割合なるが、同緯度の諸國に比すれば、住民 の多き方なり、而して 住民 を種族別にすれば、フィンランド 人 (二、三五萬人)、スウェーデン 人 (三、五其の多きを占め)、ロシア 人、ドイツ 人等は少なし、而して來住者は約六萬八千人ありて、往住者 は凡そ六萬八千なり、宗教 は ルーテル 派の 新教 を奉ずるもの (二、六六萬人) を以て多しとするが、ギリシア 正教徒は五萬に達せず。

政治[○] フィンランドは一八〇九年のフレドリクスハムンの條約に依りてロシア國に内屬したるも特立の大侯國にして、ロシアの皇帝を統領に戴くも、君民同治なれば貴族、僧侶、市民、農民の四階級より成れる國會を有せり、總督は大侯の代理者として、行政府の長官並に常備軍の總指揮官たり、地方は八府に分たれ、歳入は歳出と同じく凡そ一億一千二百十萬マルクなり、又國債は一億四千二百九十四萬マルクに近し。

府	地積	人口	一方籽に付
オポルビエルネボルグ	二、四一七一	四五、八九七八	二〇
クオビオ	四、二七三〇	三一、六二一九	八
ニールランド	一、一八七二	三〇、九九七〇	二七
サンクトミカエル	二、二八四〇	一九、〇四二七	八
タバステフス	二、一五八四	三〇、九六八二	一七
ウレオボルグ	一六、五六四一	二八、七五〇九	一、八

バサ	四、一七一一	四七、〇一七二	一一
ビボルグ	四、三〇五五	四三、八〇六〇	一二
合計	三七、三六〇四	二七八、一〇一七	八

生業[○] 耕地は多からざるも農業は生業中にありて首位を占め、牧畜は主として馬を飼ふ、又此の地の大理石は著名なり、貿易は漸次發達して輸入に二億六千七百五十萬マルクありて、輸出は二億一千三百七十萬マルクなり。

國名	輸入	輸出	國名	輸入	輸出
ロシア	一〇二、八	五三、四	フランス	五、六	二〇、七
スウェーデン	一一、九	八、二	オランダ	五、一	二一、三
ノルウェー	一〇、五	一一、八	ベルジック	二、〇	九、六
デンマーク	九七、五	二〇、三	イスパニア	五、〇	四、一
ドイツ	二七、一	六四、三	其他		
イギリス			合計	二六七、五	二二三、七

島嶼ゴトランド(Gotland) オーランド(Oland) ロンキョ(Lofofen)

地角 北岬 ノルディン(Nordkyn)岬 ノルムステルボ(Falsterbo)
リンデスネス(Lindesnes)岬

土地 顯著なる凸處は西部一帯の地を蔽ひて六百乃至九百米突の地盤の上に臺地又は山麓を形成せり、而してトロンドヒュムの凹窪處の北にありては、キエレンはヒンマルクに終り、南に於てはドフル並に南ノルウェーの山脈あり、又最高の地はノルウェー國にありてはガルドヘビテン(Galdhøppigen)(一五六〇)スネハット(Snehetta)(二三〇六)等にして、スウェーデンにありてはアレスタタン(Ahreskutan)(一六四〇)スリテルマ(Sulitelma)(一八六九)サレクテッコ(Surjekfjället)ケブネカイス(Kebnekaise)(一一二三)等なり、又氷原はノルウェーのホルケホンド、ヨスタダルスブレ面積九、スハルチセン等を著しとす、而してスウェーデンに於ける氷原の總面積は百七十方料に過ぎず。
河湖 分水嶺の西部に偏在する爲めノルウェーにあるものは短小にして急流なれども、スウェーデンにあけては稍長く、其の南部を流るゝものは航行の便を供せざるに非ず、グロンメン(Gronnen)六四〇はノルウェーにあり、カリスエルフ(四三六)リウ

スネエルフ(Ljusne Elf)(三九一)ダルエルフ(Dal Elf)ゲラエルフ(Göta Elf)等はスウェーデンにあり、瀑布の中、最も有名なるはリウカンフォス(Rinkan Foss) スカゲルラク海峽斜
フエリグフォス(Voring Foss) ナルダゲル トロールハッタ(Trollhatta) グテエ 等なりとす、
又沼湖はノルウェーの地積千分二十五を占め、スウェーデンの十二分の一を蔽ふ、就中、エネルン(Wenarn)(五五六)波料、エテルン(Etern)(一八九八)メラルン(Mölar)(一一六三)等は稍著し。

エネルン湖は大きに於てはヨーロッパ第三に位し、面積は五千五百六十八六二三八方料ありて長さ百五十料、幅八十料、海面上百三十四米突にありて水深は九十一米突に達する處あり、北西及び南より突出せる半島は相距ること二十四に過ぎず、島嶼少なからざる本湖の南西部はダルボ(Dalbo)湖と稱せらる。

氣候 ノルウェーに於ては氣温の年平均は二度五分なるが、西部は海候にして北海並に北極洋に瀕するの地には降雨多し、要するにノルウェーの氣候は比較的に溫和なりとす、之に反しスウェーデンは陸候の國にして、北部の年平均は零度下二度、南部の平均は七度なるが、雨量はウブサラ(Upsala)に於て四十一種、ノルウェーのベルゲンは二一、一種に

主要輸出品は木材一二七萬マルク、紙類及びバルブ二六、^二四、木器^四、皮革^四、魚^四等なるが、商船は約二千七百隻、三十四萬噸を有し、入船は凡そ二百五十萬噸にして、出船は凡そ三百四十四萬噸なり、又鐵路の延長は三千二百四十三料に達し、郵便局は一千二百七十二あり。

處誌

ヘルシングフォルス (Helsingfors) (一〇〇八一) 東經二四度五七分一七秒は

大侯國の首府にして造船所、大學等を以て知らるるが、ペテルブルグの西、海路百九十一哩、鐵路四百十二料に位し、木材、紙、^二タ、等を輸出す、オボ (Åbo) (四〇四九三) はボトニア灣に近き商業地にして穀類、鐵、木材等を集散す、タムメルフォルス (Tammerfors) (三八七三九) は工業地にして綿布、亞麻布、紙等を産す、ギボルグ (Wilborg) (三三三二一〇) はカレリアの舊都の地にして小港を有せり。

北部

スカンデナヴィア半島

境域

スカンデナヴィア (Scandinavia) 半島はスウェーデン國とノルウェー國とを抱括するものなるが、歴史的には尙ほデンマルク、北緯五十五度二十分と七十一度十二分との間にありて、極西は東經四度五十六分にして、極東は同二十四度四分なり、北は北極洋に枕み、西は大西洋、北海に瀕し、南は北海、バルト海に接し、東はバルト海、ボトニア灣、フィンランド、ロシアに隣せり、又地積は七十七萬方料ありて、其の内四十五萬はスウェーデンに屬し、三十二萬はノルウェーに屬せり、長さは約一千八百五十料にして、幅は凡そ七百二十四料なるべきが、幅の平均は、スウェーデンに約四百料、ノルウェーに凡そ三百二十料なり。

海岸 海岸は屈折に富みて、延長は約二萬四千料あり、狹灣は深く、陸地に侵入し、ソグネヒョルド (Sogne Fjord) の如きは百七十料の長さをも有せり、而して狹灣の沿岸はスウェーデンにありては彎曲に乏しきも、ノルウェーにありては山岳高く聳え、最淺の處は灣口にあるを常とす。

狹灣

フランケル (Vanger)	トロンドハイム (Trondheim)
ソグネ	クリスチアニア

島嶼 ゴトランド (Gothland) オーランド (Oland) ロンキナン (Lofoden)

地角 北岬 ノルドキン (Nordkyn) 岬 ファンステルボ (Falsterbo) 岬
リンデスネス (Lindesnes) 岬

土地 顯著なる凸處は西部一帯の地を蔽ひて六百乃至九百米突の地盤の上に臺地又は山嶺を形成せり、而してトロンドヒュムの凹窪處の北にありては、キエレンはヒンマルクに終り、南に於てはドフル並に南ノルウエーの山脈あり、又最高の地はノルウエー國にありてはガルドヘビナン (Galdhøppigen) (一五六〇) スネハット (Snøhetta) (二三〇六) 等にして、スウェーデンにありては、アレスタタン (Årestråtan) (一六四〇) スリテルマ (Sulitelma) (一八六九) サレクチャコ (Sarekčakko) ケブネカイネ (Kebnekaise) (一一三三) 等なり、又氷原はノルウエーのホルゲホンド、ヨスタダルスブレ 面積九百方軒、スハルテセン等を著しとす、而してスウェーデンに於ける氷原の總面積は百七十方軒に過ぎず。
河○湖 分水嶺の西部に偏在する爲めノルウエーにあるものは短小にして急流なれども、スウェーデンにありては稍長く、其の南部を流るゝものは航行の便を供せざるに非ず、グロンメン (Gronnen) (六四〇) はノルウエーにあり、カリスエルフ (四三六) リウ

スネエルフ (Ljusne Elf) (三九一) ダルエルフ (Dal Elf) ゲテエルフ (Göta Elf) 等はスウェーデンにあり、瀑布の中、最も有名なるはリウカンフォス (Rinkan Foss) スカゲルラク海峽斜面のマアン河にあり、フエリグフォス (Voring Foss) 峡灣に近し、トロルハッタ (Trollhatta) グテエル等なりとす、 又沼湖はノルウエーの地積千分の二十五を占め、スウェーデンの十二分の一を蔽ふ、就中、エネレン (Venern) (五五六) 波軒、エテレン (Etern) (一八九八) メラルン (Mölar) (一一六三) 等は稍著し。 イハ

エネレン湖は大きに於てはヨーロッパ第三に位し、面積は五千五百六十八六二三八方軒ありて長さ百五十軒、幅八十軒、海面上百三十四米突にありて水深は九十一米突に達する處あり、北西及び南より突出せる半島は相距ること二十四に過ぎず、島嶼少なからざる本湖の南西部はダルボ (Dalbo) 湖と稱せらる。

氣候 ノルウエーに於ては氣温の年平均は二度五分なるが、西部は海候にして北海並に北極洋に瀕するの地には降雨多し、要するにノルウエーの氣候は比較的に温和なりとす、之に反しスウェーデンは陸候の國にして、北部の年平均は零度下二度、南部の平均は七度なるが、雨量はウプサラ (Upsala) に於て四十一軒 ノルウエーのメルゲンは一七一軒 に

過ぎず。

政治 スウェーデン、ノルウェーの二國は一八一四年以來同一の君主の下に統治せらるるも、國體は各個獨立して各特殊の政治機關を具備し、海外派遣の公使、領事は兩國を代表し、又兩國の臣民を保護す、然れどもノルウェーは今年獨立せる外交機關を設けんとし、紛争未だ落着せざるもの如し。

スエリゲ王国

住民 スエリゲ(Sverige)國はスウェーデン(Sweden)とも稱へらる、住民は五百二十二萬餘なれば一方料に付き十二人の割合なり、住民の多數はスエリゲ人にして、フィンランド人は二十萬、ラブラント人は七千弱なり、移住に就きては往住に二萬五千足らずありて來住に約八千あり、宗教にはルーテル派の新教を奉ずるもの多く、ユダヤ教徒、カトリック教徒合はせて四千に達せず、教育は普及して讀み書きを知らざるものは全く其の跡を絶てり、一萬二千二百有餘の小學校は約七十五萬の生徒を教養し、ルンドとウプサラに於ける大學は學術の研究に従事せり。

政治 政體は君民同治にして第一第二の兩院より成れる國會あり、十省より成

れる行政府あり、而して地方には二十五の行政區を設く。

縣	地積	人口	一方料に付	縣	地積	人口	一方料に付
ブレキンゲ	三〇五	一四、七六一	四九	エステルゲトランド	一、〇四八	二八、四九九	二六
エルフスボルグ	一、二七五	二七、九六三	二二	スカラボルク	八四八〇	二二、〇四五	二八
グフレボルグ	一、九七四	二四、二八九	一三	セデルマンランド	六八一六	一六、八七三	二四
ゴトランド	三五六	五、三六一	一七	ストックホルム	六二二	一八、四三二	二四
グテボルグボフス	五、〇四七	三四、七六六	六九	ストックホルム(市)	三三	三、一〇三	一
ハルランド	四九二	一四、一七五	二九	ウプサラ	五三三	二二、五三九	三三
イェムトランド	五、〇七三	二一、三六六	二二	エルムランド	一、九三三	二五、三九二	一三
イェンケピング	一、一五〇	二〇、七一九	一八	エステルボテン	五、八九二	一四、九三四	三
カルマル	一、一五四	二二、七〇八	二〇	エステルノルランド	二、五三三	二二、七二二	九
コバルベルグ	二、九四九	二二、〇五六	七	エストマンランド	六六八	一四、九三三	三
クリスチアンスタト	六四四	二、八八四	三	ヒエルマル湖	四八〇		

世界地理 ヨーロッパ 北部 スカンディナヴィア半島 スエリゲ王国

クロノベルグ	九二〇	一五、七八五	一六	メラル湖	一六三		
マルメブス	四三九	四三、一九九	八七	エネル湖	五五六		
ノルボッテン	一〇、五八二	一四、四三三	一	エテル湖	一八九		
エレプロ	九〇五	一九、八三五	三	合計	四七六三	五三、二九二	一三
							六〇六

兵備は陸軍に平時の五萬九千人、戦時の三十三萬あり、海軍に七十二隻、約六萬四千噸あり、財政は歳出入孰れも一億七千七百二十二萬五千クロナの豫算なりとす。
 生業 林業、鑛業、漁業、農業、工業等の行はるゝあり、製鐵所は甚だ多く殊にモタラを以て著名とす、貿易は輸入に五億五百二十萬クロナありて、輸出は三億九千二百三十七萬クロナあり、主要輸出品は木材一、四八五九萬クロナ、鐵(五二八二)、バタ(二八一九)、木粉(二六四八)、紙(一九一九)、機械(一三二八四)、礦物(一〇六〇)等にして輸入品の第一に位するは石炭なるが、地方別取引額左の如し。

地 方	輸 入	輸 出	地 方	輸 入	輸 出
ノルウェー	二四三、七	二四三、六	ポルトガル	一六〇、九	九一九

ロシヤ	三〇三、八	一四六、九	イスパニア	一八〇、九	三五九、七
デンマルク	六三三、二	五五三、五	イタリヤ	三三六、六	一〇、三
ドイツ	一、九七九、七	六三六、一	アフリカ	一四、八	一三、四、八
オランダ	一四〇、七	二四〇、八	アメリカ	一〇四、七	一、三
ベルジック	二七四、四	一五三、五	其他	三三八、八	一、四、四
イギリス	一、三〇七、〇	一、四九二、七	合計	一九〇二年	三、九三三、三
フランス	九三〇、	二七九、九	合計	一九〇一年	三、五三〇、五

船舶は二千九百八十七隻、汽船二〇三五、約六十四萬噸、汽船三六八ありて、入船は凡そ八百八十六萬噸、四〇〇萬噸出船は亦略ぼ之に等し、鐵道は一萬二千二百八十九料ありて、郵便局は三千四百三十七、電信線は二萬九千百十六料、電話線は六萬八千三百五料あり。

處誌 ストクホルム(Stockholm) 一一一〇四三(東經一八度三分三〇秒) 北緯五十九度二分三〇秒 是スエリヤの首府なり、メラル湖上に於ける十二三の島嶼に跨り、風色佳なり、砂糖、煙草、織物

等を製しドイツ、ロシアに對する取引少なからず、ゲテボルグ (Göteborg) (一三、五三一)
 四はゲテ河の口に於ける商港にして、カタガト海峽に瀕せり、マルメ (Malmö) (六、七三
 八)はスンド海峽に沿ひ繁華なる港を有す、ノルケビング (Norköping) (四、三二六五)
 は工業地にして砂糖、紙、煙草等を製す、ゲフレ (Gefle) (三、〇五四〇)はボトニア灣の支
 灣に瀕する商港なり、ヘルシングボルグ (Helsingborg) (二、六二一九)は南スエリゲの
 海港なり、カルスクロナ (Karlskrona) (二、五九六〇)は南岸にありて海軍造兵廠を有す、
ダンネモラ (Dannemora) は鐵鑛を以て著はる、ウプサラ (Upsala) (二、三、八五八)、イェンケ
 ビン (Jönköping) (二、三、一五二)等も少しく名を知らる。

ノルゲ王国

住民。ノルゲ (Norvege) はノルウェー (Norway) とも稱せらる、其の住民は約二百二十四
 萬人にして一方籽に就き七人の割合を興ふ、宗教はルーテル派の新教多く行はれ
 て、異教のものは四萬に達せず、教育の普及はスエリゲに劣らずして約八千六百の
 小學校は約四十四萬の生徒に普通の知識技藝を授け、クリスチアニアの大學は高
 等の教育を施す。

政治。政體は君民同治にして立法を司る國會はストルシング (Storting) と稱し、
 其の四分の一はラグシングと成り、其の四分の三はオデルスシングと成る、行政權
 は國王に屬し、二大臣と九顧問とより成る、行政院は輔弼の任に當れり、地方は二十
 縣に分たる。

縣	地積	人口	に方籽	縣	地積	人口	に方籽
アケルスフス	五三四	二、六三八	三	クリスチアンス	二、五三四	二、六三八	五
ベルゲン	一四	七、三三二	一	リステル オケマンダル	七六四	八、一五六	二
北ベルゲンフス	一、八四八	八、九〇四	五	ネデネス	九四八	七、九九五	九
南ベルゲンフス	一、五〇六	三、五七三	九	ノルドランド	三、八三四〇	一、五、二四四	四
プラトスベルグ	一、五二九	九、九〇三	七	ノムスダル	一、四九〇	一、三、六三七	九
ブスケルド	一、四八七	二、二六七	八	スマアレネ	四、二四四	一、三、六八四	三
フィンマルケン	四、六四〇	三、三九三	〇、七	スタファンゲル	九、四七	一、七、五九三	一四
ヘデマルケン	二、七四五	二、六二八	五	トロムセ	二、六四六	七、四三三	三

世界地理

ヨーロッパ

北部

スカンディナヴィア半島 ノルゲ王国

六〇九

イアルスベルグオグラウル フイク	三三〇	一〇四五四	四五	北 ト ロ ン ド ヒ エ ム	三、五三三	八、四三三	四
クリスチアニア	一七	三、七六六	—	南 ト ロ ン ド ヒ エ ム	一、八六〇	一、三三六	七

六一〇

陸兵は平時にありては二萬人なるも、戦時には二倍以上たるべく、艦船は五十三隻、二萬九千餘噸を有せり、財政に就きて歳出入は孰れも一億二百四十五萬、クロナの豫算にして、國債は二億五千九百八十六萬餘、クロナなりとす。

生業 生業中にて最も盛なるは漁業にして、漁人の數は十一萬に近きが、農夫は六十五萬餘、鑛業及び工業に従事するものは四十六萬餘人あり、貿易の高は輸入に二億九千二百八十一萬、クロナありて、輸出に一億九千三百二十七萬、クロナあるが木材四五萬、クロナ、木具(三〇)、鑛物(一三)、紙(一〇)、動物及び動物性營養品(六二)等は主要の輸出品にして、穀類(五七)、織物(三三)、殖民地雜貨(三三)、石炭(二三)、金物(二二)等は主要輸入品なり、而して取引先を表示すれば、

取引先	輸 入	輸 出	取引先	輸 入	輸 出
イギリス	六四一、九	七九九、三	ベルジック	二五四、三	九〇、一

ドイツ	七八五、七	二四七、四	イスパニア	三三六	一四二、六
スエリゲ	三〇八、〇	一五三、七	ポルトガル	八〇、一	九七、三
ロシア	三六六、三	五〇、二	イタリア	二〇六、五	三六、二
デンマルク	一七三、八	八五、三	アメリカ	一、八〇、一	二四、〇
フランス	五五、三	七四、七	其他	一〇三、三	二九、七
オランダ	一三〇、〇	二五、五	合 計	二、九八〇、六	一、九三六、七

商船は七千二百二隻、汽船一三九五、帆船八〇七、汽船六〇、あるを以て、比較上世界第一と稱し得べし、而して入船は三百二十五萬噸ありて、出船は三百二十四萬噸あり、鐵路は二千四百五料にして、郵便局は二千七百八十一、電信線は一萬九千二百九料、電話線は八萬八千二百六料あり。

處誌 クリスチアニア(Kristiania) 一二七、六二六 北緯五九度四分二秒は王國の首都にして、狹灣に瀕し、商工業の中心として、船舶の製造、木材の輸出等に從事す、ベルゲン(Bergen) 七二、二五一 北緯六〇度二分五秒は西岸に於ける商港にて、

漁の中心たり、トロンドビエム (Trondhjem) (三、八一八〇) は當國の舊都たりし處にして商港を有せり、スタベンゲル (Stavanger) (三、〇六一三) はヘルゲンの南に於ける要港なり、ドラメン (Drammen) (二、三〇九三) も亦一小港に臨めり、フレデリクスハルト (Frederikshald) (二、一九五七) はクリスチアニアの南南東に於ける軍港なり、ハンメルフェスト (Hammerfest) はヨーロッパ最北の都會たり。

ダンマルク王國

境域 ダンマルク (Danmark) は デンマルク (Denmark) とも云ふ、ネトランド 半島の北部と ゼーランド (Seeland)、ロウネン (Funen)、ボルンホルム (Bornholm) 其他、百五十有餘の島嶼とより成り、スカゲルラクを北にし、東にカタガット、スンド、バルト海、西に北海を控へ、南はドイツに接せり、地積は三萬八千餘方呎に過ぎず。
海岸 海岸線は約六千四百四十呎ありて、海峡にはスンド、大ヘルト (Belts)、小ヘルトあり、西岸にはリイム (Lia) 其他の狭灣あり、岬はスカゲン (Skagen) 最も著はれ、島嶼は全面積の三分の一を占むるが、西岸及びカタガットには淺洲、砂灘多し。

土地 土地は低平にして起伏少なく、處に依りては堤防の築造を要するが、最高處たるアイエルバンネヘイ (Eier Bavnehøj) と雖も百七十二米突に過ぎず、ヒンメルベルグ (Himmelberg) の如きは百五十三米突に止まれり、島嶼部に於けるリッテルクネグト (Rytkneget) (一六二) ホルム島 も此等と伯仲せるのみ、沼地は多くして泥炭田は各處にあり、河湖は多きも著大なるものなく、グデン (Guden) 河、フイーレ (Viele) 河は、カタガットに入り、スキフ (Slivo) はリイム狭灣に終るも、皆八十呎に達せず。

氣候 氣温はスカンデナヴィアの二國に比すれば、稍高く、キオペンハーフンの年平均均は七度四分なり、而して冬季の寒氣は烈しからざるに非ずして、島嶼間の小水道は凍結す、往時カルル十世の軍がネトランドよりジーランドに渡過せしことあり。

沿革 ダンマルク 國は九三六年 ゴム (Gorm) に依りて建設せられ、其の子 ワルデマル (Waldemar) 一世はノルグをも支配せり、後次第に國土擴りしが、一三九七年カ ルマル (Calmar) の條約に依りてノルグ、スエリグ、ダンマルク の合併あり、更に一五二三年スエリグの獨立あり、一八一五年に至りて ダンマルク は之にノルグを譲り、又一八六四年の戰役の結果、スレスキヒ、ホルスタインをプロイセンに奪はるること

と成れり。

住民 住民は二百四十六萬餘ありて、一方料に付き六十二人と成るなりフエルエル合算。信教上はルーテル派の新教徒二四二萬最も多く、異教徒は四五萬に過ぎず、教育は盛にして約三千の小學校(生徒三十二萬六千餘人)若干の中學校、專門學校(生徒五萬七千餘人)の大學校を有す。

政治 國體は代議王國にして、行政權を握れる國王はランドスチング(Landsking)フォルケチング(Folkething)の二院より成れる國會(Riksdag)と共に、立法の事を司れり、而して内閣は首相、外務、海軍、陸軍、財務及び工務、法務、宗教、教育、農務、内務、イスランドの諸卿より成れるが、地方は行政上七州十九縣に分たる、兵備は戰時の陸兵約六萬二千人ありて、海軍に六十隻、四萬五千餘噸あり、財政は歳入に七千六百三萬、クロネル「クロネル」は我が五十六錢弱ありて、歳出は約七千八百九十萬、クロネルなりとす、又國債は二億四千三百十一萬、クロネルに近きも一億九千一百萬、クロネル足らずの鐵道を始とし一億一千五百萬、クロネル内外の財産を有す。

生業 住民を職業別にすれば農林に従事するもの(九七萬)最も多く、工(六九萬)、商(三

七)等之に次げり、生業の第一に位するは農業にして、牧業も亦盛なるが、バターを製し製粉、蒸溜、醸造等に從事す、貿易は輸入に五億六千四百七十三萬餘、クロネル、輸出に四億四千八百五十四萬、クロネルあり、バター(一、三八一二萬、クロネル)、肉類(八七九四)、鶏卵(二四〇七)、家畜(一四九六)、魚類(七二二三)、皮革(六七七七)、等を輸出し、穀類(六九一一)、石炭(三三二九)、油粕(三三三三)、木材(一一二七)、鐵器(二〇二四)、毛織物(一六三七)、植物質織物(一四九〇)、バター(一一七六)等を輸入す、取引先に就きて一表を作れば、

地方	輸入	輸出	地方	輸入	輸出
イギリス	八九七九 <small>萬のロナ</small>	二七〇三四	イタリア	一九五、三	〇、一
ドイツ	一、六四六、八	七五九、五	イスラント	二八六、七	三三〇、三
スエリゲ	五、〇九四	三九八、七	フエルエル	三〇、四	七九、六
ノルゲ	八四四、八	一、三六、九	グリーンランド	八四、八	四一、〇
ロシア	六三九、九	一七六、三	合衆國	七四八、〇	一五八、三
オランダ	一一四、七	二一、〇	ダンマルク領アンチル	〇、一	〇、三
世界地理	ヨーロッパ 北部	ダンマルク王國		六一五	

ベルジック	八九四	一三、六	ブラジル	一、九〇〇	
フランス	一四、七四	二五、四	アメリカ	二八三	
ポルトガル	三、五、六	〇、二	東印度、支那、南洋	四、七、三	一〇八、三
イスバニア	三〇、七、三	〇、三	其他	二、九、二、四	四、三、四、三

六一六

商船は三千五百八十九隻、四十一萬餘噸にして、鐵道は三千五十軒を有し、電線は一萬四千百九十九軒、電話線は九萬八千二百三十七軒あり。郵便局は一千二百一ヶ處に設けらる。

處誌 キヤペンハーフン (Köbenhavn) 三七、八二、三五 北東經一五度四分三秒はコペンハーゲン (Kopenhagen) と稱せらる。ダンマルクの國都にしてジロランド島の東岸に位し、要港の一たり、往昔の盛況を呈せざるも商業繁榮し、鑄物、紡績、造船、蒸溜等行はれ、亦北ヨーロッパ第一の都會たるを失はず、殊に此の地の大學校は有名なり、住民は附屬市區を加ふれば四十八萬人に近かるべし、アウルフウス (Århus) (五一、一八一、四) はユトランド半島の東岸に位し、カッタガットに瀕し、穀類、家畜を集散す、オデ

ンゼ (Odense) はヒウネン島にあり、製皮に従事す、アウルボルグ (Ålborg) (三一、一四五、七) はリイム狹灣に沿へる港なり、漁船の出入少ならず、ロエスキルデ (Roeskilde) は國都の西にあり、ダンマルク王の舊住地なり。

殖民地 ダンマルクに屬する地は十九萬餘方軒あり、左に同國の全領土表を記し、自ら殖民地の地積、人口等を知らしむることとせり。

地	方	地積	人口	
キヤペンハーフン市		二、三、三	三七、八二、三五	—
島嶼部		一、三、一、四一	一〇〇、七五、一三	七七
ユトランド		二、五、二、九一	一〇六、三七、九二	四二
フェルエル		一、三、二、二五	一、五、二、三〇	一一
ダンマルク		三、九、七、八〇	二、四、六、四、七、七〇	六二
イスランド		一〇、四、七、八五	七、八、四、七〇	〇、七
グリーンランド		八、八、一、〇〇	一、一、八、九、五	〇、一

世界地理 ヨーロッパ 北部 ダンマルク王國

六一七

西印度	三五九	三、〇五二七	八五
殖民地	一九、三三四四	一二、〇八九二	〇、六

六一八

アイスランド (Island) 氷土の意にして、イギリス名は (Iceland) はヨーロッパ第二の大島にして、北緯六十三度二十三分乃至六十六度三十三分、西經十三度二十二分乃至二十四度十五分に位し、面積は十萬方料を超ゆ、海岸は北西及び東部に於て屈曲多く、内部は約六百米突に達する火山質臺地を爲し、エレフアイエクル (Öræfi Jökull) 一九六〇)、スネフエル (Snæfelli) 一八二二)、ヘクラ (Hekla) (一五五七)、トレンラチンイ (Trölladyngja) 一四九〇)、ヘルヤルナル (Heljarfall) (一二五二)、スミエルナル (Snjófall) 一二一一)、ユルロタチンヤ (Kolotadyngja) (一一〇九)、アスクイア (Askja) (一〇二〇) 等の聳ゆるあり、氷田の最大なるはヴァトナイエクル (Vatnajökull) にして約七千七百七十方料に達す、温泉は處處に散在し、大「ガイサー」はヘクラに近く位置せり、河流は少なからざるも航行の便を供せず、湖沼亦多し、氣候は南部に於てはスコットランドの北部に類し、北部は一層乾燥にして寒冷なり、殊にグリーンランドより流水の達すると否とに依りて、氣温は

著しく昇降す、天産に乏しきも、エイデル、鯉、鱈、硫黄等あり、本島は八百年代にアイスランド人或はスコットランド人の發見する所と成り、其の後八七四年ノルゲ人の殖民するあり、一二六二—六四年ノルゲ王に屬せしが、一三八八年ダンマルクに合はせられ、以て今日に至れるが、一千八百七十四年本島發見一千年紀念祝日に際し、特殊憲法の下に置かれたり、住民は四、二〇六八方料の地にあるのみにして、總計八萬に達せず、首府レイスキアフク (Reikiavik) は南西岸に於て一小邑を爲せり。
 フェルエル (Færøer) 即ちファアルエル (Faar' Oer) 諸島は北緯六十一度二十五分乃至六十二度二十五分、西經六度十九分乃至七度四十分に位し、三十五島より成りて、フリリングダルスフェルエルド (Villingedastjald) は海拔八八四米突に達す、住民は漁業、獵業等に従事す、小市街ありトルスハーブン (Thorshaven) と呼ばる。

中央部

ドイツ國

境域。ドイツ帝國(Deutsches Reich)は中央ヨーロッパの北部を占め、北緯四十七度より五十六度に至り、東經六度より二十三度に達せり、北は北海、ダンマルク、東海に接し、東はロシアに隣し、南はスイス、オーストリア、西はオランダ、ベルジック、フランス等と境を交へ、東と西との境界は自然的ならざるが、南西より北東に至る長さは約一千三百七十軒にして、南北の幅は凡そ九百三十軒に及び、面積は五十四萬餘方軒ありて我が國より大なりとす。

海岸。海岸線の延長は約一千九百三十軒にして、其の五百六十三軒は北海に屬し、殘餘はバルト海に屬せるが、一般に平低にして屈曲に乏し。

海。ヤーデ灣(Yade) ヘゼン河灣 ヘルム河灣 リヤック(Lübeck)灣
ステッテネルン ン(Stettiner Hoff) ダニツ(Danzig)灣

フリッシュン ン(Frische Hoff) クッリッシュン(Kurische Hoff)
ドルラルト イヤー(Dallart See)

島嶼。フリーシッシュ ン(Friesische)諸島 ヘルゴランズ(Helgoland)島
北フリーシッシュ ン(Alsen)島 フェルメン(Fehmern)島 リヤク(Rügen)島

地勢。北部と東部とはロシア平野に連なりて、土地極めて平低なるが、最高處と雖も海拔は三五〇米突に達することなし、之に反して南西并に西部にありて、中地ドイツ高地ドイツは山岳臺地より成れる一帯の隆起帶を抱括せり、其のバイエルン臺地はアルプ山脈に依り、ドナウ河に向ひて緩斜せるが、平均海拔は凡そ五百米突にして、幅は百五十乃至二百軒なり、其の高地ドイツは臺地又は山岳より成りて、シュワビセル ユラ(Schwäbischer Jura) シュワルツ ワルド(Schwarzward) 等を抱括し、其の中地ドイツはタウヌス (Taunus) フン スリヤック(Hunsrück) チョリン ゲルツワルト(Thüringerwald) アイフェル (Eifel) 等の地を含めり、要するにドイツの平均海拔は二一四米突と算定せらる。

山岳。ドイツの山岳は三千米突に達するものなし、今左に海拔順に従ひて主要なるものを擧げん、各行の始めに記せるは所屬山脈の名なり。

- ツグスピツ (Zug-Spitze) バイエルンアルプ 二九六八
- ワツマン (Watzmann) ベルヒテスガデーネル(Berchtesgaden) アルプ 二七一四
- シュネー コッペ(Schneekoppe) リーベンゲベルゲ(Riesengebirge) 一六〇三

フェルトベルグ (Feldberg) シェワルツワルト 一四九三
 アルペン (Arber) ノーメルワルト (Böhmer Wald) 一四五七
 グラツェル ショネーベルグ (Glazer Schneeberg) グラツェル 一四二四
 ズルツベルグ ノーレン (Sulzer Belchen) ヴォグス (Voges) 一四二二
 エルズベッセルベルグ (Elsässer Belchen) 一二四五
 ドライタンネンリートル (Dreilannenberg) ヴィエレンワルト 一二一六
 フュヒテルベルグ (Fichtelberg) ヘルツタベルゲ (Erzgebirge) 一二一三
 ホルニスグリンデ (Hornisgrinde) シェワルツワルト 一一六四
 ブロケン (Brocken) ハルツ (Harz) 一一四一
 ヒンテルベルグ (Hinterberg) イセルゲベルゲ (Isergebirge) 一一二六
 河流 ドナウ河は東流して遂に黒海に至るも、其の他の河流は概ね南東より北西に向ひて、北海或はバルト海に入る、其の北海斜面にライン、エムス (Ems) エセル (Weser) ヘルム (Elbe) あり、其のバルト海斜面にオデル (Oder) ワイクセル (Weichsel) ニエメン (Niemen) 等あり。

湖沼 北部には甚だ多くして殆ど枚擧に暇あらざるが、南部の著しきものはボデーデン (Boden) 湖の外にアンメル (Ammer) キムム (Wurm) ケニヨ (König) シエム (Chiem) 等の諸湖あり。

氣候 高地と海洋との關係は此の國に於ける降雨の情勢を定めたり、平野にありては西より東に趣くに從ひて陸候の度を増し、雨量はブレメンの七十糎、ベルリンの五十九糎、ダンツィヒの四十八糎と漸次に減少し、寒暑の差は愈々強く、氣温の變化は漸激烈と成る、而して西部并に南部にありては、氣温稍高く降雨多く、變化は漸、少なし、フランクフルトに於ける年平均は十度なりとす、又南東の高地并に山岳の地にありては、冬季は嚴寒を覺ゆ。

沿革 西紀前四世期の頃、ローマ人は初めてゲルマニ種族の存在するを知れり、當時彼等はエルペライン間に住し、マインの北にありしが、次第に地を擴めて西紀四世期の頃は益々ローマの領土を犯し、遂にフランク國を建設せり、紀元八〇〇年、法王より帝冠を授けられし、シャルマヌはサクセン、ハンガリアをも從へ、帝の没後國は分裂してドイツ、フランスを生ぜしなり、其の後オットー大帝出でて國境を進め、

イスパニア王カロロはドイツ、ネーデルランド、イタリアの大部を支配せしことありしが宗教改革三十年戦争の結果、帝國は割據の姿と成り、一時は約三百國を數へしと云ふ、ナポレオンの出づるやライン同盟は彼を盟長と仰ぎ、一八一五年にはドイツ聯邦と變じたり、其の時聯合せる邦國は三十五なりき、而して聯邦に於ける覇權の掌握に關して紛争ありしが、オーストリアは聯邦より除去せられ、プロイセン代て盟主と成るに至れり、爾來フランスとの戦争（一八七〇—七一）に依りて、アルサス、ロレーンを得しの外は大なる變化を見ず、又ドイツの殖民的擴張は一八八四年に始まりたり。

住民 男少國たるドイツの人口は五千六百三十六萬餘人、男女二七三七、七二四一にして、一方料に付き百四人なるが増殖率は八十年毎に二倍するの割合なり、住民の多數はドイツ人なるが七十八萬弱は外國人なりとす、而してドイツ人中にも北部のプロイセン人、南部のバイエルン人の如く歴史、慣習等を異にするものあり。

1、ドイツ人 五五五八、七六四二
2、外國人 七七、八六九八

オーストリア人	三七、一〇二二	ルクセンブルク人	一、三二六三
オランダ人	八、八〇五三	ベルシツク人	一、二二二二
イタリア人	六、九七六〇	スエリゲン人	九六三一
スウイス人	五、五四五六	ノルゲン人	二七二六
ロシア人	四、六九七一	ロマーニア人	一六一五
ダンマルク人	二、六五四七	トルコ人	一四五四
フランス人	二、〇四八二	ヨーロッパ諸國人	二〇一八
ハンガリア人	一、九八九二	アメリカ人	一、七八四八
イギリス人	一、六一七三	其他	三六六五
国籍不明人			八三八
合計			五六三六、七一七八

一九〇三年に於ける海外往住者は三萬六千三百十人にして、主としてブレメン（一、六六三九）、ハムブルヒ（一、〇九七五）の兩港を經過して、アメリカ（三、三六四九）に至れるが、一八九四—一九〇三年同國に往住せしものは二十六萬人に近し。

宗教 宗教上に於けるも、北、南、東の三部は各其の趣を異にせり、新教信者は其の數三千五百餘萬にして、北部并に中部に多く、舊教は其の數二千三十二萬餘人にし

て南部并に東部にあり。

新教	三五三、一一〇四	ユダヤ教	五八六八三三
カトリック教	二〇三二、一四四一	其他	一、七五三五
其他キリスト教	二二、〇二六五	合計	五六三六、七二七八

教育 教育は甚だ盛にして、各種の機關を具備せり、初等教育は強制的にして無月謝なるを本體とす、中等教育は「キムナジユム」其の他に於て與へられ、高等教育は二十一ヶ處の大學校を有せるが殊に學術上の進歩發明の著大なるを以て名あり、又若干の實業學校、專門學校、等ありて農、商、工を始めとし其の他各業の發達に資するもの多し。

程 度	校	教授、教諭、訓導	學生、生徒、兒童
初 等	五、九三四八 ^所	一一、四〇二七 ^人	八九二、四七七九 ^人
中 等	一三四〇	一一四五	一、四九八六
高 等	二一	三二四一	三八、〇二一〇

言語 言語中最も多く用ひらるるはドイツ語なるが、外國語も亦使用せられて、其の大部は、ポーランド語の占むる所なりとす。

母 語	一 語 使 用 者	二 語 (ドイツ語) 使用 者
ドイツ	五一八八、三三三 ^人	二五、二九一八 ^人
外國	四二二、一一二九	
ポーランド	三三二、八七五 ^一	一八、二一八四
フランス	二二、三五五 ^一	一、〇二一六
ダンマルク	一四、一〇六一	四二、一一二
チェヒ	一〇、七三九 ^八	一、〇三六七
リタウニア	一〇、六三〇 ^五	九二、一一四
エンザ	九、三〇三 ^二	二、三七七九
オランダ	八、〇三六一	四五一二
イタリア	六、五九三 ^〇	一、二三六
フリジア	二、〇六七 ^七	五五〇
イギリス	二、〇二一 ^七	二二二〇
其他	四、三八四 ^六	四四二八
世界地理		六二七
ヨーロッパ	中央部	ドイツ國

合計 五六二、四二六〇 二五、二九一八

政治 〇ドイツ國はドイツ皇帝の至高政府の下にある立憲國なり、行政權を始め條約の締結、宣戰媾和等の權は、皇帝に屬し、兵備財政、通商交通、司法等の如き聯邦全體に關する法律の制定はボンデスラット(Bundesrat)とライヒスタグ(Reichstag)との共に司る所なり、ボンデスラットは各邦より派遣せる五十八人の全權委員より成りて、ライヒスタグは一般の投票に依りて選出したる三百九十七人の代議士より成れり、聯邦は一大國、四中國、二十小國より成りて、エルサス・ロートリンゲンは別に一の帝國領土を爲せり。

國	名	地積	人口	一平方 里に
王	プロイセン (Preußen)	三四、八六五八 ^カ	三四四七、二五〇九 ^人	九九
	バイエルン (Bayern)	七、五八七〇	六一七六〇五七	八一
	サクセン (Sachsen)	一、四九九三	四二〇、二二一六	二八〇
	キールテンベルク (Württemberg)	一、九五一四	二二六、九四八〇	一一一

大	公	國	公	國	侯
バーデン (Baden)	一、五〇八一	一八六、七九四四	一二四		
ヘッセン (Hessen)	七六八一	一一一、九八九三	一四六		
メクレンブルグ・シュエリン (Mecklenburg-Schwerin)	一三、一二七	六〇、七七七〇	四六		
サクセン・ワイマル (Sachsen-Weimar)	三六一七	三六、二八七三	一〇〇		
メクレンブルグ・ストレルツ (Mecklenburg-Strelitz)	二九三〇	一〇、二六〇二	三五		
オルデンブルグ (Oldenburg)	六四二七	三九、九一八〇	六二		
ブラウンシュヴァイク (Braunschweig)	三六七二	四六、四三三三	一二六		
サクセン・マイニンゲン (Sachsen-Meiningen)	二四六八	二五、〇七三一	一〇二		
サクセン・アルテンブルク (Sachsen-Altenburg)	一三、二四	一九、四九一四	一四七		
サクセン・ゴットア (Sachsen-Coburg und Gotha)	一九七七	二二、九五五〇	一一六		
アンハルト (Anhalt)	二二九九	三一、六〇八五	一三七		
シュwarzブルグ (Schwarzburg)	八六二	八〇、八九八	九四		
シュwarzブルグ・ルンスタット (Schwarzburg-Rudolstadt)	九四一	九三、〇五九	九九		

世界地理 ヨーロッパ 中央部 ドイツ國

國	自 由 市		
ワルデック (Waldeck)		1111	57918
ロイス兄弟派 (Reusz Älterer Linie)		317	68396
ロイス兄弟派 (Reusz Jüngerer Linie)		827	139210
シュウムブルロリッペン (Schumburg Lippe)		340	43132
リッペン (Lippe)		1215	138952
リッペン (Lippe)		298	96775
ブレンメン (Bremen)		256	22482
ハンブルグ (Hamburg)		415	768349
エルザス・ロートリンゲン (Elsasz Lothringen)		14513	1719470
聯邦		540743	5636718
			118
			104

六三〇

兵備 世界屈指の強國にして、陸兵は平時に六十萬六千人なるが、戦時には五百萬人を得べしと云ふ、海軍には百二十六隻、五十萬九千餘噸ありて、建造中のもの少

なしとせず、財政に就きて一九〇四—〇五年度に於ける歳出入は二十億三千七百五十一萬マルク餘の豫算なり。

生業 一八九五年の調査に従へば千人中三五五、五は工業に従事し、三四九、〇は農業、一一五、二は商業を營むが、ドイツ人が學理の應用に依りて、自國の生産力を利用し、以て比較的に多量の物品を製品するは實に驚嘆するに餘あり、南部并に中部の森林、十三萬方籽は保存培養上、世界第一と稱せらる、地味は佳良なるに非ざるも、智識と人工とは斯業をして今日の盛況を呈せしむるに至れり、而して耕、耘業の最も發達せるは北部、東部に於て殊にシレジエン、サクセン地方を以て然りとす、穀類には小麦、燕麥、大麥等あるが、多量の馬鈴薯は穀類の不足を補ふて餘あり、コンスタント湖沿岸の地、エルザス、其の他、ライン河畔の地は葡萄を産し、アンハルト、ブラウンシュヴァイヒ、サクセン、シレジエンは甜菜の産地としてヨーロッパ第一と稱せらる、氣候は、牧業の發達を助くるを以て、六萬方籽の艸圃は多數の畜類を飼養せり、バイエルン、オルデンブルグ、シッレスキヒルホルスタインに千五六百萬頭の牛あり、東プロイセン、ハンノーフェル、メクレンブルグに四五百萬の馬あり、プロイセンに二千五百

萬の羊あり、採鑛業は近來長足の進歩を爲して、ライン河、サクセン、シレジエン等の地方に石炭、鐵を産し、エストフアーレン、ハンノーフェル、サクセンに銅を出だし、ライン河、シレジエン地方に鉛、亜鉛を出だせり、イセルローヌ、レムシアイド、ツイスブルグツリゲンは金屬器の製作に従事す、殊にエッセンのクルップ製作場は其の名世に知らる、ステッチン、キール、アルトナに造船場あり、サクセンは陶器を作り、エルベルフェルド、ケルンは綿布を織り、クレフェルド、バルメンは絹布を製す、貿易は一九〇三年に於て輸入に六十三億餘、マルクありて輸出に五十一億餘、マルクあり。

年	輸 入		輸 出	
	貨物	貴金屬	貨物	貴金屬
一九〇九	五、八三〇、九六	三、〇五三、二	五、七、八三六、二、八	四、三〇七、四九
一九〇〇	五、七、六五、一、四	二、七三三、七、八	六、〇、四三九、九、二	四、六、一一、八、一
一九〇一	五、四、二二、三、五	二、八九一〇、三	五、七、一〇三、八	四、四、三、四、八
一九〇二	五、六、三三、〇〇	一、七、四七七、六	五、八、〇五七、六	四、六、七、七、八、五
一九〇三	六、〇、二六、八、八	三、一、八四、五、八	六、三、二、二、四、六	五、〇、一、四六、三、四
	計		計	
	五、七、八三六、二、八	三、〇五三、二	五、七、一〇三、八	四、三〇七、四九
	六、〇、四三九、九、二	二、七三三、七、八	六、〇、四三九、九、二	四、六、一一、八、一
	五、七、一〇三、八	二、八九一〇、三	五、七、一〇三、八	四、四、三、四、八
	五、八、〇五七、六	一、七、四七七、六	五、八、〇五七、六	四、六、七、七、八、五
	六、三、二、二、四、六	三、一、八四、五、八	六、三、二、二、四、六	五、〇、一、四六、三、四
	計		計	
	一、六、三、六、〇	一、六、三、六、〇	一、六、三、六、〇	一、六、三、六、〇
	一、四、二、三、〇	一、四、二、三、〇	一、四、二、三、〇	一、四、二、三、〇
	八、一、九、八	八、一、九、八	八、一、九、八	八、一、九、八
	一、一、二、二	一、一、二、二	一、一、二、二	一、一、二、二
	二〇〇、一	二〇〇、一	二〇〇、一	二〇〇、一
	八、七、七	八、七、七	八、七、七	八、七、七
	一、五、五	一、五、五	一、五、五	一、五、五
	九、四	九、四	九、四	九、四
	三九六〇、二	三九六〇、二	三九六〇、二	三九六〇、二
	二七、一	二七、一	二七、一	二七、一
	二五三、二	二五三、二	二五三、二	二五三、二
	七六、〇	七六、〇	七六、〇	七六、〇

輸出入國に就きて記せば。

	輸 入		輸 出	
	貨物	貴金屬	貨物	貴金屬
自由港	二、三、二	九、八、一	六、三、四	三、七、六
イギリス	八、三、三、五	九、八、七、七	八、八	七、〇
オランダ	一、九、四、二	四、一、八、四	一〇、五	三、五、五
ベルジック	二〇七、四	二、六、八、〇	一一、二	八、〇
フランス	三、三、八、〇	二、七、一、九	二〇〇、一	一、三、六、一
スウイス	一、七、一、八	三〇四、一	八、七、七	五、八、二
オーストリア	七、五、四、八	五、三〇、六	一、五、五	二、四、四
ハンガリア	七、七、三	一、四、九、七	九、四	九、九
ダンマルク	二、一、六	六、二、七	三、九、六〇、二	三、九、五三、二
ノルゲ	九〇、一	一、三、二、三	二、七、一	一、四、六
スエリゲ	八、四、一、七	四、一、三、〇	二、五、三、二	七、六、〇
ロシア				
	六三三	六三三	六三三	六三三

世界地理

ヨーロッパ

中央部

ドイツ國

海峽殖民地	二二、三	一一、五	中央アメリカ	六三、四
オランダ東印度	九二、三	二一、八	西印度ギアナ	三〇、三
支那	三四、八	四四、七	ベネズエラ	三〇、五
日本	二一、六	四四、七	ブラジル	一〇、四
其他アジア	一四、六	四五、六	ウルグアイ	一三、二
エジプト	五七、一	二〇、八	アルヘンチナ	一五、一
イギリス西アフリカ	四二、八	二二、七	チレー	二七、〇
イギリス南アフリカ	二九、二	六、二	其他アメリカ	九、五
其他アフリカ	四四、二	四一、六	イギリスオーストラリア	三〇、九
イギリス北アメリカ	九、七	一九、五	其他	一一、二
アメリカ	九四、三	三五、八	ドイツ殖民地	一、二
メキシコ	一四、五	四六、九	合計	七、三
		三六、五		五、三

一九〇一—〇三年の貨物貿易に就きて分類するに百萬マルクを單位とすれば

貨物	一九〇一	一九〇二	一九〇三
	輸入	輸出	輸入
食料品	一七二、〇	四三三、〇	一七二、七
畜類	一八八、〇	一九一	二四一、六
原料品	二四五、八	一〇八、六	二五五、九
製造品	一〇六、二	二八九、二	一一〇、二
貨物	五四二、二	四四三、一	五六三、〇
		四	四六七、八
			六〇〇、七
			五〇一、四

一九〇三年の主要貿易品を示せば輸出に化學製品三九七百萬マルク、鐵器三二六
 (一)綿布三〇二、石炭二七二、器械二五三、毛織物二四四、鐵二三二、砂糖一八九、絹物一六
 (二)皮革一四九、被服一二九、等ありて輸入に穀類六五三、實綿四三三、生毛三六八、皮革
 (三)五三、木材二一六、家畜二〇四、種子一六一、石炭一六〇、生絲一六〇、珈琲一四六、果物
 (四)三二、化學品一一七、鶏卵一〇八、銅一〇六、鐵一〇五、等あり。

船舶出入の状況を記述せんに出入船舶を國旗別にすれば、

世界地理 ヨーロッパ 中央部 ドイツ國

旗	入之部		出之部	
	隻數	噸數	隻數	噸數
ドイツ	六八九三五	二〇八二〇	六一八四、九五四六	二〇七三四
外國	二〇八二〇	八二、九一六八	二〇七三四	八〇九、四六二四
合計	八、九七五五	一九九七、八七一四	九〇一五三	一九八九、五八七〇

而して一八九九年以來の商船の増加を表示すれば、左の表を得。

年次	海上船		汽船	
	隻數	噸數	隻數	噸數
一九〇三	四〇四五	三三〇、三六〇	一五四五	一六三、三四三九
一九〇二	三九五九	二〇九、三〇三三	一四六三	一五〇、六〇五九
一九〇一	三六八三	一四、一六四五	一三九〇	一三四、七六七五
一九〇〇	三七五九	一七、七九八	二九三	一五、〇一五九
一八九九	三七三三	一六、九五三	二二三	一〇、八三九二

ハンブルグはクックスハーフェンと相待ちて世界屈指の商港を爲し、ブレメンはブレメルハーフェンを以てドイツ第二の商港たり、其の他ステッテン、キール、ダンツィヒ、リッベック、ケニグスベルグ等の各港も亦盛なり。

鐵路の延長は五萬五千餘軒國有、五、〇一八五に達し、内部の航路は二萬七千軒の長さを有す、殊に、フランス、プロッセルとキールとの間に於ける運河は東、北の二海を連絡するに至れり、又郵便は三萬八千餘の局を有し、電線の長は十三萬七千六百七十七軒延長五十一萬一千七百三十六軒ありて、其の組織は極めて整備せり。

處誌。プロイセン Prussia はイギリス名をプロシヤ (Prussia) と云ふ、ドイツ帝國中に於ける最要の王國にして、北ドイツの殆ど全部、ホイヘンツォルン (Hohenzollern) 及び分散せる十三部より成りて、面積は三十五萬方軒に近く、實に帝國の約六割五分を占め、住民は三千四百四十七萬餘ありて、總人口の約六割に當れり、一方軒の住民は平均九十九人なりとす、種族に就きて凡そ二百五十萬人はポロランド人なるが、殘餘はドイツ人なり、而して信教上は新教徒二一八一、七五七七最も多く、ローマカトリック教徒二二一一、〇二九九之に次ぎ、教育は頗る進歩せり、當

地方にはブランデンブルグ侯國ありしが、一七〇三年王國と成り、フリードリヒ大王出でてより國土漸く強大を加へ、其の後ポーランドの分割等に依りて、領土の擴張せしこと少なからず、ナポレオン時代には憐むべき境遇にありしも、ワーテルロウ戦役の後、先に失ひし地を恢復し、爾來國運隆盛にしてオーストリアに代りてドイツの覇權を握り、プロイセン王は代々ドイツ皇帝たるに至れり。

プロイセンは世襲王國にして立法權は貴族院 (Herrenhaus) 及び代議院 (Haus der Abgeordneten) の二院より成れる議會 Landtag 之を握り、行政權は外務、法務、内務、海軍、陸軍、宗教、及び教育、財務、農林、商工、土木の諸長官より成る内閣に委ねらる、而して地方は、一都區十三州に分たれ、各州は若干の縣より成れり。

州	縣	地積	人口	方付	首府
東プロイセン	二	三、六九九四	一九九、六六二六	五四	ケニグスベルヒ
西プロイセン	二	二、五五三五	一五六、三六五八	六一	ダンツィヒ
ベルリン	一	六三	一八八、八八四八	一	

ブランデンブルグ	二	三、九八三八	三一〇、八五五四	七八	ベルリン
ポンメルン	三	三、〇一一一	一八三、四八三二	五四	ステットチン
ポーゼン	二	二、八九七一	一八八、七二七五	六五	ポーゼン
シャレジェン	三	四、〇三一九	四六六、八八五七	一一六	プレスラウ
サクセン	三	二、五二五五	二八三、二六一六	一一二	マグデブルヒ
シワレスキヒ	一	一、九〇〇四	一三八、七九六八	七三	アルトナ
ホルスタイン	六	三、八五一一	三五九、〇九三九	六七	ハンノーフェル
ハンノーフェル	三	二、〇二一一	三一八、七七七七	一五八	ミンスタール
エストフーレン	二	一、五六九九	一八九、七九八一	一一二	フランクフルト
ヘッセン＝ナッサウ	五	二、六九九五	五七五、九七九八	二二三	ケルン
ラインランド	一	一一四二	六、六七八〇	五九	ヘーリングゲン
プロイセン王國		三四、八六五八	三四四七、二五〇九	九九	ベルリン

ベルリン (Berlin) (一八八、八八四八) 東經一三度三十分一七秒、北緯五十二度三〇分一七秒、地味礪確なる平野の

中にありて、エルベ河の支流ルベルに注ぐスブレア河に跨れり、ブランドンブルグ大侯の建設に係る一小都會なりしが、近代に至りて迅速の進歩（住民八二、一五七、一四〇、一五七、八七九、四二、八九〇〇年）を爲して、遂に今日の隆盛を見るに至れり、街衢は端麗にして道路は廣濶、商業工業共に繁榮し、學術上の淵藪にして、ドイツの帝都、プロイセンの王都たるのみならず、世界政治の中心なり、ブレスラウ(Breslau)四二、二七〇九（東經一七度二分一五秒、北緯五一度六分五秒）は、シャレジエンに於ける工業地にして、オーラウ(Ohau)とオーデルとの合流地に位せり、油類、煙草、鞣皮等を製す、ケルン(Köln)三七、二五二九（即ちコロニー(Cologne)はライン河の左岸に瀕す、古名をコロニアアグリピネンシス(Colonia agrippinensis)と云ひ、歴史上有名の地にして、蒸溜業に従事するが商業も繁昌す、軍府の一として知らるるが大寺院は殊に著名なり、フランクフルト(Frankfurt am Main)二八、八九八九（東經八度四分一五秒、北緯五〇度六分四三秒）は、ケルンの南東、マイン河畔に位し、建築物博物館を以て知らるるが金融上若しくは貨物集散上の一大中心なり、附近に繁榮の地多く、諺に北のエッチラウ(Wetzlar)はフランクフルトの倉庫、西のラインガウ(Rheingau)は穴倉、東のマイニングアウ(Maingau)に木石を仰ぎ、南のゲラウ(Gerau)は

庵廡たりと稱せらる、ハンノーフェル(Hannover)二二、五六四九（東經九度四分二〇秒、北緯五二度二分二〇秒）即チハノーバー(Hanover)は舊と同名の王國の都府たりし處なり、製鐵紡織に従事す、マグデブルグ(Magdeburg)二二、九六六七（東經一一度三八分四五秒、北緯五二度八分四秒）は、エルベ河畔の軍府にして、毛布砂糖を製す、デュッセルドルフ(Düsseldorf)二二、三七一一（はケルンの北北西、ライン河の岸にありて、屈指の河港たるのみならず、冶金業の中心たり、ステッテンStettin)二二、〇七〇二は、オーデル河に沿ひ一の港を有す、麥粉の集散地にして商業繁榮す、ケニグスベルヒ(Königsberg)一八、九四八三（東經二〇度二分四七秒、北緯五四度二分二八秒）は、プregel河を帶ぶ、軍府の一なるが、大學校は有名なり、農産を集散し、各種の工業に従事す、シャルロテンブルグ(Charlottenburg)一八、九三〇五（は王城の地にして、砲工學校あり、冶金製藥に従事す、エッセン(Essen)一八、二一〇〇は、ルール煤田の中心にして、製鐵に従事す、有名のクルップKrupp會社は此の地にあり、アルトナ(Altona)一六、一五〇一は、シャレスキヒルホルスタインにありて、エルベ河に瀕する商港なり、エルバールド(Eilenfeld)一五、六九六六は、デュッセルドルフの東北東に位し、綿布、絹布、染物の産あり、ハルレー(Halle)一五、六六〇九は、ザアレ河に瀕す、食鹽、石炭を産し、車輛、器械、

ール等を製す、殊に大學校を以て名を知らる、ダンツィヒ(Danzig)一四七〇三二(東經三九分五四秒、北緯五十四度二分一八秒)は西プロイセンの商港にして、ビスチャラ河に臨み、木材、酒精を輸出す、要塞地の一たり、ドルトムント(Dortmund)一四二七三三三はケルンの北北東に於ける鑛業地なり、製鐵業亦盛なり、バルメン(Barmen)一四一九一四はライン地方に於ける鑛業地に於ける「リボン」の一主産地なり、アアヘン(Aachen)一三三二四五はエクストラシヤル(Aix-la-Chapelle)とも稱す、ケルンの西、微南、石炭の産地にあり、シャルルマーギヤの帝國の舊都にして、毛布、機械、針類を産す、ゲルゼンキルヘン(Gelsenkirchen)一二九一八一はエストフアーレンにありて、石炭と鐵との爲に急速の進歩を爲せり、キール(Kiel)一二、一八二四(東經一〇度二分五五秒、北緯五十四度二分二八秒)は軍港の一にして、造船場、兵器廠等あり、商業亦盛なり、ポーゼン(Posen)一一七〇三三三はヘルリンの東に當る軍府なるが生毛の市場たり、クレフェルト(Krefeld)一〇九〇八四はライン河の左岸に近し、絹布、天鵝絨を以て名あり、カッセル(Cassel)一〇六〇三四(東經九度二分五五秒、北緯五十一度一分五八秒)はヘッセン、カッセル國の首都たりしことあり、毛織物器械類を製す、附近にキルヘルムホーへの名城あり、デュイスブルグ(Duisburg)九四一八五はデュッセルドルフの北にあり、石炭の集

散地にして、煙草、曹達等を製す、キースパーデン(Wiesbaden)八六一一(はナッサウ國の舊都の地なるが、タウヌス山の南斜面に位し、有名なる溫泉場たり、エルフルト(Erfurt)八五二〇二はチャリンシアの首都たりしことあり、ゲラ河畔の良耕地にあり、ケルリッツ(Golitz)八〇九三二はシレジエンにありて、クロース等を産す、ミンステル(Münster)七一〇九二はエストフアーレンにあり、織物、皮革等を製出す、ハーゲン(Hagen)六六六九九はルール煤田にあり、鑄物、綿絲を製す、ボーフム(Bochum)六五五五(はチャッセルドルフの北東に位し、鐵、鋼鐵等の製品を出す、スパンダウ(Spandau)六五〇七〇)はハーベルとスプレートの合流地に於ける軍府なり、ビーレフェルト(Bielefeld)六三〇四六はエストフアーレンに於ける亞麻布の集散地たり、フランクフルト(Frankfurt a. d. O.)六一八五二はベルリンの東南東、オーデルの右岸に位し、機械、金物等を製す、ポツダム(Potsdam)五九七九六はベルリンの南西、ハーベル河中の一島にあり、軍府の一にして、附近にサン、スーシー、其の他の城邸あり、アレクサンダー、フォン、フンボルトの生地たり、レムシайд(Remscheid)五八二〇三三はライン地方にありて、製鐵、製鋼に従事す、メンヘングラドバン(München Gladbach)五八〇二二三(はデュッセルドルフ

の西に於ける工業地にして紡績其の他の諸業に従事す、リীগニッツ (Liegnitz) 二五、四八八二はプロスラウの西、微北に位せる工業地にて附近のワールスタット (Waldstadt) は蒙古人が大捷を得し處なり、エルビング (Elbing) 五二、五一八はダンツィヒの東南東、航河に瀕し器械船舶等を製す、グライキッツ (Gleititz) 五二、三六二はオーデルの小支流に臨み鐵硝子等を製す、ブロンメルグ (Bromberg) 五二、二〇四はダンツィヒの南南西にありて砂糖、煙草等を製す、オスナブリック (Osnabrück) 五二、一五七三はハンノーフェルにあり製鐵、亞麻布の製造等あり、ボン (Bonn) 五〇、七三六はライン河に臨るめ地にて大學校を有す、リンデン (Linden in Hamm) 五〇、六二八は稍名を知らる、ブランデンブルグ (Brandenburg, d. Havel) 四九、二五〇はメルリンの西南西ハール河の譜にあり、羅紗、麻布、加工帛を産す、ハルブルグ (Halburg) 四九、一五三はエルベの下流に於ける商港なり、コブレンツ (Koblenz) 四七、五二六はライン、モゼルの合流地にあり、堅城を有す、右岸のエーレンブライスタイン (Ehrenbreitstein) 城と相俟ちてラインのジブラルタルと稱せらる、ソリゲン (Solingen) 四五、二六〇はデッセルドルフの東に位し製鐵業を以て有名なり、ミッセルハイム (Mittelheim a. Rh.) 四五、〇六二はケルンに近くして織

物、熟皮の産あり、トリール (Trier) 四三、五〇六はフランス名をドレーブ (Treyes) と云ふ、モゼル河の右岸にある舊地、ローマ時代のアウグスタ、トレビロラムなりにして工業に従事す、ヒルデスハイム (Hildesheim) 四二、九七三はハンノーフェルの南南東にありて砂糖、煙草等を産す、ハルムスタット (Halberstadt) 四二、八一〇は手套、煙草、ビールを製す、オーメルハウゼン (Oberhausen) 四二、一四八は冶金に従事す、コッブンス (Koblenz) 三九、三二二は羅紗、麻布を製す、レックリンゲンハウゼン (Recklinghausen) 三三、四〇一九は石炭を産す、チルシット (Tilsit) 三四、五三九はニエメン河に沿ひ近世史上著名の地なり、キッテン (Witten) 三三、五一一七はポツダムの南東にありて鑄物を製す、ミュールハウゼン (Mühlhausen i. Thür.) 三三、四二八は小工業地なり、グーベン (Guben) 三三、一一二はメランランブルグにあり帽子を産す、此の外牛馬の賣買を爲す、ノルムスナ (Forst i. d. Lausitz) 三二、一〇七五、鑄鐵に従事する、ハム (Hamm) 三二、一三七二、軍府の一たる、ストラズブント (Stralsund) 三二、〇七六、大學の所在地たる、グーテンゲン (Göttingen) 三二、〇二三四、セメントを製造する、オッペルン (Oppeln) 三〇、一一一二、等も多少名を知らる。

バイエルン

バイエルン (Bayern) は、ハンベリナ (Bavaria) とも稱せらる、ヘルサマシロ

レイン、プロイセン、バイエルン、オーストリア等と境を接し、バーデン及びヘッセンダルムシュタットに依りて大小の二部に分たれるが、面積七萬五千八百七十方料ありて、プロイセンに次げる大國なりとす。住民は六百十八萬人に近く、一方料に八十一人を見る。信教上はローマカトリック教徒、四三六、二五六三最も多く、新教を奉ずるものは百七十四萬九千餘なり。ポイイ、東ゴート、フランク等に依りて保たれし當地はシュールマーキヤに依りて侯國とせられ、一二一六年ライン、バラチネートを得て地を廣め、一八〇五年王國と成りしが、目下、上バイエルン、下バイエルン、プファルツ (Pfalz)、上プファルツ、上フランケン、中フランケン、下フランケン、シュワブーメン (Schwaben) の八區に分たれたり。

ミンヘン (München) 四九、九九三二二 北緯 四八度 一分 四十分 三秒 東經 一二度 三十分 三十一秒 は ドナウの支流、イザル河畔にあり、王國の首都にして建築、繪畫等を以て名を知らるるが、又「ビール」を醸造す。ニルンベルグ (Nürnberg) 北緯 四九度 二分 二六秒 東經 一一度 四分 四一秒 即ち ニルンベルグ (Nürnberg) は ミンヘンの北西に位し、南ドイツ屈指の市場なるが、樂器、時計、玩具品等を製す。アウグスブルグ (Augsburg) 八、九一七〇は ミンヘンの北西にあり、史上著名の地にし

て通商に従事す。キルツブルグ (Würzburg) 七、五四九九は、マイン河に瀕す、軍府の一にして醫料器械、煙草、家具等を製す。ルドキヒスハーフェン (Ludwigshafen) (六、一九一四) はライン河の左岸に位し、河港を備ふ、曹達「アニリン」等の産あり。フイルト (Firth) (五、四八二二) はニルンベルグの北西にありて、鏡類、化粧具を製す。カイザースラウテルン (Kaiserslautern) (四、八三一一) はウアルスの南西に當れる工業地なり。レゲンスブルグ (Regensburg) (四、六二一五) はラチスボン (Ratisbon) とも呼ぶ、ドナウの岸に建ちて、銅器、陶器、砂器等を産す。バムベルグ (Bamberg) (四、一八二二) はニルンベルグの北に位し、ビール、皮革、綿布等を産す。ホーフ (Hof) はサアレ河に瀕し、鐵器、綿布を製出す。ピルマゼンス (Pirmasens) (三、〇一九五) は靴、樂器を産す。附近の地は一七九三年プロイセン人がフランス軍を破りし處なり。

サクセン

サクセン (Sachsen) は一にサクソニー (Saxony) と云ふ、メーメン、シュレジエン、プロイセン、サクセン、サクセン諸國と境を接し、長さ約二百十料、幅凡そ百四十

五料あり、面積は一萬四千九百九十三方料を以て、ドイツ聯邦の第五に位するが、住民は四百二十萬餘を以て、第三に居り、一方料二百八十人なり、而して新教徒三九七

萬最も勢力を有するが、ローマカトリック教徒は二十萬に達せず、サクソン人は八〇四年に至りてシールマーギに征服せられ、ハインリヒ侯、フリードリヒ一世の頃より領土擴張せり、一四八五年皇室東西の二派に分かれ、カルル五世帝の時東派のみと成り、一三六〇年以來選舉侯たりし當國は一八〇六年王國に進み、ウィーン會議の爲に、國土の大部分をプロイセンに割かれたり、王國內は、バウツェン(Bautzen)、ケムニッツ(Chemnitz)、ドレスデン(Dresden)、ライプチヒ(Leipzig)、ツェツィカウ(Zwickau)に分たる。

ドレスデン(Dresden) 四八〇六五八 北緯五一度四十分 東經一十三度四十分 は人口稠密、地味肥沃なるサクセンの首都にして、バルリンの南東鐵路百八十七軒、エルベ河に瀕す、風色に富みて美術上有名なる處なり、金銀器、造花等を産す、ライプチヒ(Leipzig) 四五六一二四 北緯五一度二十分 東經一十二度三十分 は商業中心の一にして、書籍の出版を以て名を知らる、ドレスデンの西北西鐵路約百三十軒に位せり、ケムニッツ(Chemnitz) 一一四〇三〇 北緯五十一度二分 東經一十二度二分 はドレスデンの南南西、エルツゲビルゲの麓にあり、織物を製す、プラウエン(Plauen) 七六四七一 北緯五十一度二分 東經一十二度二分 はライプチヒの南、エルスター河畔にありて綿布、モスリン等を産す、ツェツィカウ(Zwickau) 六二一五六七 北緯五十一度二分 東經一十二度二分 はドレスデンの南西にある工業地なり、マイゼン(Meissen) 一一

一四三四はエルベの左岸にあり、鐵器械等を製造す、ツィタウ(Zittau) 三〇九二四 北緯五十一度二分 東經一十二度二分 はマンダウ河に沿ひ鐵の産地に位せる工業地たり、フライブルグ(Freiburg) 三〇一七五 北緯四十八度二分 東經八度二分 はエルツゲビルゲの北麓に位し、銀其の他の礦物を産す。

キールテンベルグ (Württemberg) 北緯四十八度二分 東經九度二分 はバーデン、バイエルン、スウイスと境し、面積一萬九千五百十四方軒に對して、約二百十七萬人の住民あり、一方軒百十一人と成る、新教を奉ずるもの百五十萬に近く、ローマカトリック教に屬するものは六十五萬餘あり、當地方は西紀第一世期に於てローマに従へられ、後アレマンニフランク等に征せられしが、一四九五年侯國と成り、ナポレオン戰爭の時王國に進み、大に領土を擴張せり、目下は行政上ネッカー(Neckar)、シワルトツル(Schwartz Wald)、ヤクスト(Jacht)、ドナウ(Donau)の四區に分たる。

シュットガルト(Stuttgart) 一七六六九九 北緯四十八度四分 東經九度二分 はネッカー河に近く、豊饒の地に位して、王國の首都たり、建築物、博物館を以て著はれ、飾具、ピアノを製す、ウルム(Ulm) 四二九八二 北緯四十八度二分 東經九度二分 はドナウに瀕す、軍府の一にして、ビール、綿布、毛布等を産す、ハイルブロン(Hellbronn) 三七八九一 北緯四十八度二分 東經九度二分 はネッカーの右岸にあり、花卉を栽培す。

バーデン

バーデン Baden) は、エルサツス、ロートリンゲンとキルテンベルグとの間にあり、バーデン湖に於ける部分一八一を合はせて、面積一萬五千二百六十二方
 糶あり、住民は約百八十七萬人にして、一方糶百二十四人の割合とす、而して、百十三
 萬餘人はカトリック教に屬せり、カルルスルーヘ(Karlsruhe) 九七一八五〇北緯四九度三
八分は大公國の首都にして、建築物に見るべきものあり、マンハイム(Mannheim)
 二四、一三二はラインの右岸に位し、市街殊に端麗なり、軍府の一にして、兵器、鏡、煙
 草、鐵等を製す、フライブルグ(Freiburg) 六一五〇四は黒林山脈の西端に位し、大學校
 の所在地にして、綿布、綿糸等の産あり、プフルツハイム(Pforzheim) 四三三五二は金銀
 器、羅紗を製す、ハイデルベルヒ(Heidelberg) 四〇二二二はバラチナの舊都の地にして
 ネッカーの左岸に位し、大學を有するが書籍、煙草等を製す。

ヘッセン

ヘッセン(Hessen) 即ちヘッセ(Hesse) は南北の二部并にバーデン及びプロ
 イセンの領土を以て圍まれたる十一ヶの地より成り、面積七千六百八十一方糶あ
 り、住民は百十二萬に近く、一方糶百四十六人の平均なるが、新教徒七五萬に次げる
 は、ローマカトリック教三四なりとす、當國が大公國と成りしは一八〇六年のとなる

か、一八六六年地をプロイセンに割さし、こと少なからず、ダルムシュタット(Darmstadt) 七
 二三八一はフランクフルトの南に位し、化學品、帽子等を製す、マインツ(Mainz) 八、四
 二五一はラインの左岸に於ける軍府なり、航海上の要區にして、酒類、穀類を集散す、
 グレーテンベルヒは此の地の入なり、オフエンバッハ(Offenbach) 五〇四六八はマイン河に
 沿へる工業地にして、皮革、飾具を製す、ウオルムス(Worms) 四〇七〇五はライン河の左
 岸に於ける舊市にして、宗教史上著名の區なり。

メクレンブルグ・シュエリン

メクレンブルグ・シュエリン Mecklenburg-Schwerin) は
 バルト海に瀕す、面積は一萬三千餘方糶あるも、住民は六十萬餘にして、一方糶四十
 六人に過ぎず、シュエリン(三、八六七二)は當國の首都なり、ロストック(Rostock) 五、四七三
 五はシュエリンの北東、バルト海に瀕して、繁華なる港を有す。

メクレンブルグ・ストレルリッツ

メクレンブルグ・ストレルリッツ Mecklenburg-Sterlitz) は
 隔離せる二部より成りて、面積二千九百三十方糶、住民十萬餘人、一方糶の住民は三
 十五人なり、首邑をノイストレルリッツ(Neustrelitz) 二、二三四〇と云ふ、ムルリンの北北
 西にあり。

オルデンブルグ

オルテンブルグ(Oldenburger)はオルテンブルグ、リムスタ(Lübbeck)ビルケンフェルト(Birkenfeld)の三部より成りて、面積六千四百餘方秆、住民約四十萬、一方秆六十二人なり、首府オルデンブルグ(二、六七九七はブレメンの西北西に當れり、軍府の一たり。

ブラウンシュワイヒ

ブラウンシュワイヒ(Braunschweig)即ちブルンズウィク(Brunswick)公國は三大部五小部より成り、三千六百七十餘方秆の地積と四十六萬餘の住民とを有し、一方秆の住民は百二十六人なり、首都をブラウンシュワイヒ(Braunschweig) (二、二八二二六)と云ふ、ベルリンの西南西にあり。

サクセンワイマール

サクセンワイマール、アイゼナハ(Sachsen-Weimar-Eisenach)は三大部より成りて、三千六百七十七方秆の面積を有し、住民は三十六萬餘人、一方秆百人の割合なり、首府ワイマール(Weimar) (二、八四八九は學術界の一中心たり、アイゼナハ Eisenach) (二、一五八〇)はワイマールの西に位す、イェナ(Jena) (二、〇六八六)に大學あり。

サクセンマイニンゲン

サクセンマイニンゲン(Sachsen-Meiningen)は地積二

千五百方秆に達せず、住民は總計二十五萬餘人、一方秆百二人の割合なり、首邑をマイニンゲン(二、四四八三と云ふ、エーゼルの支流エルラ河畔にありて風色に富めり。

サクセンアルテンブルグ

サクセンアルテンブルグ(Sachsen-Altenburg)は二主部及び數小部より成り、地積一千三百餘方秆、住民十九萬餘人、一方秆百四十七人の割合なり、アルテンブルグ(三、七一一〇)はライプチヒの南に位し、ブラシ、毛布等を産し、木材穀類を集散す。

サクセンコブルグゴタ

サクセンコブルグゴタ(Sachsen-Coburg und Gotha)は二主部數小部より成り、地積約二千方秆、住民凡そ二十三萬人ありて、一方秆百十六人の割合なり、コブルグ(二、〇四六〇)は當國の首府にしてイツ河畔にあり、ゴタ(三、四六五) (北緯一〇度五五分三秒、東經一〇度四二分三九秒)はコブルグと更代に當國の首府にして工業地なるが、此の地に、ユスノスベルラス(Justus Perthes)地理協會あり、アルマナードゴター(Almanach de Gotha)地學年鑑其の他の出版に従事す。

アンハルト

アンハルト(Anhalt)はプロイセンサクセンの爲に二大部と五小部とに分たる、面積凡そ二千三百方秆、住民三十二萬弱ありて、一方秆百三十七人の割

合なり、首府デッサウ(Dessau)五〇八四九はエルベ河とムルデ河との會點に近し、砂糖、毛布等の産あり、モーゼスマンデルスゾーンの生地たり、ベルンブルグ(Bernburg)(三)四四三二はサアレ河畔にあり、機械、砂糖等を産す。

シワルツブルグゾンデルスハウゼン

シワルツブルグゾンテルハウゼン

(Schwarzburg-Sondershausen) 侯國はドイツの中部に位し、地積八百六十二方糎に過ぎざるが、二部に分かる、住民は四萬餘ありて一方糎九十四人なり、首邑をゾンデルスハウゼンと云ふ、エルアルトの北に位し、人口七千餘を有するのみ。

シワルツブルグドルスタット

シワルツブルグドルスタット(Schwarzburg-Rudolstadt) 亦二部より成る小侯國にして九百四十一方糎、九萬三千餘人を有し、一方糎に付き九十九人の平均なり、首邑はルドルスタット(二、二四〇五)なり、ワイマールの南にあり。

ワルデック(Walddeck)は亦二部に分かる、が、地積一千百餘方糎、人口五萬八千弱ありて一方糎五十二に止まれり、首邑アロルゼン(Arolsen)はアロル河に沿ひ、其の住民は三千人に達せず。

ワルデック

ワルデック(Walddeck)は亦二部に分かる、が、地積一千百餘方糎、人口五萬八千弱ありて一方糎五十二に止まれり、首邑アロルゼン(Arolsen)はアロル河に沿ひ、其の住民は三千人に達せず。

ロイス兄弟派

ロイス兄弟派(Rensz Alterer Linie)が弟派との間に、領土を二分せしは、一六六六年にあり、而して兄派の地積は三百七十七方糎にして七萬弱の人口を有するが、首邑はグライツ(Greiz)(二、二三四六)と稱せられ、ライプチヒの南南西七十六糎に當れり。

ロイス兄弟派

ロイス兄弟派(Rensz Jüngerer Linie)は八百二十七方糎の地積と十四萬弱の住民とを有せり、首都ゲラ(Gera)(四、五六三四)は白エルスター河に沿ひ、織物、機械等を産す。

シヴァンブルグリップス

シヴァンブルグリップス(Schauenburg-Lippe)はエストフーレンと、ハンノーフェルとの間に位す、面積三百四十方糎、住民四萬三千餘なるが、首邑ビッケブルグ(Bickeburg)は僅に五千六百餘の人口を有せり。

リップス

リップス(Lippe)は略ぼエーセル河とトイトブルグワルド山脈との間にありて、一千二百十五方糎の地に對して十四萬弱の住民あり、一方糎百十四人と成る、首邑デトモルド(一、一九六八)はハンノーフェルの南西、エルレ河畔にあり。

リッベック

リッベック(Libbeck)は三自由市の一なり、バルト海を距る十九糎、トラフェ

Elbe河に於ける主商港たり、地積二百九十八方秆なるも人口は九萬七千に近く、往
ハンセン同盟の首府たりしリッペック市(八、二〇九八)は一一四三年建設せられて、フ
リードリヒ二世の時、自由市とせられたり。

ブレメン

ブレメン(Bremen)はエーゼル河に沿へり、地積は二百五十六秆にし
て住民は二十二萬餘あり、ドイツ第二の商港として、アメリカ合衆國との交通盛な
るが、殊に帝國移民の出發地として名あり。

ハムブルグ

ハムブルグ(Hamburg)はドイツの一國たり、面積約四百十五方秆
ありて、住民は七十六萬餘あるが、ハムブルグ市(七〇、五七三八)北緯五三度二三分七秒
東經九度五八分二七秒
はエルベ河に瀕し、其の河口より一百二十秆、ベルリンの北西二百八十五秆に位す、
市街は清潔にして建築壯大、商業極めて盛にして世界第一流の貿易港なり。

エルサツスロートリンゲン

エルサツスロートリンゲン(Elsasz-Lothringen)はフラ
ンス名をアルサスロレーヌ(Alsace-Lorraine)と云ふ、ドイツの帝國領土(Reichsland)にし
て、東はバーデン、南はスウイス、西はフランスと接す、長さ百九十八秆、幅三十五乃至百
六十九秆ありて、地積一萬四千五百十三方秆あり、ライン河は東境を流るゝこと百

八十五秆なるが、此の外にモーゼル河の流るゝあり、ライン河畔に於ける平地幅十
四乃至二十七秆は西に至りてポージュ山脈と成るも、ロートリンゲンは四百米突に
達すること稀なり、當地方はゲーザルの時に於てはケルト派の人民の占居する處
たりしが、十世紀に及びてドイツ帝國の一を爲せり、一六四八年のエストファーレン
ン條約に依りて其の一部はフランスに割かれ、殘餘はルイ十四世の爪牙を蒙り、一
六九七年のライスキック條約を以て全部フランスの手に移りしが、一八七一年のフ
ランクフルト條約は再び之をドイツの手に收めしめたり、下エルサツス(四七八五方
秆)上エルサツス(三五〇五)ロートリンゲン(六二二三)の住民は合はせて百七十二萬に
近く、一方秆百十八人の割なるが、信教上カトリック教徒(一三一萬)最も多し。

ストラスブルグ(Strasbourg)一五、一〇四一北緯四八度三五分
東經七度一分はライン河の左岸を
距る三秆餘、パリーの東、百八十秆に位す、軍府の一なるが商業盛にして、ビールの
醸造等に從事す、ミルハウゼン(Mülhausen)八、九一一八はストラスブルグの南南西に
あり、綿布、麻布を産す、メツ(Metz)五、八四六二北緯四九度七分三四秒
東經六度一分三七秒はモゼル河に
瀕する軍府なり、又製鐵業の中心たり。

殖民地。ドイツ國の主權の下に置かるゝ土地にして、ヨーロッパ以外にあるものは左表の如し。

地名	面積	人口	平方付	白人
アフリカ洲	二三五、二〇〇 <small>カ</small>	一一四、四七〇、〇〇〇	五	六七、五七〇
トランド	八、七二〇	九〇、〇〇〇	一〇	一六八
カメルン	四九、五〇〇	三五〇、〇〇〇	七	六七〇
南西アフリカ	八二、三五〇	二〇〇、〇〇〇	〇・二	四六八二
東アフリカ	九四、六五〇	六八四、七〇〇	六	一一、三三七
オセアニア洲	二四、三八一・九	四四、八〇〇	一・七	一〇、三一
新ギネア	二四、〇八二・六	四〇、〇〇〇	一・七	五七三
マルシャル	四〇・五	一、五〇〇	三七	七七
サモア	二五・八	三、二六二	一二	三八一
膠州灣	五五・二	一一〇、〇四一	二・七	三七三五

合計	二五九、六六〇	一一〇〇、〇〇〇	五	一一、五二三
----	---------	----------	---	--------

エステルライヒ・ウングルン君主國

境域。エステルライヒ・ウングルン君主國 (Österreichisch-Ungarische Monarchie) 即ちオーストリア・ハンガリアは中部ヨーロッパに於ける強國の一にして、境界は南東のアドリア海に瀕する部分を除くの外、其の他は悉く陸地にして列國の間に介在せり、而して境を接する諸國を列擧すれば、南西にイタリアあり、西にスウイスあり、北にドイツ國のバイエルン、サクセン、シレジエンあり、北東並に東にロシアあり、南東にロマーニアあり、南にスルビヤ、トルコ、モンテネグロ等あり。

東西千二百九十軒にして南北は八百軒なるが、面積は六十二萬六千軒なれば、我が國の一倍半に相當す、然れども地貌は佳良ならずして、一國を組成するの地理的單一性は全く之を缺けり、國土の主要部はドナウ河の流域に當れるも、中流以上の地なるを以て、外海に通ずることなし、而して、アドリア海に於て七百軒の海岸線を

有するも交通上の便益を供するは僅にトリエスト、ピウメの二港あるのみなり、又地角の著しきは、プンタ・デ・プロモンテ (Punta de Promontore)、プンタ・デルラ・プランカ (Punta della Placca) として、島嶼はケルソ (Cherso)、ヴェグリア (Veglia)、パゴ (Pago)、グロサ (Grossa)、ブラザ (Brazza)、リッサ (Lissa) 等を以て主とす。

地勢 山脈は何れも外邊にあるが配置は均一ならず、西方に於けるアルプ山脈並に東方に横たはるタトラ、カルパット、後シルバニアの山脈は顯著なるも、北西より北に亘れるヘーメン、エルツゲビルゲ、ステーテンの諸脈は概して高丘を爲すに過ぎず、南部に於ける隆起帯は平原を距るに従ひて其の高度を増加せり、又此等の山脈に圍繞せらるゝ内部の平野は湖底の地にして、起伏に乏しく地味肥沃なり。

山誌 主要なる山岳を表示すれば左の如し。

- オルトレル (Orler) (三九〇二) オルトレルアルプ、グロス、グロツネル (Gross-Glockner) (三七九八) ホーヘタウエメン (Hohe Tauern) キンドスピツ (Wildspitz) (三七七四) ホツターレルアルプ (Ötztal Alps) シロックスネヂダネル (Gr.-Venediger) (三六六〇) ホーヘタウナルン、ホッホファイトラー (Hochfeiler) (二五二二) シン

ラータレル アルプ (Zillertaler Alpen) シンツェンツァナ (Cima di Vezana) (二一九一)

バラグロツペ (Palagruppe) ホフネッケ (Hofnecke) (二〇六一) ホーヘタウエメン

バルサイエルスビツ (Parseierspitz) (二〇三四) 北チロルカルクアルプ、ダハスタイン (Dachstein) (二九九八) ザルツカンメルグート (Salzkammergut)

水誌 河流の主要なるものは、ドナウ河及び其の支流にして、黒海斜面に屬せるが、此の外にアドリア海、北海、バルト海等に入るものあり。

黒海斜面 ドナウ インマルチ、ドラ ドニエスチル エサエタイス

アドリア海斜面 エチ (Etsch) スコバ (Sobba)

北海斜面 エルム

バルト海斜面 オーデル ピスチャラ

河、湖は要用なるもの少なし、就中稍鹹味を帯へるバラトン、プラッテン湖を最大とす、而してノイシードレル (Neusiedler) ツルタニツ (Zirknitz) の如きは湖の水時に消失することあり、南西の國境に於けるガルダ (Garda) コモ (Como) は寧ろイタリアの所屬と云ふべきなり。

氣候[○] 地形の錯綜して不整備なるエステルライヒウングアルンをして單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處寒暑の差の大なるの一事なり寒暖計が夏季に三十四度餘に昇りて冬季に零下三十四度以下に降るが如きとは敢て稀なりとせず要するに此の國の氣候は大陸的なり殊にウングアルンの平野にありては氣温の昇降著しく四季の差別極めて判然たり、ベールメンウングアルン、ガリシエン等の平低の地に於ては冬は嚴寒に苦み夏は酷暑堪へ難し、アルプ、カルパット等の山地又はクライン、クロアシエンの高地に於ては氣温の平均は下降するも寒暑の差は減縮して變化少なく濕氣は大に其の度を増せり而してアドリア海沿岸に於ては地中海的氣候を有し寒烈風ボルラの吹き荒まざる時は冬季と雖も溫暖を覺ゆ夏季は暑氣強く殊にシロコ風の吹き來る時は炎熱灼くが如し又降雨の最も多きは山地の高處と沿海の地方なりとす。

沿革[○] エステルライヒは七九六年に設けられたるシアルマーギヤ帝國の東境州に起る、一一五六年公國に進み、ハプスブルグ家の代、強大なる國と成り、一四三八年より十九世紀まで、ドイツの覇權を握れり、一八六六年プロイセンとの戰に敗れて、

ドイツ聯邦を脱せしが、翌年ウングアルと聯立の君主國を爲すに至れり、ウングアルンはマジール人が八七九年に建國せしものなりとす。

人誌[○] エステルライヒウングアルンが一國として統一性を缺く點は種々あれども、就中人口配布の不均と種族の錯雜を極むるとは最も著しきものなり、一九〇〇年の人口調査は四千五百四十萬餘人、男二二九七三を以て、方料には平均七十二人と與ふるも、各地方の疎密を詳にすれば、甚しき不均を見るべし、北西部の市街の地、工藝の中心にありては人口稠密なれども、山岳地方又は高原地方にありては住民極めて稀薄なり、下エステルライヒは方料に付き百五十六人と與ふるも、シレジア、エン、ベールメンに於ては百三十二人乃至百二十二人に下り、ウングアルンにありては六十人に減じ、チロル、サルツブルグにては三十二人乃至二十七人を示すに過ぎず、又種族の如何を考ふるときは實に一驚を喫せざるを得ず。

種	族	君	主	國
ドイツ	エステルライヒ	ウングアルン	一三〇六	二二〇
	九一七、〇九三九	二二三、五一八一		

世界地理 一、ヨーロッパ 中央部 エステルライヒ ウングアルン君主國 六六三

ウングアル	九五一六	八七四、二三〇一	八七五、一八一七
ベリメン、メーレン、スロワケン	五九五、五三九七	二〇一、九六四一	七九七、五〇三八
ポーランド	四二五、九一五二		四二五、九一五二
ルターネン	三三七、五五七六	四二、九四四七	三八〇、五〇二三
クロアシア、スルビヤ	七一、二三八〇	二七三、〇七四九	三四四、二二一九
スラベン	一一九、二七八〇	九、八九四一	一二九、一七二一
マリーニア	二三、〇九六三	二七九、九四七九	三〇三、〇四四二
イタリヤ	七二、七一〇二	二、七四八二	七五、四五八四
其他		二七、一三三八	二七、一三三八
算入セザル分	五一、七九〇三		五一、七九〇三
合計	二六一五、〇七〇八	一九二五、四五五九	四五四〇、五二六七

六六四

而して信教上に於けるも少なからざる宗派の存在するを知るべし。

宗	派	信徒數	宗	派	信徒數
耶蘇舊教	ラテン派	三〇五八	耶蘇新教	アウグスブルグ派	一六五
	ギリシア派	四九九		ヘルベシア派	二五七
	アルメニア派	三四二		ユダヤ教	二〇八
			其他		一一

政誌 エステルライヒウングアルン君主國はエステルライヒ帝國とウングアルン王國との二國より成れり、君主は帝冠と王冠との二冠を戴きて聯合國に君臨すれども、二國に共通なる立法權は外務軍務、財務并にボスニエン(Bosnien)ハルツェゴキナ(Herzegowina)に關するもの限りて、ウーインのライヒシウラト(Reichsrat)とブダペストのライヒスタグ(Reichstag)とより撰出せられたる六十六人の代議員之を司れり、而してエステルライヒの立法權はヘルレンハウス(Herrenhaus)とアブゲオルドネテンハウス(Abgeordnetenhaus)との二院に屬し、ウングアルンの立法權はマグナト(Magnatenhaus)と代議院とに屬せり、行政政府の一はウーインにありて一はブダペストにあり、

共に其の議會に對して責任を負へり、其の他、地方議會は政治的權能を有せざるも、各州の首府に設けられて、普通の施政に參與せり、又二領土の分界は一小河流たるライタなるを以て、エステルライヒ并に其の屬地は前ライタの部と稱し、ウングアル并に其の屬地を後ライタの部と呼べり、茲に一表を作りて各部の地積、人口等を列記す。

地方名	地積	人口	一方付
下エステルライヒ	一、九八五四	三二〇、〇四九三	一五六
上エステルライヒ	一、一九九四	八一〇、二四六	六八
サルツブルグ (Salzburg)	七、一六三	一九、二七六三	二七
スタイエルマルク (Steiermark)	二、二四四九	一三五、六四九四	六一
ケルンテン (Kärnten)	一、〇三三三	三六、七三二四	三六
クライン (Krain)	九、九六五	五〇、八一五〇	五一
トリエスト及び屬地	九五	一七、八五九九	一

地方名	地積	人口	一方付
ゲルツ (Görz) グラヂスカ (Gradisca)	二、九二七	二二、二八九七	八〇
イストリエ (Istria)	四、九五一	三四、五〇五〇	六九
チロル (Tirol)	二、六六九〇	八五、二七一一	三三
フォルアルベルグ (Vorarlberg)	二、五七〇	一二、九二三七	五〇
ベーメン (Böhmen)	五、一九六七	六三、一八六九七	一一二
メーレン (Mähren)	二、二二三一	二四、三七七〇六	一一〇
シロニシエ (Schlesien)	五、一五三	六八、〇四二二	一三二
ガリツ、ヘン (Galizien)	七、八五三二	七三、一五九三九	九三
ブコキナ (Bukowina)	一、〇四五六	七三、〇一九五	七〇
ダルマチエ (Dalmatien)	一、二八六三	五九、三七八四	四六
小計	三〇、〇一九三	二六一五、〇七〇八	八七
ウングアル (Ungarn)	二八、二八二四	一六八三、八二五五	六〇
クロアチエ (Kroatien)	四、二五〇一	二四、一六三〇四	一
スラボニエ (Slavonien)			

世界地理 ヨーロッパ 中央部 エステルライヒ ウングアル君主國

小	計	三二、五三二五	一九二五、四五五九	五九
合	計	六二、五五一八	四五四〇、五二六七	七二

六六八

陸軍は平時に士官二萬七千三百九十八人、下士卒三十七萬四千三百三十七人を有するが、戦時には百八十七萬餘人に達すべし、又海軍は百十八隻、十四萬七千噸弱ありて、馬力は二十七萬餘、砲は九百七十九門を有せり、財政上に於ては全豫算は三部より成り、甲は兩部に共通にして、乙は前ライタ部に屬し、丙は後ライタ部に屬せり。

	甲	乙	丙
歳入	三、七七一、四五四〇	一、七三七五〇、九九九一	一、九〇六八、一九四五
歳出	三、七七二、四五四〇	一、七三四七七、一二九一	一、九〇二五、五〇一五

生業 エステルライヒ及びウングアルンの分立は政治上に止まらずして、經濟上にも亦出現せり、即ちウングアルンは農業國として立ち、エステルライヒは工業國として存す。

ウングアルンの肥沃の平野はドナウ河并に其の支流の潤澤を蒙りて、十二萬方畝の一大農業地を爲せり、耕耘に適するの地は八億疋の穀類を産し、草圃の地に於ては二百萬頭の馬、五百萬頭の牛、一千五百萬頭の羊、四百五十萬頭の豚を飼養せり、又葡萄園は四十萬方疋の面積を有するが、火山質丘陵のウングアルン臺地、ダルマチエ地方に配置せられて、年産額五十萬圓に達せり、而して森林は薪炭、木材を興へて優に國內の需用を充たすと云ふ。

ペーメンは鑛産に富み、殊にエルツゲベルグ附近は石炭に豊なるを以て、各種の製造工藝發達して、工業の一大中心と成れり、就中玻璃器の製造を以て名を知らる、此の外、エステルライヒの各地に工藝の中心ありて、漸次に旺盛に趣けり。

エステルライヒ、ウングアルンの貿易に就きて一表を示せば、

	輸 入		輸 出	
貨物	一九〇三年	一九〇二年	一九〇三年	一九〇二年
貴金屬	一、一三七九八	一、六六〇三、四	六三二八、四	八二〇〇七
	一八、七七一、一五	一七、二〇三三、五	二一、二九七八、一	一九、一三五九、八

六六九

世界地理

ヨーロッパ 中央部 エステルライヒ ウングアルン君主國

計	一九九〇九一三	一八、八六三六、九	二一、九三〇六、五	一九、九五六〇、五
---	---------	-----------	-----------	-----------

六七〇

主要貿易品は輸出に木材二一七萬、クロナ、畜類一七〇、砂糖一六七、穀類一二二、鶏卵一〇七、石炭八九、革具五四、硝子五四、マルト五三、毛布類五〇、木具五〇等ありて、輸入に綿布一九五、生毛一一四、石炭一〇一、煙草五三、皮革五〇等あり、又主取引先を示せば輸出國にドイツ、イギリス、イタリア、スウイス、ロシヤ、トルコ、ロマーニア、フランス等を見るが輸入先はドイツ、アメリカ、イギリス、イタリア、ロシヤ、印度等の順を表せり。

一九〇二年に於ける出入船舶は入船に十一萬五千八十六隻、一千四百七十六萬噸出船に十一萬五千十三隻、一千四百七十七萬噸弱ありき、而して一九〇三年に於ける商船の實力は次表の如し。

船種	隻數	噸數	乗組員	船種	隻數	噸數	乗組員
遠洋航行船	一四二	二五、四〇七	三九八	汽船	三三三	二五、三六一	四、五七九
沿岸航行船	一五四九	三、二三四	四、四六六	帆船	一、二九七	五、四七三	三、〇七八

汽船、其他	一、二四五九	二、三八五三	二、七三三	計	一九〇三	一、三四九	三〇、八〇九	三、五〇七
合計	一、三九四九	三、〇八〇三	三、五〇七		一九〇二	一、三〇二	三〇、二七八	三、五七九

ロイド商船會社は本社をトリエストに置いて海路の航業を專にし、ドナウ河汽船會社はドナウ河の航路を利用せり。

鐵道、郵便、電信、電話に就きて一表を示せば、

國名	鐵道	郵便局	電信線		電話線	
			線路延長	線路延長	線路延長	線路延長
エステルライヒ	二、〇〇六、四	八九九	四、〇〇七、六	一八、三六四、一	一、九三〇、〇	二、四六四、一
ウンガルン	一、九四三	五〇九	二、三〇六、九	一一、九六五、三	一、四七四、三	一〇、七四二、四
合計	三、九四九、七	一、三三八	六、三二四、五	三〇、三三九、三	三、四〇四、三	三、二〇五、五

處誌

エステルライヒ

ウィーン (Wien) 一六七、四九五七 北緯 四八度 一三分 五五秒 東經 一六度 二〇分 二二秒

は一にウィエンナ (Vienna) と云ふ、エステルライヒ帝國の首都なるが、アルプ山脈の末

端百四十六米突の地にありて、遂にカルパット山脈を望み、ドナウ河に瀕す、ドイツ人、ウングアル人、スラブ人の相隣接せるの地にあるを以て、市内にはこれ等の種族雜居す、當地は中央政府のある處なるが故に市街は頗る殷賑なり、宮殿寺院多く建築には見るべきもの多し、而して工藝の中心としては飾器、縫箔、磁器等を製す、實に世界屈指の都府たるに耻ぢず、ブラーグ(Prag)二〇、一五八九北緯一五〇度二分一八秒はブラハ(Praha)とも云ふ、海拔三百米突の地にありて、モルタウ河に沿へり、ベームンの首府にして綿布、羅紗、玻璃器等を製す、レムベルグ(Lemberg)一五、九八七七はガリチエンの首府にして、ブグ河の小支流に沿ふ、麻布器械、陶器等の産あり、此の地にはユダヤ人、アルメニア人多し、グラツ(Graz)一三、八〇八〇はスタイエールマルクの首府なり、冶金業に従事して鋼鐵を製す、トリエスト(Triest)一三、四一四三北緯四五度四分四秒は帝國第一の商港なり、ウィーンの南南西、鐵路五百九十五軒に倍し、アドリア海に瀕して、カルストの山麓にあり、住民はイタリア人甚だ多し、ブリュン(Brunn)二〇、九三四六はメーレンの首府なるが、絹布、燐寸の産あり、クラカウ(Krakau)九、一三二二はポーレンの舊都にして、同國王の墳墓の地なり、近傍のキエリツカ、ボヒニア

は岩鹽の産地として名あり、ツェルノキチ(Ozernovitz)一六、九六二二はプロキナ第一の都會なり、ピルゼン(Pilsen)一六、八〇七九はブラーグの南西に於ける工業地なり、リンツ(Linz)一五、八七九一は上エステルライヒの首府なり、ドナウの右岸に位し、毛布、煙草等を製す、プルトツェミスル(Prenyval)一四、六二九五はレンベルグの西、キスチャラ河の支流に沿ふ、器械、酒精等を産出す、ポラ(Pola)一四、五二〇五は海軍の根據地にして、イストラ半島の南端に近くせり、ブドワイヌ(Budweis)一三、九三二八はモルダウ河畔にありて、鉛筆、硝石等を製す、アウシヒ(Aussig)一三、七二六五はエルベ河に沿ひ、化學品の産あり、ライバハ(Lai-bach)一三、六五四七はトリエストの北東に位し、織物を産す、コロメア(Kolomea)一三、四一八八はブルス河に瀕し、陶器を産す、ライヘンベルグ(Reichenberg)一三、四〇九九は北ベーメンにありて、クロースの主産地たり、ザルツブルグ(Salzburg)一三、三〇六七はウィーンの西、微南に當りて、樂器を製す、ザラ(Zara)一三、二五五一はダルマチエンの首府なり、タルノフ(Tarnow)一三、一六九一、タルノボル(Tarnopol)一三、一〇四一、スタニスラウ(Stanislaw)一三、一〇四一、ガリツィエンにあり。

ウングアル

ブダペスト(Budapest)七一、六四七六北緯四七度二分五秒

世界地理 ヨーロッパ 中央部 エステルライヒ ウングアル君主國

ウンガルンの王都にして、ブダ即ちオフェン(Ofen)とペストとを併稱せるものなるが、ドナウ河は其の間を流る、ペストは後ライタ部の政府、國會の所在地にして、商業工業の盛なる王國第一と稱せらる、ブダはマギアル人の堅城と爲す所なり、セゲデン(Szegedin)(一〇〇二七〇)はタイス河に瀕す、純然たるマギアル市街にして商業盛なり、マリアテレシオボル(Maria Theresiopoli)(八一四六四)はサバドカ(Szabadka)と云ふ、ブダペストの南東に位し、農産物の集散地なり、デブレクツァイン(Debreczin)(七二三五二)はペストの東に當り、畜類、煙草を産す、ポツソニー(Pozsony)(六一五三七)は一にプレズブルグ(Preszburg)と云ふ、ドナウの左岸に沿ふ、舊都の地なり、アグラム(Agram)(五七六九〇)即ちツァグレブ(Zagrab)はクロアチエンの首府なり、ヒウメの北東に位す、ケクスケメット(Keskemet)(五六七八六)はブダペストの南東にあり、アラド(Arad)(五三九〇三)はタイスの支流たるマロスに沿ひ、穀類、家畜等を集散す、テメスバル(Temesvar)(四九六二四)はペストの南東、ヘガ運河の濬にありて、穀類、煙草等を製す、グロスワルダイン(Groszwardein)(四七七一八)即ちナギンバラド(Nagybarad)はペストの南南東にありて、酒、精油等を産す、クラウゼンブルグ(Krausenburg)(四六六七〇)は後シルバニエンの首府

なり、コロツスバール(Kolozsvar)とも呼ぶ、ミスコルツ(Miskolc)(四〇八三三)はペストの北東にあり、フイメ(Fiume)(三三八〇五七)はトリエストの東南東に於ける商港なり、ベクスツザン(Bekes Csaba)(三七一〇〇)はペストの南東にあり、カシウ(Kaschau)(三三五五八六)は一名はカッサ(Kassa)と云ふ、ブダペストの北東に於ける美麗の都會なり、クロナスタト(Kronstadt)(三三四五一)は又ブラッソ(Brasso)と唱ふ、ブダペストの南東にあり、マロ(Mako)(三三三七一〇)はセゲデンの東南東、マロス河畔にあり、フェリギンザ(Fegyverhaza)(三三二四二)はペストの南東にあり、セントス(Sentes)(三二二九〇)はセゲデンの北に位す。

ボスニエン・ヘルツェゴビナ

ボスニエン及びヘルツェゴビナの二州は名義上トルコに屬するも一八七八年のベルリン條約は統治を君主國に委任したり、ボスニエンはボスナ河の流域より成りて起伏多く山林原野に富めるがヘルツェゴビナはナレンダ河に依るも瘠地沼地少なからず、經濟上の價值は著しからざるも君主國對バルカン半島の關係上重視せられ、第十五軍團(總員二、二九四四人)をして駐防せしめ其の一部を派してノビバ

ザルを占領せしむ、一八九五年の調査に依れば、

地	積	人	口	疎	密
ボスニエン	四、一九〇八	一三一、五五三七		三四	
ヘルツェゴビナ	九一一九	二一、九五一一		二五	
計	五、一〇二七	一五三、五〇四八		三〇	

なれども一九〇〇年の概算は總人口を百七十三万七千人とせり而して之を宗教別に爲せば四割三分はギリシア教徒、三割五分マホメット教徒、二割一分はカソリック教徒たり、農業は穀類、果物、蔬菜等と與ふるも主要なるは畜産にして皮革、生毛等あり、鐵路はバニアルカ、サライエボ、モスタル等を連絡せるが通商上はオーストリア、ハンガリカの關稅範圍に屬して一九〇三年には九千六十万餘、クロナを輸入し八千三十八万餘、クロナを輸出したり、ボスニエンは行政上ハニアルカ、ドルニア、ツズラ、サライエボ等の五區に分たれ、首府サライエボ、四、一五四三はトルコ名をボスナ、セライトと云ひて、ミリアナカ河に跨り右岸を商區とし左岸を政地と爲す、金屬器、烟草等を製し市街販賣なり、モスタル(一七〇一)はヘルツェゴビナの首邑にしてマ

ホメット教徒多く地方の商區たり。

リーヒテンスタイン公國

リーヒテンスタイン(Liechtenstein)は一七一九年以來公國として存し一八八四年に於てオーストリアの關稅同盟に加入したるが東はフォルアルベルグに接し、西はスウイスと境するにライン河を以てす、面積は百五十九方呎に過ぎざるが、地勢山岳に富めり、住民はドイツ的にして九千四百七十七人なるが概ね耶蘇舊教を奉ぜり、首邑バツツ(Vaduz)には一千二百六人の人口を有するのみ。

シツワイツ國

境域 シツワイツ(Schweiz)はスキェルランド(Switzerland)スウイス(Suisse)とも云ふ、ヨーロッパ中部に於ける小國なり、境界は北にドイツのエルサツス、バーデン、キョルテンベルグ、バイエルンあり、東にリヒテンスタイン、エステルライヒあり、南にイタリアあり、東西は三百四十八呎にして、幅は二百十九呎に達し、地積は四萬一千三百四十六方呎なるを以て、我がナ州(四三六一、五)より少しく小なり。

地勢[○] シツウィツは純然たる陸國なるが、山岳は土地の三分の二を占む、南にアルプ山脈あり、北西と北とにユラ山脈ありて、此の二山脈とレマン、コンスタンツ兩湖との間に海拔五六百米突のシツウィツ平原あり、此の國の最高點はロザ山(Rosa)四六三八にして最低處はマジヨル湖(Maggiore)一九七なり、アルプ山脈は南の斜面に於て斷崖絶壁多く、北面の傾斜は少しく緩慢なり、中央のゴタルド(St. Gothard)山嶺より二縦谷、三横谷の發するあり、二縦谷の一はライン上流の谿谷にして北東に趣く、一はローヌ上流の谿谷にして南西に走れるが、三横谷中のデッシン[○]は南に、レウッスは北に、アアルは北西に向へり、又ゴタルドの山結に集合する山脈には南より來るワルリスアルプ、グリンソナルプあり、北より來るヘルンアルプ、レチックアルプあり而してモンブラン山嶺は横に其の北端をシツウィツに觸るるに過ぎず。

山岳[○] 茲に顯著なる山岳の高さを列擧せんに、ベンニン、アルプ山脈中にモンテロザ(Monte Rosa)四六三八、ドム(四五五四)、マッテルホルン(Matterhorn)四四八二、四五〇五、大コムビン(四三二七)あり、オーベルランドアルプにフィヌステルアルホルン(Finsterhorn)四二七五、イエンングフラッ(Jungfrau)四一六七あり、メルニナ山嶺にベル

ニナ(Bernina)四〇五二あり、ジネーブよりシツフハッセンに達して二百八十軒の長さをも有するユラ山脈は最高峯をドレー(一六七八)とす。

河湖[○] ローマ、アアル、ライン、テッシン(Tessin, Ticino)等の河流は概してサントゴタルド山嶺より發して北海、地中海、或はアドリア海斜面に屬するが、ドナウの支流たるイン河はシツウィツの東部を貫流せり、而して瀑布は數多きが就中シツフハッセンの下に於けるライン深の如きは殊に著名なり、又湖沼には頗る風色佳良なるものあり、主要なるものはジネーブ(Genève)即ちジネバ(Geneva)ゲンフェル湖(Genfer)ノイシヤテル湖(Neuclatel)ボーラー湖(Bieler)ツーム湖(Thun)フールワルスト湖(Vierwaldst)ツグ湖(Zug)ツァーリヒ湖(Zürich)ワルレン湖(Wallen)コンスタンツ湖(Konstanz)即ちボーデン湖(Boden)の外に、ジヨル、等あり。

氣候[○] 同じ海拔の地に就きて、谿谷は臺地より、西部は東部より氣溫稍高く、ユラ地方は寒氣強く、レマン(ジネーブ)湖地方は溫和なり、中部平野の年平均は八度にして、サンベルナル(St. Bernard)の寺院にありては年平均は零下一度なり、又高山の頂には積雪あり、氷河あり、アレツヒの氷河はヨーロッパ第一にして二十五軒の長さを

有するが、モンテロザの氷河も亦大なりとす。

沿革 シツウィツ當初の住民はヘルベチイ及びレイチイなりしが、ケーザイ其の他に依りて征伐せられ、遂に神聖ローマ帝國の一部と成れり、降りて十三世期の頃、ウリ、シツウィツ、ウンテルワルデンの住民が同盟してエスタルライヒに抗せしより、交戦は兩國の間に行はれ、一六四八年のエストフアレン條約は當國の獨立を承認せり、フランス革命時代には十九カントンのヘルベチア共和國として、フランス保護の下に立ちしが、一八〇五年二十ニカントンより成れる聯邦と成り、一八一五年のウーリン條約は當國の中立を認めたり。

人口 人口は三百三十一萬餘人、男一六八、八四一、八五にして一方籽八十人の平均なり、而して二百三十一萬餘人はドイツ語約七十三萬はフランス語、二十二萬餘はイタリア語、四萬弱はローマンシ語を用ふ、其の他は用語詳ならず、又宗教上に於ては新教に約百九十二萬、舊教に凡そ百三十八萬ありて、殘餘は概してユダヤ教に屬せり、教育は甚だ盛にして、大圖書館、學校、圖書館、通俗圖書館、等少なからず、ツッリヒのポリテクニコムは天下無雙と稱せられ、バセル、ツッリヒ、ベルン、ジッネーブ、ラウザン

スノイシテルは大學校を有せり。

政治 シツウィツは二十五邦^{二十ニ}カ^ニを爲すより成れる合衆共和國にして、中央政府はベルンにあり、聯邦議會(Assemblée fédérale)は國民院(Conseil national)と聯邦院(Conseil des Etats)との二院より成りて、共和國の政權を掌握す、行政權は兩院の推選に係る、聯邦行政會議(Vorort)に屬し、大統領(Président de la Confédération)は政務、財務、内務、法務、軍務、郵務、商工、農務の七委員中より毎年互選せらる、ラウザンヌに於ける聯邦法院は聯邦に關する裁判の事を司る、而して各カントンの政治機關は概して中央の政治機關に同じ、聯邦軍はアウスツグ(Auszug)に約十五萬ありて、ランドエール(Landwehr)に八萬餘あり、財政に就きて歳入は一億一千百二十九萬、フランにして、歳出は一億一千五百十五萬、フランに近し、左に各邦の地積、人口、等を表記せり。

「カントン」	●符を付したるは 生カントンなり	地積	人口	方針に付
アアルガン(Aargau)		一四〇四	二〇六四九八	一四七
アッペンツェル・アウゼー(A Appenzell Auszer = Rhoden)		二四二	五、五二八一	二二八
アッペンツェル・インナー(A Appenzell Innerer Rhoden)				
ロートン				

世界地理 ヨーロッパ 中央部 シツウィツ國

アペンツェル・インナー (Appenzell Inner = Rhoden)	一七八	一三四九九	七六
ローザン	四二二	六八四九七	一六二
バゼル (Basel)	三六	一一、二二七	—
バゼル (外) (Basel)	六八八六	五八、九四三三	八五
ベルヌ (Bern)	一六六九	一一、七九五—	七七
フリブーグ (Freiburg)	二〇一九	二五、〇二八五	一二四
セント・ガレン (St. Gallen)	二七九	一三、二六〇九	四七一
ゲンève (Genf)	六九一	三三、三四九	四七
グラルヌス (Glarus)	七一三三	一〇、四五二〇	一五
グラウビュンデ (Graubünden)	一五〇一	一四、六五一九	九八
ルツェルン (Luzern)	八〇八	一一、六二七九	一五六
ノイエンブルグ (Neuenburg)	二九四	四、一五一四	一四一
シヤフハウゼン (Schaffhausen)	九〇八	五、五三八五	六一
シヤワート (Schwyz)	七九二	一〇、〇七六二	一二七
ソロトゥルン (Solothurn)			

六八二

テッサン (Tessin)	二八一八	一三、八六三八	五一
ツルガウ (Thurgau)	九八八	一一、三二二一	一一四
ウンターwalden (Unterwalden nid dem Wald)	二九〇	一、三〇七〇	四五
ウンターwalden (Unterwalden ob dem Wald)	四七五	一、五二六〇	三三
ウリ (Uri)	一〇七六	一、九七〇〇	一八
ワアト (Waadt)	三三二二	二八、一三七九	八七
ワルリス (Valais)	五二四八	一一、四四三八	二二
ツグ (Zug)	二二九	二、五〇九三	一〇五
ツァーリヒ (Zürich)	一七二五	四三、一〇三六	二四九
合 計	四、一三四六	三三二、五四四三	八〇

生業 土地の二割三分は畑地、一割六分は森林、一分は葡萄園、三割二分は牧地にして、二割八分は全くの不生産地なり。葡萄はパウド、ノイシャテル、ツァーリヒ、ワルリス等の地方にて栽培せられ、年産額は百二十萬担なり。北西シヴァイツは牧業に従事し、

殊にグリュイエル、エムマンタルの牛は良種として名あり、養蠶はツシン、グリン、アルガウ、ツァーリヒ、ツルゴウ等の地方に行はる、而して鑛産は著しからざるが、鐵鹽、褐炭、土礫青等を産せり、工藝の主なるものは時計、飾具、綿布、絹布、稗紐、笹縁等を製作するにあり、又遊覽旅行に供する機關の整備せるは實に世界第一にして、當國富源の主要なるものの一なり、貿易の高は輸入に約十二億五千二百十萬フランありて、輸出に凡そ九億千六百七十三萬フランあり。

貨物	輸		入		輸		出	
	一九〇二年	一九〇三年	一九〇二年	一九〇三年	一九〇二年	一九〇三年	一九〇二年	一九〇三年
貴金屬	二、二八五、〇七セ	二、九六六、五〇三八	八、七四三、五二〇九	八、八八五、二五八	二、二八二、四二七	二、二八二、四二七	二、二八二、四二七	二、二八二、四二七
計	二、〇七四、四六〇六	二、五二〇、九一五三	四、三六二、〇九九	四、一六九、六〇二	九、一六九、六〇二	九、一六九、六〇二	九、一六九、六〇二	九、一六九、六〇二

主要貿易品は輸出に絹布(一六一百萬フラン)、綿布(一五九)、時計(一一九)、機械(四九)、絹絲(四四)、牛鬚(四二)等ありて、輸入に生絲(一三九)、穀類(二二五)、畜類(六四)、石炭(五八)、毛布

(四五)綿布(四五)、實綿(四四)、化學品(四二)等あり、取引先は輸出部にドイツ(二〇二)、イギリス(二七八)、アメリカ(一一六)、フランス(一一三)等あり、輸入部にドイツ(三五五)、フランス(二二二)、イタリア(一八二)、エステルライヒ、ウングアル(七八)等あり。

シツウィツは交通の機關を整備せん爲に、巨額の金員を投入したる國の一にして、其の結果は山間の地たるに拘らず、道路開け、鐵路の延長は四千二百八十三軒に達せり、殊に綱索鐵道は當國の名物たり、而してゴタルドの隧道(一、四九九〇米突)はアルプの南北に於ける諸國間の交通を開き、シムプロン(Simplon)の隧道(一、九七三〇)は世界第一の長隧道にして、イタリアとフランスとの間に新通路を開きたり、又アルルベルン(Arlberg)チアロリの隧道は南東ヨーロッパに對して、一の門戸をシツウィツに與へたり、郵便は一千六百七十三局を有し、電信線は線路六千二百六十四軒、延長二萬二千五百五十 あり、電話線は線路二萬一千五百九十二軒、延長二十四萬七千九十二軒あり。

處誌。ベルン(Berne)北緯四六度五七分九秒、東經七度二六分二六秒、一八四八年以來聯邦の首府たり、アアル河に瀕し、織物、飾具の産あり、ツァーリヒ(Zürich)一六、九四一〇七度、北緯二

ニ分三四秒、東經はリムマ河がツァーリヒ湖に注ぐ處にあり、大學校の所在地として名あるのみならず、又絹布を製す、バゼル(Basel)(一二〇八、九七)はライン河に瀕す、市街は廣大ならざるも、生産力に富めるを以て世界屈指の都會の一に數へらる、貿易に従事し又絹布を製す、ジネーブ(Geneve)(一一〇九、五四)北緯四四度九一分、五九秒はドイツ的にゲンフ(Gent)と云ひ又はイギリス的にジネン(Geneve)と云ふ、世界著名の地にして時計、飾具の産あり又大學校あり、ローザンヌ(Lausanne)(五〇七、九二)はレマン湖の北岸に近くして製革に従事す、サント、ガルレン(St. Gallen)(四、九五〇、八)はツァーリヒの東にあり、笹縁、綿布を製す、ラシヤード、フォンド(La Chaux-de-Fonds)(三、八七八、四)はヌーシヤタルの北西に位し、時計を製造す、ルツェルン(Luzern)(三、一九九、二)は四カントン湖より来るレウッス河に瀕す、稗紐を製するを以て名あり、ビール(Biel)(二、四六、一五)はビーエンヌ(Bienne)と呼びて、バーゼルの南西に當り時計の産あり、キンターツィル(Winterthur)(二、四四、四三)はツァーリヒの北東にあり、綿布を製す、ヌーシヤタル(Neuchatel)は、ノイエンブルグ(Neuenburg)(二、二一〇、二二)とも呼ばれる、ジネーブの北北東に於ける商業地なり、フライブルグ(Freiburg)(二、六七、四一)はフランス的にフリブール(Fribourg)と呼ばれ、ルンの南西に位し牛酪、麥稗、帽、革類を産す、シフンツェン(Shaffhausen)(二、六〇〇、九)はラインの右岸にありて有名なる瀑布に近し、史家ヨハネス、マン、ミッラルの生地なり、ハリザウ(Herisan)(一、三九、九一)はサント、ガルレンの南西にあり、綿布の産出あり、ロクナル(Le Locle)(一、二九九、四)はヌーシヤタルの北西にありて時計の一主産地なり。

西部

オランダ王国

○境域 ネーデルラント(Nederland)即ちハイ、バー(Pays-Bas)低國は俗にオランダと呼ばる、ヨーロッパの一小國なり、北と西とに北海を控へ、東はドイツに境し、南はベルジックに接す、長さ三百十四軒ありて幅は百七十五軒なるが、面積は三萬三千方軒あれば、我が四國島千方軒の二倍より稍、小なり、然れども築堤に依りて、ポルダー(Polder)を作り、毎歲十方軒づゝの増加を得と云ふ。

海岸 海岸は到る處低くして、或る部分は海面より低く、砂丘或は築堤の保護を要するが主要なる灣入はゾイデル海(Zuyder Zee)、ドナルト海(Dollart Zee)、ライン、マアス、シエルト等の河灣にして、島嶼は北西部にテクセル(Texel)、フリランダ(Vlieland)、テルシリング(Terschelling)、アメランド(Ameland)等なり、南西部にワルケマン(Walcheren)、南北のフンランド(Bereland)等を見る。

土地 土地は平低にして、リムブルグの最高處と雖も海拔は二百四十米突に過ぎず、而してジランダの島地、南北ホルランドの一部、ゾイデル海の西に於ける地、ありては海面より低き土地あり、又國の東部一帯には沼地多く、荒蕪の地ありて、ドイツとオランダとの天然の境界を爲せり、ライン、マアス、イッセル、シエルト等の下流は國內を貫流するが、殊に運河の開掘多く、就中著名なるをロッテルダム、北ホルランド、アムステルダム等の運河なりとす。

氣候 氣候は概して海候にして、フリエスランド並に東部の地にありては稍大陸的なり、氣温は甚しく低下することなきも、不同にして變化し易く、濃霧屢起り、降雨も亦少なからず。

沿革 當地方はバタビア人、フリジア人、サクソン人、チリア人等の占居する處たりしが、八世紀の終シールマーキに屬し、次第に諸候の建設あり、一三八四年ブルガンデー公はフランダルスを合はせ、カロー五世帝之を受けたり、然るにイスパニアの暴政の結果、低地地方は分離して一五八一年オランダ共和國と成り、フランス革命の後はバタビア共和國に變じ、ナポレオンの没落後はベルジクと合して一國と成りしが、更に一八三〇年南部の獨立せるありて、遂にオランダ、ベルジクの對立を見るに至れり。

人口 人口は五百四十三萬餘にして、一方料に付き百六十四人なり、而して種族にはオランダ人(五〇五萬)、ドイツ人(三三)、ベルジク人(一、五)等ありて、信教上は新教に三百七萬人、舊教に百八十萬、ユダヤ教に十萬人、其他に十三萬人あり、教育は普及せずして、下等社會には無知の者多きも、之に反して中等社會以上は教育の恩澤に浴せり、ライデンの大學は往古の隆盛を見ざるも、亦王國各種學校の首位を占むるに耻ぢず。

政治 〇オランダは立憲代議君主國にして、立法權は上下の二院に屬し、地方議會

の権限は甚だ大なり、而して行政上は左表の如く全國を十一州に區別せし、兵備は陸兵に二萬九千人ありて、兵艦に九萬五千噸あり、財政は歳入に一億六千六百五十一萬餘、グルデンありて、歳出は、凡そ一億七千四百八十八萬、グルデンなるが、國債は十一億六千二百七十七萬、グルデンに近し。

六九〇

州	地積	人口	方軒	州	地積	人口	方軒
北ブラバント	五三六	五八七三三	二二三	南ホルランド	三〇三三	一一四〇、五七九	四二二
ドレンテ	二六三	一五九三三	六〇	リムブルグ	二〇四	三〇、四三八	一三八
フリエスランド	三三〇	三五、〇七四	一〇六	オフエリッセル	三三四	三五、四九二	一〇六
グelderen	五〇八二	五九、七〇六	二七	ジーランド	一六五	二二、四三七	一三五
グロニンゲン	三九六	三二、四二二	一三六	ウトレヒト	一八四	二六、八二九	一九三
北ホルランド	二七〇	一〇三、八三〇	三七五	合計	三、三〇〇	五、四三〇、九七三	一六四

生業 ホルデル並にオランダの平野は地味極めて豊なれば、農業は大に發達して耕種の業は大に進歩したり、殊に麻類、煙草等を栽培す、牧業は主として牛を飼ひ、

漁業は鱈、鰵を興へ、花園は珍花奇卉を興ふ、而して工藝はフリエスランドの麻布、トリブルヒの羅紗、ウトレヒトの天鰯絨、グーダの煙管、アムステルダム、の寶石細工、アンダム、の造船等なり、商業は内外共に頗る盛なるが、貿易は輸入に二十二億七千七百萬、グルデン、餘、輸出に十九億五千萬、グルデン、餘あり。

取引先	輸入	輸出	取引先	輸入	輸出
イギリス	二、五七〇〇	四、六〇四〇	イタリア	五〇〇	一一三〇
ドイツ	五、四九三〇	九、三一五〇	イスパニア	四九三〇	五八〇
ベルジック	二、二七五〇	二、一三二〇	オランダ東印度	三、三六九〇	六、一五〇
フランス	二、二二〇	一、七〇〇	イギリス東印度	六、一九〇	一一〇
エスリゲ、ノルゲ	三、五五〇	二、一五〇	アフリカ	六六〇	六一〇
ロシア	二、二九六〇	八三〇	合衆國	二、三二八〇	一、〇五九〇
ロマーニア	五八六〇	三七〇	其他	一九九六	九四四〇
トルコ	六九〇	九二〇	合計	二二、七七七〇	一九、五〇九〇

世界地理 ヨーロッパ 西部 オランダ王國

六九一

更に貿易品の種別を表示せば

	一九〇二年		一九〇三年	
	輸入	輸出	輸入	輸出
飲食品	六、二三四〇	六、〇四六〇	六、五四五〇	六、三〇六〇
原料	八、四二二〇	六、八〇一〇	八、七八四〇	七、〇一五〇
製品	三、五四四〇	三、二二七〇	三、七五八〇	三、四八四〇
雜貨	三、三三七二〇	二、一五三〇	三、六〇七〇	二、六三七〇
貨物	二、一五七二〇	一、八二二七〇	二、二六九四〇	一、九四四二〇
貴金屬	一、四五〇	五二〇	八三〇	六七〇
計	二、一七二七〇	一、八二七九〇	二、一七七七〇	一、九五〇九〇

商船は七百七隻、百十二萬噸弱ありて入船は凡そ二千九百八十六萬噸、出船は約二千九百六十七萬噸なるが鐵道は二千九百三十一軒にして、郵便は一千三百六十七局を供へ、電信は線路六千七百八十軒、延長二萬九千六百三軒に達し、電話線は五

萬五千八百二十軒を有せり。

○處誌 ハーグ (Gravenhage) (二二、九八三九)は王國の首都なり、海岸并にシエニンゲンを距ること凡そ一里の處に建設せられたる美麗の都會なり、アムステルダム (Amsterdam) (五四、六五三四) (北緯五二度四分一六秒、東經四度五十分四一五秒)はノイデル海の南西隅に於ける一小灣に瀕し、アムステル河に接す、連河多く交通の便を備ふる一大商港なるが市街は殷富にして金融上の一大中心なり、又金剛石の細工并に賣買を以て名を知らる、スピノザは此の地の人なり、ロッテルダム (Rotterdam) (三五、七四七四) (北緯五一度四分四七秒、東經四度七十分五五秒)は其の名史上に著はる、大學校の所在地にして、羅紗、天鵝絨を製す、グロニンゲン (Groningen) (七〇、六〇九)はドルラート灣に瀕し、有名なる盲啞院あり、ハーアールム (Haarlem) (六一、五一八)はアムステルダムの西に位し、花園を以て名を知らる、アルンヘム (Arnhem) (五九、七五九)はウトレヒトの東南東、ライン河畔にあり、煙草、織物を産す、ライデン (Leyden) (五五、一七〇)はハーグの北

微西にありて其の大學は古來著名なり、ニムエーゲン(Nimwegen)四、七六七三はソア
 ル河に沿ひ商業地として名あり、ナルブルグ(Nijmegen)四、四七八七は熟皮を産す、ドル
 ドレヒト(Dordrecht)四、二九九四はロッテルダムの南東に於ける工業地なり、マアスト
 リヒト(Mastricht)三、五六三九はアムステルダムの南南東に位し硝子、陶器を産出す、
 リーウワルデン(Leeuwarden)三、三三九三六はウトレヒトの北北東にありて亞麻布等
 を製す、ハルトケンボンヤ(Herogenbosch)三、二八八一は一にフワーレーロダク(Bois-le-
 Duc)と云ふウトレヒトの南南東に位せる工業地なり、デルフト(Delft)三、二五〇六は
 ロッテルダムの北西に位し造兵に従事す、ツワルレ(Zwolle)三、一九七三はアムステル
 ダムの東微北にある商業地なり。
 殖民地 オランダは強大國の間に介在せる小國なれば、夙に富源を海外に求む
 ることに努力して、遂に廣大なる殖民地を有するに至りしが、戦亂の爲に大に其の
 境域を縮少せられたり、然れども今尙ほ殖民國たるの實を失はず。

領地	積	人口	方秆ニ付
「ジッハ」マツラ	一三、一五〇八	二八七四、六六三八	二一八

東印度		外部領土	
西印度	クラソ	スリナム	計
一七八、三九〇九	一一三〇	一一、九一〇〇	二〇四、五六四七
八九八、七〇〇〇	五、三三四二	八、九〇〇〇	三七八、七六〇〇
五	四七	一一	一九

ルクセンブルグ大侯國

ルクセンブルグはプロイセン、ベルジック、フランスの間にありて、地積は二千六百
 未滿の方秆を有するに過ぎず、舊とドイツ聯邦の一部たりしが、一八六七年以來、
 一ロバ諸強國の認めて以て中立國と爲せし所なり、住民は二十四萬弱にして一方
 秆九十一人の割合なるが、概してカトリック教を奉じ、ドイツ語を用ふ、首都ルクセン
 ブルグ(二、〇九二八)はモゼル河の支流たるアルゼットに瀕せり、舊と有名の要塞地た
 りし處なるが商工業稍盛なり。

ベルジック王國

境域 ベルジウム (Royaume de Belgique) は ベルシャーム (Belgium) 又は ベルギー (Bel-

gium) と稱す、西部ヨーロッパの一小國なり、北はオランダに境し、東はドイツ并にルクセンブルグに接し、南はフランスに隣し、西は北海に瀕して、地積は二萬九千五百方

料に近く、長さは二百七十八料、幅は百六十九料あり。

土地 六十七料の延長を有する海岸の附近は海面より低き耕地の存するあるも、東并に南東に赴くに從ひて土地は漸次に隆起し、アルデンヌ臺地のバラックミジエルは王國の最高處にありて、海拔は六七五米突に達せり、而してサンブル、ムーゾの兩河は北西の低地と南東の高地との區劃を爲せり、又砂丘の存する沿海の地には數百年來の變遷ありて、ロムバルディド、ブリッジャ、ダンム、エクリューズ等の港灣は砂礫の閉塞する所と成りて、現時は北海を距る數里の地にあり、兩フランドル、シンピエスにありては砂地多く、肥沃の地として有名なるワエスは沼地の乾涸せしは外ならず、而してポルデルは築堤の保護に依りて良土と成りたり、當國は灌漑の利を享受するも、主要なる河流の全部を有することなし、ムーズは丘陵の地を流れ、エスカウは平野を潤すも、二流共に水源をフランスに發し、オランダに至りて海に注げ

り。

氣候 氣候上に於てはベルジウムの國を二帯に區分するを得、西部の一帶は海候にして氣溫低からず、濕氣多し、東部の一帶は陸候にして寒氣凜烈、濕氣甚だ少なし、而して全國の平均溫度はブリックセルの平均溫度に似たるものにて、凡そ十度なるが、春季は九度強、夏季は十七度強、秋季は十度強、冬季は三度弱なり。

住民 人口は六百九十八萬餘(一九〇三年)なれば、一方料に對する人口は二百三十七人なり、而して一九〇〇年の六百六十九萬餘を言語に依りて區分すれば、二百五十七萬人はフランス語のみを用ひ、二百八十二萬はフラマン語のみを用ひ、二萬八千餘人はドイツ語のみを使ふ、その他フランス語とフラマン語とを話すものは八十萬人、フランス語とドイツ語とを話すものは六萬餘人、フラマン語とドイツ語とを用ふるものは七千餘あり、フランス、フラマン、ドイツの三語を用ふるものは四萬三千人に近く、三語中の一に屬せざるもの三十五萬あり。

宗教に就きては國人の多數は天主教を奉ずるも、宗教の自由は憲法の保障する所にして、一萬餘の新教信者と數千のユダヤ教信者あり、教育に就きては初

は強制的ならざるも、各町村は少なくとも一ヶ處の小學校を設けて、貧民の子弟には無謝儀にて學業を修せしむべき義務を有せり、又主要なる都會には男女の中等學校の設けあり、四ヶ處の大學校中、ガンとリエージュとに於けるものは國立にして、ルイベンのアルママテラ大學は都會の維持に係り、ブリックセル大學は私立にして、自由黨の保護する所なり、此の外、アンペールは美術大學校を有し、ブリックセル、アンペール、ルイベンは音樂學校を有せり。

政治。ベルジク國は立憲代議君主國にして、君主は平時の四萬七千人、戰時の十萬人より成る軍隊の元帥たり、立法權は元老、代議の二院に委ねられ、行政上は全國を分ちて左記の如く九州とし、各州に知事と州會とを置き、町村に主長と町村會とを置く、殊に記し置くべきは選舉權の普通一般なると資力又は智力に依りて複票權を享有すること是なり。

州	地積	人口	方村	州	地積	人口	方村
アンペール	二八三三	八七、〇五三	三〇七	ヘネガツ	三七三三	二八、四一九	三三八
ブラバント	三三八三	一四、〇六二	四〇八	リムブルグ	二四二二	二五、二〇四	一〇四

州	地積	人口	方村	州	地積	人口	方村
リッヂヒ	二八九五	八五、三九六	二九五	東フランダ	三〇〇〇	一〇六、七〇三	三五六
ルクセンブルグ	四一八	二二、四三九	五一	西フランダ	三三四	八三、七六〇	二五九
ナムール	三六〇	三五、四六三	九七	合計	二、九四六	六九、五二九	三三七

兵備に關しては陸軍に平時の四萬六千餘人、戰時の約十八萬人ありてアンペール、リエージュ、ナムール等は主要の城塞たり。

財政に就きて一言せんに歳入に五億二千九百三十七萬餘フランクありて、歳出は五億二千七百三十七萬フランクを超ゆるが、國債は二十九億八千八百六十八萬フランク餘なり。

生業。生業は五十年來長足の進歩を爲し、各業共に繁盛を極む、農業は亞麻、煙草、「ホップ」穀類等を産し、花園には裝飾的植物の栽培あり、リエージュ、シャルルロワ、モンヌは石炭を採掘し、サンブル、ムーズの流域には、産鐵の地あり、又工藝には、製鐵、鑄鐵、兵器、羅紗、毛布等の製造あり、貿易は輸入に二十六億五千六百餘萬フランクありて、輸出は二十一億一千萬フランクを超ゆるが、此の外に通過貿易約十八億八千萬フランクあり。

取引先	輸	入	輸	出	取引先	輸	入	輸	出
フランス	四、二二〇	三、九三〇	ブラジル	二、六六〇	九三〇				
ドイツ	三、四〇〇	四、五九三	アルヘンチナ	一、七四〇	一九四〇				
オランダ	二、二九三	二、三二六	ウルグアイ	一、八四六	二、二五〇				
イギリス	三、二五四	三、六四八	ペルー	一、一三〇	二、三三〇				
シワツイツ	六六〇	二、六一〇	チレー	五六〇	一四〇				
スエリゲ、ノルゲ	六〇二〇	二、二五〇	コンゴ	三五五〇	七八〇				
ロシア、ロイマニア	二、一八六	三、八四〇	イギリス東印度	四、八三〇	八六〇				
トルコ	一、三三〇	三八〇	オーストラリア	一、一七一〇	二〇八〇				
イタリア	二、四二〇	一、七一〇	其他	四、二三〇	一、二四〇				
イスパニア	三、四一〇	四、六六〇	不明	六、四七〇	一、二七〇				
其他ヨーロッパ	三、三三〇	五、七三〇	合	二、六、五、六、四〇	二、一、一〇、三〇				
合衆國	四、六〇〇	五、〇六〇	計	二、六、五、六、四〇	二、一、一〇、三〇				

七〇〇

主要輸出品は鐵類(一七四萬フランク)、麻(一〇二)機械類(一〇〇)、穀類(九五)革(九四)、硝子器(八九五)、麻糸(八九)、石炭(八七)、寶石(八四)等にして、主要輸入品は穀類(四〇九)、生毛(一四八)、木材(一四二)、麻(二三五)、樹脂(一一五)、革(一〇九)、種子(一〇〇)等あり。

交通機關の完備せる點に就きては當國は世界第一と稱せらる、鐵路と云ひ航路と云ひ、何れも充分に發達して、内部に於ける工藝の中心と邊境に於ける各地との間を連絡せり、されば國域の少なるに拘らず、鐵路は四千五百八十六軒に達し、郵便は一千二百二十一局を有し、電信線は三萬五千八百四十八軒の延長を有し、電話線は八萬七千六百三十五軒に達せり。

處誌 ブリクセル (Bruxelles) 一九〇一三三 北緯 五〇度 五二分 一〇秒 一に ブラッセル (Brussels) と云ふ、王國の首都にして官衙あり、寺院あり、大學校、音樂學校あり、商業工業共に繁盛なるが殊に印刷業、樂器の製造、裝飾品の製作等を以て著しとす、而して此の地の近傍には イクセル (Ixelles) (ハニ九九七)、ラエケン (Laeken) (二一三、四六) シムルムーン (Scherbeek) (ハニ六、一七)、モレンムックセン (Molenbeek St. Jean) (ハニ二二) ゼンシム (St. Gilles) (五、六、七、三〇) アンデルレクト (Anderlecht) (五、一、九、二一) 等の市街あり。

るを以て之を合併すれば五十萬以上に達すべし、ワッテルロー(Watello)はブリックセルの南約十七軒に位し、ナポレオン戦敗の地として名あり、アンメル(Amers)(一八、一三七六)即ちアントワープ(Antwerp)はエスカウ河に瀕す、全國第一の軍府にして附近には堅固の砲壘を備ふ、ヨーロッパ屈指の良港を有し取引は甚だ盛なるが、コーヒー、米、砂糖、茶、香料等の殖民地産物又は穀類を輸入して、麻布、羅紗、兵器機械等を輸出せり、又工藝としては造船、製穀、絹布、飾具の製作等あり、此の地の近郊にボルジルフ(Borghout)あり、リエージュ(Liege)(一六、三九八五)は一にリッパチヒ(Lutich)と呼ばれるムーズ河畔に位置し、鑄物、兵器等を製作す、ガン(Gand)(一六、二四九〇)はゲント(Gent)とも云ふ、エスカウ、リース兩河の合流の地にあり、往昔の盛大を見ざるも又盛に綿布、麻布、鑄物、機械等の製作に従事す、マリヌ(Malines)(五、七三五六)はアンメールの南南東に位し、リース、ビールを産す、ブリュージュ(Bruges)(五、三二〇七)は海を距る十二軒、リース、麻布其の他の産あり、ヴェルヴィエ(Verviers)(四、九一七一)は毛織物、皮革等を製す、ルーヴン(Louvain)(四、二三一一)はカトリック大學の所在地にして、ビール、鑄物を製す、オステンド(Ostend)(四、一三二四)はブリックセルの西北西に於ける水浴地にして、漁業に従

事す、セライン(Seraing)(三、九〇二九)はムース河の右岸に於ける工業地なり、ツールネイ(Tournai)(三、五七〇六)はシールド河に沿ひ、亞麻布、敷物を製す、クールトレイ(Courtrai)(三、四〇三八)はブリックセルの南西にあり、麻布類を集散す、センニコラス(Saint-Nicolas)(三、一〇一一)はアンメールの西微南にありて、麻布を産す、ナミール(Namur)(三、一七九九)はサムブル、ムースの會流地にあり、要塞、武器、刃物を以て著はる、アロスト(Alost)(三、九九九七)はブリックセルの北西に當り、綿布を産す、當國印刷の鼻祖たるマルテン(Marten)の生地たり。

モレスネー

モレスネー(Moresnet)はドイツ人のアルテンブルグ(Altenburg)なり、アマハンの南西八軒、ベルジック、プロイセン間に於ける中立地にして、地積三方軒、住民三千三十八人を有するのみなるが、亞鉛、鑛を産する、ビエイエ、モンターニャ(Vielle-Montagne)は名を知らる。

フランス共和国

境域^〇 フランス共和国(République Française)は西部ヨーロッパの大國にして不正六角の形状を有す、北西は北海、カノー海峡、マンシ、海に瀕し、北東にベルジック、ルクセンブルグ、プロイセン、エルサツス、ロトリンゲンを控へ、東はドイツ、シワイツ、イタリアに境し、南は地中海に臨み、南西はピレネー山脈に接し、西は大西洋に沿ふ、而して五千二百軒の國境中、二千五百軒は陸境にして、二千七百軒は海境なり、地積はコルス島を合はせて五十三萬六千五百方軒に近きが我が帝國より大なること其の五分の一強なり。

海岸^〇 フランスの海岸は北西部の外は單調なるが、稍大なる灣入はセンマロ灣、セイヌ、ロアー、ル、ジロンドの三河灣、リヨン灣等なりとす、而して地角は北西にグリーネー(Griz Nez)、リノー(La Hague)、西にウマン(Ushant)、サンマター(St Mathieu)、マラー(Beo du Raz)あり、島嶼はウマン、ベルアイル(Belle Isle)、ナー(Re)ネ、ノロン(Oléron)、アール(Isle d'Hyères)、コルス等を主要とす。

地勢^〇 フランスは土地一般に平坦なるも、邊境には顯著なる隆起帶あり、内部にも丘陵の存する處あり、今日の海面に百八十米突の高隆を見んか、フランスの半部は水面以下にあるべく、四百六十米突なる時は中央山嶽、ピレネー、アルプ、ジャラ、ポージェ等の低からざる部分のみ水上に現はるべし、此の如くにして、フランスは北東の方、アルデンヌ(Ardenne)より南西の方、バイヨンヌ(Bayonne)に至る一線は高(南西)、低(北西)の二部の分界線たるべし。

山岳^〇 アルプ山系、ピレネー山脈、其他に屬せる主要なる山岳を示せば左の如し。

プロバンスアルプ	パンツィー(二〇〇〇)
ドイフ、ネアルプ	ビゾー(三八三八)
サボワールアルプ	イセラン(四〇四五)
ペンニナルプ	モンブラン(四八一〇)
ポージュ山脈	ホネック(一三六六)
ジャラ山脈	バロンドルサス(一二五〇)
クレードラネー	ジャ(一七二四)

中央フランス
 山嶺
 オーベルキウ諸山 ドール(一九〇〇)
 セペンヌ山脈 メゼン
 モルパン諸山
 ラングル臺地

ピレネー山脈 ビーキマール(三二九八) マルボレ(三二五三)
 アペニン山脈 ロトンド(二七〇〇)

河湖 河流は其の數少なからず、就中セイヌ河は水量の増減著しからずして、航行上に便益を與ふこと甚だ大なり。

河名	水源	長	平水量	減水量	増水量	航行し得べき部分
ムーズ	ラングル臺地	九五〇	一〇〇	二五	七〇〇	五七四
セイヌ	コートドール	七七六	三〇〇	七五	二五〇〇	五六五
ロワール	ピバレー山	一〇〇八	三七五	一〇〇	八〇〇〇	八二五
ガロンヌ	ピレネー山脈	六五〇	七〇〇	四〇	一、二〇〇〇	四七一
ロース	アラブ山脈	八一二	二二〇〇	五五〇	一、五〇〇〇	五三一

ムーズ(Meuse)河は下流をマアス(Meuse)河と云ふ、初め北に向ひ次に東流し、再び北及び西に轉じ、ライン下流の一派たるツアル河に入るが、ヘルゲン以下は航行の便あり、主なる支流をサンプル(Sambre)、ウルト(Ourthe)とす。

セイヌ(Seine)河はフランスの四主流の一なり、水源地より出て北西に向ひ遂に海峡に入るが、河口より五百六十三浬のマルシリー(Marseille)よりは短艇を浮ぶに足れり、本流に入るものは右岸にオーブ(Aube)、マルヌ(Marne)、オワーズ(Oise)あり、左岸にヨンヌ(Yonne)、ロエン(Loire)、エソンヌ(Essonne)、ウーヴル(Eure)あり、運河に依りて、ソナム、シエルト、ムーズ、ライン、ソーヌ、ロワールと連絡せり。

ロワール(Loire)河はフランスの最長流なり、フランスの中央部を北及び北西に流れ、オルレアン(Orléans)より南西に折れてトゥール(Tours)に達し、之より西流してガスコーニ、灣に終る、潮汐は河口より五十六浬のナント(Nantes)に感じ、航行の便は海より八百八十五浬のロアンヌ(Roanne)附近に始まる、然れども河口漸く浅く、洲嶼、砂灘の妨害あり、主なる支流を記せば、右岸にニエーブル(Nievre)、メーヌ(Main)あり、左岸にアリエー(Alier)、シャール(Cher)、インデル(Indre)、キエンス(Vienne)あり。

ガロンヌ(Garonne)河はピレネー山脈中に起り、水源より約四十二軒にしてフラン
スの地に入り、北東及び北西に流れ、ドルドニャ(Dordogne)と共にジロンド(Gironde)河灣
に入る、巨船はポルドーに達するを得べし、主支流はタルヌ(Tarn)、ロー(Lot)、サーブ
(Save)、シェーン(Gers)、ヌーヌ(Baise)等なり、而してツールーズ(Toulouse)に於ては東の方
地中海に達する南運河(Canal du Midi)に連なるの外、長さ百九十三軒の副運河(Canal
Lateral)に通ぜり。

ローヌ(Rhône)河はライン河の水源に近く發し、レマン湖を経て西に走り、北西に
轉じたる後西に復し、リオン平野に至りてソーヌ(Saône)(四五五)と會し、南流して地
中海に入る、右岸の支流はエン(Ain)、ソーヌ、アルデシム(Ardèche)、ガール(Gard)を主とし、
左岸にはアルプ(Arve)、イゼール(Isère)、ドローム(Drôme)、ダランヌ(Durance)あり、リオン
以下は舟運の便あり。

湖沼は國境に於けるレマン湖の外は概して小なるが、就中最も大なるは克蘭
ドリウ(Grand Lieu)(七八方軒)にして、ロワール河口に近く位す、此の外ブルジェー
(Bourget)、アンヌシー(Annecy)等あり、又南西及び南の海岸地方は多くの潟を有せり。

氣候 氣温は中和を得て健康に適せり、北西にありては海候にして變化少なく、
濕潤なり、中部殊に北東部に於ては陸候にして寒暑の差強し、南西は稍、溫和なるも、
南東は炎熱を覺ゆ、雨量は最多の處にて百五十軒内外なるが、マンシヤ海沿岸の地并
に中央の山嶺地方にありては百五十軒以下百軒なり、又南部に於ては夏季にアフ
リカより來るシロッコの熱風、冬季にアルプ風の寒風、ミストラルの吹き荒むことあ
り。

沿革 フランスの地にはケルト派のガウル人、其の他の占據するありしが、紀元
前二二五年頃よりローマの攻略を蒙り、ケイザルは六十四國を征服せしかば、之よ
り大にローマ化せりと云ふ、紀元四世紀に至りて西ゴットは南西部に、ブルガンド
はサオーヌ、ローヌの谷に、フランクは北東部に據りしが、フランクのクロドキヒは
フランス國の基礎を設くること、成り、シアルマーギヤはエプロ河よりエルベ河、北
海に達する帝國を建てたり、然るに其の後國土分裂し、九八七年にはライン河を以
て東境とするに至り、十二世紀にはイギリス王たるノルマンディー侯は多くの地を
領してフランスの土王を凌ぎしこともありしが、フィリップ(一一八〇—一二二二)の時

にはイギリス領フランスの大部の恢復あり、一五五八年以後島帝國はフランスに於て寸土をも有する所なかりき、降て十八世紀の中葉、フランスは海外に於て領土を失ひしこと少なからず、ナポレオンの出づるや、フランスの國境は擴大してイタリア、イスパニア、ネーデルランド、ドイツの幾部等をも含みしも、一場の夢たるに過ぎずして、一八七〇―七一年の役には一萬四千五百餘方料の地をドイツに奪はれたり。

人誌 人口は一九〇一年に於て三千八百九十六萬餘人ありて、一方料に就きては平均七十四人なるが配付は一様ならずして、海岸、河流の沿岸、工業の中心等においてには住民稠密なるも、山地、臺地等にありては稀薄なり、而して市街民は漸次に増加して、村落民は漸次に減却するを見る。
住民を國籍別にすれば國人の外はベルジック人、イタリア人の二を以て最も多しとす。

國籍	人員	國籍	人員
フランス	三、七二一、七〇四	ルクセンブルグ	二、六二〇、六

ベルジック	三九、五四九八	ロシア	一、五二五、一
イタリア	二九、一八八六	其他ヨーロッパ	二、八三九、四
ドイツ	九、〇七四六	アメリカ	一、二三三、七
イスパニア	七、六八一九	アフリカ、アジア	一〇、二四
シワイツ	七、四七三五	其他	一九九、四
イギリス	三、六二四九	不明	七六八

人口の増殖は極めて緩慢にして三百六十年を経ざれば、二倍せざる割合なり、従て海外に移住するフランス人の數は甚だ微々たるものなり。

年次 一八八九 一八九〇 一八九一 一八九二 一八九三
 移住者 三、一三五四 二、〇五六〇 六、二一七 五、二〇〇 五、三〇〇
 宗教上に於てはカトリック教に屬するもの最も多く、新教、ユダヤ教を奉ずるものもあり、教育は各種の機關を有せるが初等教育は無月謝にして強迫的なり。
 フランス人の氣質に就きて一言せんに、活潑、機敏、寛大、有爲にして殊に交際に長

ぜり、然れども輕卒にして忍耐力に乏しく、奇を好み新を慕ふの僻ありて、工藝、學術等に身を委するもの少なからざるも、亦功を一貫に缺くの弊なき能はず。

政治 政體は一般投票を基礎とする民政共和國にして、立法權は元老院と代議院とに依りて實行せられ、行政權は共和國大統領に委ねられ、内閣は内務、法務、外務、財務、陸軍、海軍、教育、工務、商工、郵便、電信、農務、殖民の十一省の長官より成りて、地方の行政上は八十七縣、一領地に分たる。

縣	地積	人口	方 付	縣	地積	人口	方 付
エン	五八六	三五、〇四六	六〇	下ロワール	六九八〇	六、四九七	九五
エーヌ	七四八	五、五八三	七三	ロワレー	六八一	三、六六〇	五四
アリエー	七七八	四、二〇四	五八	ロー	五三六	三、六七〇	四三
下アルプ	六九八	二、五〇二	一六	ローテガロンヌ	五八五	二、七八七	五三
上アルプ	五八四	一、九五〇	一九	ロゼール	五八〇	一、八八六	三五
沿海アルプ	三七六	二、九三三	七六	メーネロワール	七二八	五、四六八	七二

縣	地積	人口	方 付	縣	地積	人口	方 付
マンシヤ	六四二	四九、一七三	七七	コレージュ	五八八	三、八四三	五四
アルデーシヤ	五五九	三三、三五六	六〇	マルヌ	八二五	四、三八二	五三
アルデンヌ	五五三	三、五八九	六〇	上マルヌ	六三七	三、六四五	三六
アリエーシヤ	四九〇	二、〇五七	四三	マイイエヌ	五二二	三、一〇三	六一
オーブ	六〇六	二、四六三	四二	ムルテモゼル	五八〇	四、四七三	九三
オード	六三三	三、三三三	五〇	ムーズ	六四一	二、八八〇	四三
アペイロン	八七一	三、二〇七	四四	モルビハン	七〇九	五、三四六	七九
ベルフォール	六〇八	九、三〇四	一五一	ニエーブル	六八八	三、三七八	四七
ブーシヤ、チロヌ	五三九	七、四三七	一四〇	ノール	五七四	一、八六九	三三
カルパドス	五九三	四、〇二七	七二	オワーズ	五八七	四、〇七八	六九
カンタル	五七九	三、〇一一	四〇	オルヌ	六四四	三、六九五	五三
シアラント	五九七	三、〇三五	五八	バード、カレ	六七三	九、五九一	一四三
下シアラント	七三三	四、二四九	六二	ビイドドーム	八〇六	五、四一九	六八
シェール	七〇四	三、五五三	四七	下ピレネ	七七二	四、六三九	五五

世界地理 ヨーロッパ 西部 フランス共和国

上ビレネー	四三三〇	二二、五四六	四	シロンド	一〇、七三六	八三、二三三	七
コルス	八七三三	二九、五八九	三	東ビレネー	四、四四五	二二、三二二	五
コートドール	八七八七	三六、一六三六	四	ローヌ	二八五九	八四、三三九	二九五
コートチャノール	七二一八	六〇、九三四九	八	上ソニーヌ	五、三七五	二六、六〇五	五〇
クルーヅ	五六〇六	二七、七三三	五〇	サオーネ、ロワール	八六二七	六三、〇三六〇	七三
ドルドニーヤ	九三三四	四三、二九五二	四九	サルト	六、四四五	四三、二六九九	六七
ツープ	五二六〇	二九、八八六四	五七	サボワ	六、八八八	三三、四七二	四二
ドローム	六五六一	二九、七三三	四四	上サボワ	四、五九八	二六、三八〇三	五七
ウール	六〇三七	三三、四七八〇	五	セイヌ	四、八〇	三六、九九〇	七六三
ウールエロワール	五九四〇	二七、五四三	四六	下セイヌ	六、三四三	八五、三八八	一五
フィニステール	七〇二九	七三、三〇二四	一〇九	セイネマルヌ	五、九三二	三三、八三三	六二
ガール	五八八一	四二、〇八三六	七二	セイネワーズ	五、六五九	七〇、七三三	一三五
上ガロンヌ	六三六七	四四、八四八一	七〇	兩セーブル	六、〇五四	三三、二四七	五七
シエール	六二九二	二二、八四八	三八	ソナム	六、二七七	五三、七八八	八六

七一四

タルヌ	五七八〇	三三、二〇九三	五八	上ロワール	五、〇〇一	三二、四〇五八	六三
エロー	六三三四	四八、九四二	七六	タルネガロンヌ	三、七三二	一九、五六六九	五三
イルエビレーヌ	六九九三	六二、三五六七	八八	ワール	六、〇三三	三三、六三八四	五四
エンドル	六九〇六	二八、八七六八	四二	ライクリューズ	三、五七八	二二、六九四九	六六
エンドルエ、ロワール	六一五八	三三、五四一	五五	エンデエ	七、〇一六	四四、二三二	六三
イゼール	八三三七	五八、八六九三	五七	キエンヌ	七、〇四四	三三、六三四三	四八
ジャラー	五〇五五	二六、二三八	五三	上キエンヌ	五、五五五	三八、一七五三	七〇
ランド	九三六四	二九、一五六六	三三	ボージヤ	五、九〇三	四二、一〇四	七二
ロワールエシエール	六四三三	二七、五五八	四三	ヨンス	七、四六一	三三、一〇六二	四三
ロワール	四七九九	四七、七六三	一三五	合計	五三、六四六	三六、九六、九四五	七四

司法上に於ては一の大審院と二十三の控訴院とを設け、各縣に重罪裁判所を置き、各郡に始審裁判所を、各カントンに治安裁判所を置けり。

フランスは兵備上、世界屈指の強國なり、陸軍には十九軍團一軍團はアルを置き、シエリアにありを置き、常備軍は士官二萬二千餘人、下士卒五十二萬餘人ありて、別に二萬餘の憲兵あり、又

軍馬の数は十二萬三千餘に達せり、而して戰時に於ては四百五萬を超ゆべしと云ふ、次に海軍は海岸を五區に分ち、ツィロン、シエルブル、ブレスト、ロシヤホール、ロリアスの五ヶ處に軍港を設け、以て海岸の防禦に當らしむ、兵艦は四百八十隻、七十五萬五千五十二噸、約十六萬四千馬力にして、三千八百四十九門の巨砲と八百四十五個の水雷發射管とを備ふ、軍人の数は六萬人に近し。

重税を負擔するの點に於ては世界第一の國なるが、一九〇四年の豫算は次表の如し。

歳入	本 國		合 計
	アルジェリア	フランス	
歳入	三五、六三四、九八九九	六五〇九、七五三二	三六、二八五四、七四三一
歳出	三五、六五二、九九二八	六五〇五、三〇六六	三六、三〇二七、二九九四

而して本國歳出中最も多額なるは國債費にして、實に十二億一千五百三十七萬、フランスに近きが、陸軍費は六億七千六百餘萬、フランス、海軍費は三億一千餘萬、フランス、教育費は約二億三千八百萬、フランスなり、又國債の高は二百九十五億、フランスを超ゆ。

生業 フランスの全地積(五三六四、六三七〇)中、約八百四十萬稲は森林地にして、凡そ三千六百九十八萬稲は農業地なるが、農産物に穀類、馬鈴薯、甜菜、煙草、葡萄、苜蓿等あり。

植 物	栽 培 地	産 額	植 物	栽 培 地	産 額
小 麥	六五、三七一	一、二五三、〇六三	甜 菜	三五、三五三	六二八、三三二
大 麥	六九、三九四	一、四七八、五三六	其 他 根 菜	五、三六三	一、三八二、六四九
「オ ー ト」 麥	三三、二三四	九七五、六〇八	「ニ ル ザ」	三、五〇三	三、八八九
「ラ イ」 麥	一三、一七五	一、六五八、〇七九	麻 類	四、三三〇	三、三三六
蕎 麥	五、〇六四	八、九四、二六三	葡 萄	一、八七、七〇〇	四、三三六
玉 蜀 黍	五〇、二六二	八、七、四四九	煙 草	一、八二四	二、四、七七〇
雜 穀	一、六九、一九三	二、七四、三七〇	苜 蓿	一〇〇、五五七	三、八、二九七
馬 鈴 薯	一、四、八二四	一、二、八七、〇七三	草	六、八、六九三	一、九、〇三、六九二

而して葡萄酒の産出高は左記の如く消長あり。

年次	産額	年次	産額	年次	産額
一八八五	二八五三六	一八九九	四六八一〇	一九〇二	四二二五七
一八九五	二六九二八	一九〇〇	六八五一五	一九〇三	三五四〇二
一八九八	三一七三〇	一九〇一	六〇〇七四	一九〇四	六六〇一七

又栗胡桃、オリブ、林檎、ブリンム、桑葉の生産力は一億七千二百萬フランクに近く、家畜には馬(三〇三萬頭)、騾(二一、三六)、牛(一四九三)、羊(一八四八)、豚(七二二)、山羊(一五三三)等あり、家兎、家禽、蜜蜂等の飼養にも大に見るべきものあり、養蠶は政府の奨励する所にして、二十五縣殊にガール、ドローム、アルデーシ、ポルクワーズに於て盛に行はるゝが、一九〇二年斯業に従事するもの十二萬八千二百人に近く、繭の産額は七百二十八萬七千五百四十一疋なりとす、鑛業は甚だ盛なりと云ふを得ざるも、六百二十九坑と約十八萬三千七百餘人の鑛夫とを有し、年産額約四千八百八十萬噸、五億三千五百七十九萬餘フランクと概算せらる、而して石炭(三四九一萬噸)、鐵(五九)、鋼鐵(三三)の外に、鉛、亞鉛、銅、アンチモニー等あり、漁業は凡そ十四萬六千人の漁夫と約二

萬五千四百隻十二萬三千噸の内國漁船とを有するが、鱈、鯡、其の他を與ふ、紡績業は毛布、絹布、敷物等を製し、又毛絲、絹絲、綿絲、麻絲等の産あり、化學、工藝には香水、石鹼、紙、製油等あり、此の外、陶磁器、玻璃器、時計、パリー、雜貨等の産出あるを見る。貿易は、一般に五十六億九千八百萬フランクの輸入と五十五億九千七百萬フランクの輸出ありて、特別に四十三億九千四百萬フランクの輸入と四十二億五千二百萬フランクの輸出あるが、通過には七億四千六百萬フランクあり。

年次	一般		特別		貴金屬		通過貿易
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	
一八九八	百萬フランク 五五三、六	四六七三、五	四四七三、五	三五〇、九	三九一	五〇二	六三三、五
一八九九	五四八、〇	五三三、五	四五二八、三	四二五、六	五〇六	三八三	七三三、八
一九〇〇	五四八、六	五五二、六	四六九七、八	四〇八、七	六〇五	三三三	七五八、〇
一九〇一	五〇六、二	五二九、七	四三六九、二	四〇二、九	五二六	二八六	六七〇、四
一九〇二	五六八、六	五五九、〇	四三九四、〇	四三三、三	五三八	二四六	七四六、〇

特別貿易に就きての輸入國、輸出國を示せば。

世界地理 ヨーロッパ 西部 フランス共和国

地方	輸		地方	輸	
	入	出		入	出
イギリス	五六七、二	一二八二、九	其他	四一、九	一一、六
ベルジラク	三三〇、一	六三三、五	アメリカ	九〇九、三	四〇二、〇
オランダ	五二、二	五四、三	イギリス印度	二〇九、三	二九、八
ドイツ	四一八、二	四八七、四	東印度群島	三四、四	二、五
シワワイツ	一〇三、四	二二九、六	支那	一八三、二	九、三
イスパニア	一四八、三	一二五、四	日本	七八、八	八、六
ホルトガル	七、七	一八、五	其他	一、九	二、一
イタリア	一五三、五	一七四、八	アジア	五〇七、六	五二、三
エステルライヒ	七八、五	三〇、九	アフリカ	八一、五	四八、七
ウンガルン	二〇二、五	四五、八	オーストラリア	七二、三	六、一
ロシア	九八、三	二六、九	外國	三九〇九、八	三七二一、〇
スカンヂナヴィア	三七、二	五、九	アルジェリア	二五三、七	二六九、二
ロマーニア					

七二〇

地方	輸		地方	輸	
	入	出		入	出
トルコ	一〇三、八	四六、五	チャニス	二六、七	四二、六
ブルガリア	五、四	一一、二	西アフリカ	三九、三	三五、三
ギリシヤ	九、二	一一、四	レウニオン	一一、一	七、五
自由貿易地	二二、六	三六、九	マダガスカル等	三、一	三六、九
ヨーロッパ	二二、三、九、一	三三、一、九	印度	二二、七	一、五
合衆國	四二四、八	二四八、二	印度支那	四九、三	七三、七
メキシコ	六六、六	二五、七	オセアニア	一一、五	九、五
ハイチ	三〇、五	四、六	センビール	三九、四	六、一
ブラジル	八四、九	三五、四	ミルケン等	九、七	九、一
ウルグアイ	二〇、〇	一一、二	ガデロープ	一四、五	一〇、五
アルヘンチナ	二二四、六	四一、四	マルチニック	二〇	九、九
チレ	六一、六	一〇、八	ギアナ	〇、二	一九、四
ペルー	七、四	二、五	ストランド	四八四、二	五三一、二
コロンビア	七、〇	一〇、六	グレート等	四三九四、〇	四二五二、二
殖民地			合計		

世界地理
ヨーロッパ 西部 フランス共和国

七二一

貿易品の主要なるものを記せば、輸入に生毛(三三八)、蠶絲(三一二)、石炭(二八二)、實綿(二五三)、油種子(二二〇)、皮革(一九八)、木材(一八八)、穀類(一四八)、葡萄酒(一一一)、器械(一〇七)、珈琲(八八)、礦物(七五)、亞麻(七四)、絹織物(七四)、銅(七三)、畜類(六二)、酪類(五三)、綿布(五〇)、等ありて、輸出に絹布(三一一)、皮革(二五六)、生毛(二四五)、葡萄酒(二二三)、毛布(二二〇)、パリイ雜貨(一九二)、綿布(一七六)、生絲(一四二)、衣服類(一三九)、流行品(一三六)、金屬品(九七)、化學品(九〇)、酪類(八八)、砂糖(七四)、窯業品(六九)、草具(六三)、紙(五八)、器械(五三)、等あり、此等の品種に就きて分類せば。

品名	輸 入		輸 出	
	噸	數	噸	數
計	四三九四	四八〇一	四五三六	四二五二
飲 食 品	八九八	九六一	八四九	七〇七
原 料 品	二七九九	三〇二一	二八六四	一一七〇
製 品	七七七	八一九	八二三	二三七五

次に商港の主なるものはマルセイユ、ルアーブル、ボルドー、ドンケルク、セト、ルーアン等にして、出入船舶の概況を記すれば、次表の如し。

旗 章	入 船		出 船	
	隻	噸	隻	噸
フランス	七六一一	四八一、四八四九	七五五九	四六〇、三四九四
外 國	一、七六三	一四四四、九八七五	一、三八八七	九七一、六六一九
合 計	二、五二四	一九二六、四七二四	二、一四四六	一四三三、〇一一三

交通上の機關は、鐵路に四萬五千四百二十五軒あり、航河に八千八百二十六軒、運河に四千九百三十軒ありて、商船は一萬六千二十一隻、汽船一四三三〇、約百二十二萬噸、汽船五七あり、其の他郵便局は一萬一千二百餘、電信線は五十七萬一千二百餘軒の延長に達し、電話線は延長約三十八萬六千軒あり。

處誌。パリイ(Paris)二七一、四〇六八(北緯四八度五〇分一五秒はセイヌ河の兩岸並に該河中の島嶼にありて、フランスの首都なるが、人口、工業、富力等に就きては、ニューヨークに次げる大都會にして、文藝、學術、政治等に就きては、ヨーロッパ屈指の大中心

なり、而して建築の宏大美麗なる、街衢の廣潤清潔なる實に世界第一たり、寺院にはノートルダム、パンテオン、マドレーヌ、セントシヤールあり、宮殿にはルーブルあり、大劇場にオペラあり、紀念碑には凱旋門あり、バンドーム並に七月の大柱あり、其の他に隠退院等あり、又工業にはパリイ雜貨機械、衣服、飾具、書籍、家具等の製作に従事す、パリイは一大軍府として周邊に胸壁を纏ひ、附近には十六ヶ處の砲壘を有せり、パリイ附近の都會中稍、著しきものを記せば北にクリシー(Clichy) (三九五二二) センデニー(St. Denis) (六〇八〇八) センツアン(St. Ouen) (三五四三六) 東にモントルイユ(Montreuil) (三二七七三) ヴンセンヌ(Vincennes) (三二一四〇五) 西にブローニアシャール(Seine-Boulognesur-Seine) (四四四一六) ヌイイーシャルセイヌ(Neuilly-sur-Seine) (三二七四九三) 等あり、ルーヴル(Versailles) (五四九八二) はパリイの南西、鐵路約十八軒に位し、壯觀の宮殿庭園を以て名あり、ルーアン(Rouen) (一一一三六一) 北緯 四九度 二六分 二九秒 東經 一〇度 五五分 四三秒 はセイヌ河の右岸に瀕して織物、砂糖、陶器を産し、全國屈指の商港を有するが、コルネイユ(Cornille) フォントネル(Fontenelle) ボルヂエ(Boieldien) 等の生地なり、ルーアール(Le Havre) (三三〇一九六) 北緯 四九度 二九分 一六秒 東經 一〇度 三〇分 三〇秒 はセイヌの河口にありて全國第二の貿易港

なるが、殊にアメリカと取引を爲す、トロワ(Troyes) (五三一四六) はパリイの東東南、セイヌの岸に位す、舊とシアンバーヌ州の首府たりし處とす、レンヌ(Reims, Rheims) (一〇八三八五) は毛布製造の中心なるが、百年戦争の際著はれし處にして、コルムール(Colbert) は當地の産なり、ムルダン(Verdun) はムース河畔に位し、多少の工産を出だす、セダン(Sedan) はムルドンの下流にあり、ナポレオン三世が包圍せられしを以て名あり、ナンシー(Nancy) (一〇二五五九) はムールテ河に沿へる要地にして、織箔を産す、カロ(Callot) は此の地の人なり、サンカンテン(Saint-Quentin) (五〇二七八) はパリイの北東、ソム河の畔にあり、綿布を製す、バランシエンヌ(Valenciennes) (三〇九四六) はパリイの北北東に於ける軍府にして、石炭の産地にあり、ワットー(Watteau) フロワザール(Froissart) は此の地の産なり、ドゥアイ(Douai) (三三六四九) はスカルプ(Scarpe) 河に瀕する軍府にして、リース、其の他の産あり、リイユ(Lille) (二一〇六九六) は軍府の一なるが、又工藝の大中心として、麻布、リース、砂糖、機械等を製す、ルーヌー(Roubaix) (一一四二二六五) はツールコワン(Tourcoing) (七九二四三) と共にリイユの北東に於ける工業地にして、麻布、敷物を産す、ドンケルク(Dunkerque) (三二八九二五) は海峡に沿ひ、軍港商港として名

を知らる、カレノ(Calais)(五、九七四三)は商工業の盛なる地にして殊に交通上の要處たるを以て知らる、ブローローニヤ、シャル、メール(Boulogne-sur-Mer)(四、九九四九)は繁昌なる商港たるのみならず海水浴場として名あり、アミアン(Amiens)(九、〇七五八)はパリノ北ソム河畔に位し、盛に織物を産す、十字軍に名ある隠者ビエールの生地なり、チエップ(Dieppe)は繁榮なる海港にして漁業に従事す、カン(Caen)(四、四七九四)はパリーの西、微北、オルヌ(Orne)河に沿へり、レースを産す、シェルブール(Charbourg)(四、二九三八)はコタンタン(Cotentin)は一等軍港の一なり、防禦工事の壯大なるを以て有名なり、セントロ(St. Malo)は海に瀕して港を有す、十七世紀の末東印度商社の本部のありし處とす、レンヌ(Rennes)(七、四六七六)はセンマロの南南東にあり、舊とブルターキヤの首都たりし地なるが、商業上有望の位置を占ひ、ブレスト(Brest)(八、四二八四)は軍港の一にして造船所兵學校等を有す、ロリアン(Lorient)(四、四六四〇)は造船所を有するが海港を控ゆ。

ナント(Nantes)(一、三二九九〇) 北緯 四七度三三分八秒 はロワール河に瀕し、センナツェール(St. Nazaire)(三、五八一三)と相待ちて盛に商業造船業に従事す、アンジュー(Angers)

(八、二三九八)はメーヌ河とロワール河との會點に近し彫刻家、ダビド(David)の生地なり、ルマン(Le Mans)(六、三二七二)はサルトル河の右岸にあり、家禽の取引盛なり、ツール(Tours)(六、四六九五)は商業活潑なり、此の地の近傍は往昔サラセン人が敗れし處とす、オルレアン(Orleans)(六、七三一一)はロワールの右岸にありて史上有名の地たり、ブルジ(Bourges)(四、六五五一一)はオルレアンの南南東にありて大砲製造所を有す、モントルアン(Montluçon)(三、五〇六二)はフトルジャの南方シエル(Cher)河畔にありて、製鐵板硝子製造に従事す、クレルモン、ラン(Clermont Ferrand)(五、二九三三)はアリエール(Allier)ンダー(Bedat)兩河の會する處にありて、ノートルダムは宗教史上名あるが、パスカル(Pascal)は此の地の人なり、センチチエンヌ(St. Etienne)(一、四六五五九)はロワールの支流に瀕し、リヨンの南西産炭地にありて冶金業上、當國第一の中心なり、又織物を製するが殊に筐縁を産するを以て名を知らる、ロアンヌ(Roanne)(三、四九〇一)はリヨンの北西、ロワールの左岸にあり、ルクルソン(Le Creusot)(三、〇五八四)は鐵及び石炭の産地にあり、ポアチエール(Poitiers)(三、九八八六)はツールの南南西にありて、稍名を知らる、ラロシヨル(La Rochelle)(三、一五五九)はマンシヤ海に瀕し、造船に従事す、レオームル

(Réanmur) は此の地の人なり、ロシヤノール (Rochefort) 三六四五八はシレント河の下流に瀕し一等軍府の一たり、アンヅーレーム (Angoulême) 三七六五〇はロシヤノールの上流にありて、ブランデーを取引す、ナバルのマーガレットは此の地の人なり、リモージュ (Limoges) 八四一二一はツールーズの北にありて陶器を産す、ボルドー (Bordeaux) 二五、六六三八北緯 四四度五〇分 西經 一〇度三一分 二分 七秒はフランス第四の大都會にして第三の商港なり、ガロンヌ河に瀕し葡萄酒、銘酒を輸出す、詩人オーソニウス (Ausonius) は此の地の産なり、モントーラン (Montauran) 三〇五〇六はツールーズの北にありて毛布を製す、ツールーズ (Toulouse) 一四、九四八一はボルドーの南東にありて水利の便を有す、軍府の一なるが文藝又は商業の中心として名を知らる、クジヤシウス (Cujacius) は當地の人なり、ポー (Pau) 三四二六八はボルドーの東南東にあり亞麻布「チヨレント」を産す、バイヨンヌ (Bayonne) はポーの西北西、マンシ、海に近き處にありて軍府の一たり、ペルピニアン (Perpignan) 三六一五七は地中海並にイスパニアとの國境に近し、赤葡萄酒、ブランデー等の産あり、ナルボンヌ (Narbonne) はミヂ運河の一支に沿へり、カルカンヌ (Carcassonne) 三〇七二〇はオード河に沿ふ、クロースの産あり、シエー (Béziers) 五、二二二〇はオルブ (Orb) 河とミヂ運河との會する處にあり靴下を産す、セト (Cette) 三、三二二四六はタウ (Thau) 潟と地中海との間に於ける商港なり、モンペリエー (Montpellier) 七、五九五〇は海を距る約十軒にありて繁華の地たり、ニーム (Nîmes) (八、〇六〇五) はモンペリエーの北東、沃地に位し、絹布葡萄酒等を産す、アビニオン (Avignon) (四、六八九六) はローヌ河の左岸にありて紙、熟皮等を製す、宗教史上名ある處なり、グレノーブル (Grenoble) 六、八六一五はリヨンの南東にありて飲料を製す、リヨン (Lyon) (四、五、九〇九九)北緯 四五度 四一分 四一秒 東經 四度 四七分 二秒はフランス第二の大都會にしてローム、サオーヌの合流地に建てり、盛に工業商業を營むが殊に絹業を以て有名なり、又一大軍府として中部の巨鎮たり、此の地に我が領事館あり、グルノーブル (Grenoble) (六、八六一五) は軍事上の要處なり、ヂジヨン (Dijon) (七、一三二二六) はアフリク山の麓に於ける商業地なり、ブザンソン (Besançon) 五、五三六二はヂジヨンの東に位せる軍府なり、アベル・ベリヤール (Abel Rémusat) ヴィクトリアール (Victor Hugo) は當地の人なり、ベルフォーール (Belfort) (三、二五六七) はヂジヨンの東北東、ドイツに近き軍府なり、普佛戰爭の際不落城として名あり、マルセイユ (Marseille) 四九、一一六一北緯 四三度 一八分 一九秒 東經 五度 二三分 三九秒はパリの南南

世界地理 ヨーロッパ 西部 フランス共和國 七二九

東鐵路八百六十三軒、ローヌ河口の東四十三軒に位し、當國第三の大都會にしてフランス第一の貿易港なるが、亦地中海第一の商港なり、穀類を輸入し、織物、葡萄酒、果物を輸出す、而して盛に造船に従事し、有名石鹼を製す、ピテアス(Pytheas)ペトロニウス(Petronius)チエール(Thiers)彫刻家プッシー(Puget)等は此地の産なり、ツォロン(Toulon)(一〇一六〇二)は世界屈指の軍港なり、港内は安全にして、水底深く、多数の大艦を容るるに足り、防衛的工事を始めとし、造船所、繫船場等の設備の完全なる他の四軍港の遠く及ばざる所なり、カンヌ(Cannes)(三〇四二〇)は地中海に濱せる水浴地たり、ニース(Nice)(一〇五一〇九)はニッツ(Nizza)とも呼ばる、マルセイユの東、微北に位し、冬期保養地として名あり。

殖民地 フランス人は本國の富力と兵力とに據りて、各方面に向ひて有望の地を擴張せしも、虚名に走りて、實益を收得するの策を講ぜざりしに因るならんか、ヨーロッパの多端なりし際、殖民地は殆ど全滅に歸したり、然れども本國の富強は本業に至大の關係を有するが故に、其の再興を圖るや、半世紀にして、殖民國中の第三位を占るに至れり。

地名	地積	人口	方軒ニ付
アルジェリア	八九、〇〇〇 <small>カバ</small>	四八〇、一四七五	五
チュニジア	一六、七四〇〇	一八二、〇〇〇〇	一一
フランス領西アフリカ	一七三、七四〇〇	一二七〇、〇〇〇〇	七
サハラ	五〇三、七四〇〇	七九、〇〇〇〇	〇、一
フランス領コンゴ	一七六、二〇〇〇	八五〇、〇〇〇〇	五
フランス領ソマリ及び屬地	二、一〇〇〇	五、〇〇〇〇	二
マダガスカル	五九、二一〇〇	二六一、九〇〇〇	四
レウニオン	一九八〇	一七三、一九二	八七
マイヨツ、コモロ	一九七八	八、五〇〇〇	四三
センポール	七		
新アムステルダム	六六		
ケルゲラン	三四一四		

世界地理 ヨーロッパ 西部 フランス共和國

アフリカ部	一〇二二、四七〇〇	三二五〇、〇〇〇	七三二
印度	五〇九	二七、三一八五	五四五
印度支那	六六、三〇〇〇	一七八〇、〇〇〇	二七
アジア部	六六、三五〇九	一八〇七、三〇〇〇	二七
センビエール、ミクロン	二四二	六四八二	二七
グアダルップ	一六〇三	一五、七八〇六	九八
マルチニック	九八八	二〇、七〇一一	二一〇
フランス領グイアナ	七、八九〇〇	三、二九〇八	〇、四
其他	二六七	二、四六一二	九二
アメリカ部	八、二〇〇〇	四二、八八一九	五
新カレドニア、ロワイヨータ	一、九八二三	五、一八六五	二、五
チエスターフィールド	〇、八		
ワリス、ホツナ、アロフィ	二五五	六〇〇〇	二、三
オセアニア諸領	四一四〇	三、一〇〇〇	七

クリッペルトン	六		
南洋部	二、四二二五	八、九〇〇〇	四
合 計	一〇九八、四四〇〇	五〇〇〇、〇〇〇〇	五

モナコ公國

モナコ(Monaco)公國は往昔フェニキア并にギリシヤが殖民せし舊地にして、創建者モナコスの名に因みてモナコと稱す、第十四世紀以來、グリマルヂ(Grimaldi)家の統御の下に獨立するも、境域は漸次に退縮して、長さ三軒半、潤百五十乃至一千米突の小邦と成り、僅に二十一方軒餘の地積を有するに過ぎず、然れども此の面積は尙ほ大に失し、近年のアルマナードゴターは一方軒半とせり、土地の要部は半島を形成し、六十米突の斷崖に依りて碧海に枕み、封建時代の建築は近世の邸第、民屋と共に蒼鬱たる松樹の間に散見せり、風景の壯嚴優雅なる、氣候の溫暖爽快なる、夙に世人の稱嘆する所なり、人口は一萬五千八百八十人ありて、三千二百九十二人はモナコに居り、其の他はコンダミーン(Condamine)、モンカルロ(Mont Carlo)の二村に住せり、君主

は絶對の統治者にして國內には代議體なく、經常收入は約百二十八萬フランクにして、支出は百二十五萬フランク餘なり、國債は一も存せず、土地は狹隘にして地味も亦佳良ならざるを以て、多量の物産を興ふる能はざるは勿論なれども、油、橙、檸檬、薰香、飲料等を輸出せざるに非ず、有名なるカジノ(Casino)は眺望絶佳の高地にありて、外觀の壯麗なる人目を驚かせり、誰か知らん、此の裡に一攫千金の暴富を望む慾奴の集會し居らんとは。

イギリス王國

境域[○] ブリタニア群島は太西洋中にありて、ヨーロッパ洲の北西にあり、群島は大ブリタンとアイルランドとの二大島并に數多の島嶼より成れるが、北西は太西洋に臨み、東は北海に瀕し、南はマンシヤ海を隔て、フランスに對せり、地積は三十一萬四千三百餘方呎なれば、約我が國の四分の三に當れり、左に若干の地點の、經緯度を列記せり。

地 點	北 緯	西 經
シエトランド	サクサフォード(Saxford)	六〇 ^度 五〇 ^分 〇 ^度 五〇 ^分
大ブリタン	ツンネットヘッド(Dunnet Head)	五八 四〇 四 三七
	リザードヘッド(Lizard Head)	四九 五八 五 一二
	ランズヘッド(Lands End)	五〇 四 五 四三
海 峽 諸 島	ラロック(La Roque)	四九 一〇 二 二三
	マリントヘッド(Malin Head)	五五 二二 七 二五
アイルランド	ファストネットヘッド(Fastnet Rock)	五一 二六 九 三七
	ダンモアヘッド(Dunmore Head)	五二 七 一〇 三〇
シルリー諸島	ビショップロック(Bishop Rock)	四九 五三 六 二五

二大島以外の島嶼には、北西にヘブリデス諸島あり、北にオルクニー諸島あり、南シエトランド(Shetland)の諸島あり、中部にマン島、グナジー、ジャージー、アングレーズ、ジャージー諸島あり、南にシルリー諸島、ワイト(Wight)島、グナジー(Guernsey)、ジャージー(Jersey)島等あり、海岸は概して屈曲に富めるが、太西洋はアイルランド島にドネガル(Donegal)、ガルウェイ

(Galway)等の諸灣を爲し、インヅランドにブリスタル(Bristol)灣を爲せり、北海は大ブリテン島の東岸に於て、モレー(Moray)、フォース(Forth)、ワッシュ(Wash)等の諸灣并にハンバー(Humber)、テムズ(Thames)の河口を爲せり、北は北の水道(North Channel)に依り、南はセントジョージ(St. George)の水道に依りて、大西洋に通ずるアイルランド海の北にクライド(Clyde)灣あり、又岬崎の著しきものは大ブリテンの北にマンカンズビー(Dun-cansby)、ウラム(Wrath)あり、南にランツェンドあり、アイルランド島にはマリニン、ミゼン(Mizen)等あり。

山誌 土地の起伏に就きて記るんに、大ブリテン島にありては、グランビアン(Grampian)山脈は南西より北東に趣き、四百料に亘りて、スコットランドをローランド(Lowlands)低地とハイランド(Highlands)とに分ち、其の最高峯はベンネビス(Ben Nevis) (一三四三)なり、而してカンブリアン(Cambrian)山脈の最高處はスカフェル(Sca Fell)九七八にして、ウエールズの最高峰はスノードン(Snowdon)一〇八九なり、イングランドの南東部は平低にして多少の丘陵の存するあるも、其の海拔は著しからず、而して海岸は北西、南西にありては花崗岩的なるも、南東は白堊的にして、東は砂濱を爲せ

り、アイルランドの中部は平低にして、海拔は七十五米突、内外なるが、南西部は最も高く、北部と東部とは之に次げり。

グランビアン山脈

- ベンネビス (一三四三) ベンマックス (Ben Macdui) 一三〇九
- ベンローヤーム (Ben Lawers) 一一一四 ロクナガール (Lochnagar) 一一一五
- ベンアルダー (Ben Alder) 一一四五 ベンクラウカン (Ben Cranchau) 一一一四

チヒビ オット 脈

チヒビ オット (Cheviot) 山 (八一六) ピール ノール (Peel Fell) 六〇二

ウェールズ 山脈

スノードン (一〇八九) カルンエドダント (Carnedd Dafydd) 一〇四五

アイルランド 諸山

カルランツオビル (Carrantuohilly) 一〇四一
ルグナキルラ (Lugnaquilla) (九二六)

水誌 河流は短小なれども、中流以下は廣濶にして航行に適するもの多し、北海に注ぐものはフォース、トキード、タイヌ、ウイス、トレントより成れるハンバー、ウイス、テムズ等にして、大西洋并にアイルランド海に注ぐものはセベルン、メルシー、クライド、シンノン等なりとす。

斜面	河名	河長	流域	斜面	河名	河長	流域
	スペー(Spey)	一五〇	?		セーン(Seyern)	三六六	一、四〇〇
	デー(Dee)	一四〇	?		メルシー(Mersey)	一〇七	四一九
	テイ(Tay)	一六六	六二六		クライド(Clyde)	一五八	四九三
	フォース(Forth)	九七	一六七		バン(Bann)	一六二	?
	トキード(Tweed)	一五〇	四八三		ボイネ(Boyne)	一六二	?
	タイヌ(Tyne)	一七二	六四九		リフター(Liffey)	一三三	?
	ウース(Ouse)	一四一	一四三		スラニー(Slaney)	一三三	?
	トレント(Trent)	二二〇	一、〇六〇		バロー(Barrow)	一八三	?
	大ウース(Great Ouse)	二二一	七六六		ブラックウォーター(Blackwater)	一四五	?
	テムス(Thames)	四〇八	一、三三〇		リー(Lee)	一五七	?
	タマル(Tamar)	七三	?		シンノン(Shannon)	三六〇	?

テムス(Thames, Thamys, Tames, Temse)河は正しくはテムズと稱ふべし、蓋し廣水

の意ならんと云ふ、大ブリタンの最も主要なる河流にして、其の南部を東南東に流る、四源ありてテムス即ちイシス(Isis)、チャルン(Churn)、コルン(Corn)、リーチ(Leach)と呼ばれ、コックスワルド(Cotswold)山脈の南東面に發す、南東に向ひてオクスフォードを過ぎ、西來のケンネット(Kennet)を容れて又方向を變じ、東方に曲りてキンツル、イトン、デ、ヂングトン、リチモンド、ロンドン、グリニチ、ウールキチ等を過ぎて廣き河灣を爲し、遂に北海に入る、長は四百五十軒ありてイギリスの諸流の首位を占むるが、或は三百四十六軒を以て第二位にありとす、潮汐はテヂングトン(海より百二十九軒)に達せり、流域は一萬二千一萬五千餘方軒あり、河幅はロンドン橋に於て約二百六十五米突なるも、其の河口、ホイッテーパー(Whistable)、ノールネス、ポイント(Fortness Point)間にては二十九軒あり、本流はレクレード(Lechlade)まで航行し得べきが、八百噸以上の巨船はロンドン橋の下流六マイル、ブラックウォール(Blackwall)に至るべく、該橋附近はプール(Pool)と稱せられ、ロンドン橋、ブラックウォール間は「ポート(Port)」と呼ばれる、而して下流は漸次砂泥の妨害する所と成らざるに非ざるも、ロンドンに對しては欠くべからざる大動脈なり、支流の主要なるものは左岸にキンドルシ(Windrush)、チャム

テムズ(Thames)の支流に於けるブリンリムモン(Philimmon)の東面に發し、東
北東、南東等の方向に流れ、遂に南してグローススターに達するや、河灣を爲すに
至る流域は一萬一千餘万軒ありて、長さは約三百九十軒なるが、ウェルシュ(Welsh-
pool)まで二百九十軒間は舟運の便あり、主支流はテムズ(Terne)上流のアボン(Avon)
テムズ(Terne)よりなりとす。

シノン河はアイルランドの最長流なり、クイルカグ(Cuilleagh)山脈に起り、流る
ること三百六十軒にして大西洋に入る、途中アレン(Allen)、キーダグ(Boderg)、ボフ
ン(Bohn)、ボクス(Borbes)、ロー(Ree)、デアグ(Derg)等の諸湖を過ぐるが、河灣は長は百十
三軒幅十六軒ありて、入口より約十六軒の地に於ける幅は凡そ二千四百米突なり、
航行の便はフォイン(Foyes)より始まる、サク(Suck)、フエラグス(Fergus)は右岸より、インニ
ー(Inny)、ブrossna(Brossna)、ムルキール(Mulkear)、マイグ(Maigne)、デア(Deal)は左岸より會

するが、本河も亦運河を有せり。

沼湖に就きてはスコットランドに於けるものは稍著しく、ネス湖の如きはカレド
ニア(Caledonian)運河を爲すを以て名あり、而してアイルランド島にありては、沼湖
の数は少なからざれども、水底淺くして、實際に便益を供するものは稀なり。

スコットランド

ロモンズ(Lomond) 長三九軒、幅一七軒、カトリン(Katrine) 長一四軒、キー(Awe) 長三
四軒、ネッス(Ness) 長九軒、シン(Shin) 長三軒、マリー(Maree) 長二軒、レベン(Leven)
イングラランド、ウーラムス

ウインダミーネ(Windermere) 長二六軒、ウルヌウスター(Ulleswater) ノリス
ン(Coniston) シルウアントウスター(Perwentwater) ベンヤントウスター(Bassenthwaite)
クルムボーン(Crummock) ウストウスター(Wastwater) バラ(Bala)
アイルランド

ネー(Neagh) 面積三八、エルン(Erne) マスク(Mask) コリバン(Corrib) ハルナン
(Allen) リー(Rae) シナン(Derg)

氣候 群島の周圍に於ける海水が比較的、高温なるに依り、氣候は概ね温和にして變化なく、殊に濕潤を覺ゆ、アイルランド(北緯五十二度)の平均温度は合衆國の北緯三十八度下に於ける平均温度に等しく、同じ平均温度を有するスコットランドの北部とアメリカ洲とを比較すれば緯度に二十度の差あり、而して冬季の寒氣はヘブリズ諸島よりテームス河畔に強し、又群島には曇天多く、濃霧屢起りて咫尺を辨ずる能はざることあり、殊にロンドン、マンチェスター、バーミンガム等の如き市街の地には、黄霧の爲に空氣の流通を妨げらるゝことあり、降雨は西部、南西部、并に山地に多く、降雪は海濱に稀にして、積雪を見るは山岳地方に限れり。

沿革 ブリテン島は西紀前五十四五年の頃、ケイザルの兵を蒙りしことありしが、西紀四四九年の頃、アングル、サクソンの如きもの渡來して、ブリトン人を討ち、爾後七國の分立あり、八二七年、エグバートの時統一し、一〇六六年には、ノルマンチー公に征服せられ、一五三六年に至りて、ウェールスはイングランドに合はせられたり、而してスコット人、ピクト人等の據りしスコットランドは一六〇三年に及びて亦イギリスに合し、一七〇年に始まりしアイルランド征伐は遂に該國をして一八〇

一年大ブリテンに連合せしめ、所謂大ブリテンアイルランド聯合王國(United Kingdom of Great Britain and Ireland)の形成を見るに至れり、該國の殖民地的膨脹は十七世紀の頃より始まれるが、十八世紀にはアメリカに於ける大殖民地を失ひしが如きことあるも、次世期には亦印度半島地方に其の勢力を伸張せるあり、之を要するに幾多の年月を経て初めて統合せるブリタニア群島は、其の地積大なるに非ざるも、而もイギリス人が代々辛苦經營せる結果、空前の強大勢力たるブリテン帝國(British Empire)の出現を見るに至れり、近年我が日本と同盟せるイギリスの國土の變遷は主としてブリタニア群島以外に於て之を見る。

人誌 大ブリテンアイルランド聯合王國の人口は四千二百萬に近くして、方軒に就きての人口は百三十二人なり、人口の増殖は一年にて凡そ四十萬人なれば、八

イギリス	ウエールズ	面積	人口		方軒ニ付
			男	女	
一五、一〇、二五	一五、七、八六三	一、六、七、九三〇	三、五、二、七四三	二、二五	七四三

世界地理 ヨーロッパ 大ブリテン王國

スコットランド	七、八七六	二七、三三五	三九、八三八	四七、二〇三	五
アイルランド	八、三七九	二〇、〇四〇	二五、八七五	四四、八七五	五
マン島	五八八	二、五四六	二、九五六	五、四七三	九
海峽諸島	一九六	四、五〇八	五、〇三八	九、五六八	四九
兵士、海員		三六、七三六	二四、三六〇	三六、七三六	四八
合計	三三、四三九	二〇五、〇七〇	二四四、六〇七	四九七、六三七	

七四四

十五年乃至九十年を経る毎に人口は二倍する割合なり、而して外國に移住するものは毎年凡そ二十萬人にして、一八一五年より一九〇三年までの往住者の數は一千六百五十九萬七千八百八十人なるが、一九〇三年に於ける統計は左の如し。

イギリス人	一、二三六	五、九六五	一、二三七	五、〇一六	一、四〇四	二五、九九〇
外國人	一、二七三	三、九六三	一九六	一、二六四	一八、一五九	
不明	一〇三	二八七	二	四	六七二	七五七
合計	二五、二九二	九、九五三	一、二五七	六、二二四	二、〇八六	四四、九〇六

外國より來住するものに就きて一表を作れば、

年次	人員	年次	人員	年次	人員
一八九五	一七、五六七	一八九八	一三、九三四	一九〇一	一六、五〇一
一八九六	一五、九九三	一八九九	一六、二一一	一九〇二	一七、〇八七
一八九七	一五、五一四	一九〇〇	一七、五七七	一九〇三	一九、九六八

國人の多數はイギリス語を用ふれども、約百八十五萬はケルト語を用ふと云ふ、又、宗教に就きては、各派の新教信者を合はせば三千五百萬以上に達すべきが、信據すべきものはアイルランドの統計のみにして、其の約三百三十一萬はローマカト

リック教徒五十八萬はイギリス派、四十五萬はプロテスタント派、六萬はメソヂスト派に屬せりとす。

教育は盛にして全國に普及せるが、殊にスコットランドを以て然りとす。從て教育的機關は階級相應のものを具備して高等教育には十三ヶ處の大學を有せり、即ちオクスフォード、ケンブリヂ、ケンブリヂ(Durham)、ロンドン(London)、トリア(Victoria)、バーミンガム(Birmingham)、リヴァプール(Liverpool)、リーズ(Leeds)、ウォルムセントアンドロワー(St. Andrews)、グラスゴー(Glasgow)、アバディーン(Aberdeen)、エジンバラ(Edinburgh)之なり。

イギリス人の氣質に就きて一言せんに、イングランドの人は思慮深く政治思想に富み、殊に工業、商業、殖民業等の實業に巧にして、美術に長ずるよりは寧ろ科學を得意とせり、而して其の缺點を擧ぐれば、自尊に過ぎて利己に傾き易く、殊に未開の民を遇するに暴戾の形跡あるを認めざるを得ず、スコットランド人は傲慢にして威激し易きも、亦萬事に意を用ふること切なり、アイルランド人は輕卒に過ぐるの嫌あるも、寛大にして機敏なり。

政誌 政體は立憲君主國にして、君主は大ブリテン、アイルランド聯合王國及び海外ブリチン領國王、信教擁護主、印度皇帝と稱す、法律の制定は國會の議決に依り、皇帝は之に對して認可權を有せり、國會は上下の二院より成れるが、貴族院は五百九十四人の議員を有し、衆議院は六百七十人の議員を有せり、内閣は首相兼大藏大臣、評議會會長兼文部大臣、高等法院長、王璽大臣、アイルランド大法官、外務大臣、印度大臣、内務大臣、租稅院長、殖民大臣、陸軍大臣、海軍大臣、地方大臣、商務大臣、アイルランド事務總裁、スコットランド事務官、農漁大臣、驛遞總監の十八人より構成せらる、地方は行政上、イングランドに五十郡、ウェールズに十二郡あり、スコットランドに三十三郡あり、アイルランドに四州、三十四郡あり、司法に關しては上等法院、控訴院、高等法院等あり。

兵備は陸軍に士官一萬三千九百九十一人、下士卒二十七萬八千四百六十六人あり、之に四種の豫備兵五十萬七千九百一十一人、并に印度軍を加へば九十七萬四千九百三十八人ありて、軍馬は九萬四千二百二十一頭なりとす、海軍は世界第一にして新式兵艦三百八十一隻、百七十三萬餘噸、舊式兵艦九十八隻、三十六萬餘噸あり。

戰艦	戰艦	隻數	噸數	馬力	砲門	水雷管發射	乘員
甲裝巡洋艦	戰艦	三	四,九〇五〇	五,四〇〇〇	五四	一二	二四〇〇
甲裝巡洋艦	戰艦	六	八,一三〇〇	一四,一〇〇〇	九六	二四	四五〇〇

世界地理 ヨーロッパ 英國

七四九

尙ほ建造中のものを記せば

合計	式					
	其他	ヨット	砲艦	スループ	巡洋艦	水雷母艦
九八	* 一〇	七	五〇	* 四	八	一
三六,四三九〇	六,五〇〇〇		一,八〇〇〇	二,〇〇〇〇	六四〇〇	二四,二〇九〇
二五,七〇七〇	六,〇〇〇〇		一,一五七〇	二,一〇〇〇	二四〇〇	一四,七一一〇
六三六		一〇三	八〇	六	三〇	四一七
一〇二			六	四	一二	八〇
二,五二六五	四〇〇〇		二〇八〇	二九〇〇	二七五	一,五〇五〇

合計	新式										
	通報艦	ヨット	艦	スループ	驅逐艦	水雷母艦	水雷砲艦	防護巡洋艦	甲裝巡洋艦	乙種戰艦	甲種戰艦
三八一	二	一	三〇	一四	九五	一	三五	一二	三五	二〇	三六
一七三,三五九五	三三五〇	四七〇〇	二,五〇〇〇	一,四八一〇	二,五八五〇	六六二〇	二,七八一五	五,一四〇〇〇	三,四七五〇〇	二,四二八〇〇	五,二,一一五〇
三三三,一五〇〇	六〇〇〇	一,一〇〇〇	三,六〇〇〇	二,三三〇〇	五,六,七〇〇〇	一,二〇〇〇	一,一,五七〇〇	一〇,二,九〇〇〇	六,七,一五〇〇	二,四,七〇〇〇	五,一,四〇〇〇
二七〇一	八		一五四	一〇〇		八	七〇	一〇六四	四六八	二三九	六三二
一一〇八					一九〇	六	一三一	四〇三	一一八	一一〇	一四〇
一一,〇八六四	二二〇	三五〇	三,三二〇	一,八一〇	五,一七〇	四三五	三,三三〇	三,六二〇九	二,二二〇〇	一,二四六〇	二,七五七〇

七四八

各種汽船	潛航艇	驅逐艦	搜索艦
六	一五	二〇	八
二〇〇〇		一、二〇〇〇	二、二六〇〇
二五〇〇		一四、〇〇〇〇	一三、〇〇〇〇
		四〇	一六〇〇
		一〇〇	七五〇

財政に就きて近年の状況を示せば、左の如くなるが、

度	經常歳入	歳出	差
一八九八—一九九	一、〇八三、三六一、九八 ^{ポンド}	一、〇八一、五〇三、三六	(+)
一八九九—一九〇〇	一、一九八、三、九九〇、五	一、三三七、二、二四〇、七	(-)
一九〇〇—一九〇一	一、三〇三、八、四六八、四	一、八三五、九、二二六、四	(-)
一九〇一—一九〇二	一、四二九、九、七九九、九	一、九五五、二、二二一、五	(-)
一九〇二—一九〇三	一、五一五、五、一六九、七	一、八四四、八、三七〇、八	(-)

一九〇四年度の歳入は一億四千五百五十五萬ポンド、弱にして、歳出は一億四千七百萬ポンドに近し、而して國債の高は約七億六千二百六十三萬ポンドに達せり。

入		出		費税目	金額
電信料	三、七〇〇、〇〇〇	徵稅費	一、八一五、七〇〇	國債費	二、七〇〇、〇〇〇
郵便稅	一、五四五、〇〇〇	民政費	二、六八七、〇〇〇	軍事費	七、二一五、三〇〇
所得稅	三、〇八〇、〇〇〇	海關稅	三、三八五、〇〇〇	軍費	二、六八七、〇〇〇
地稅家屋稅	二、六五〇、〇〇〇	國稅	三、二五五、〇〇〇	其他	一、四六九、六一三、六
印紙稅	二、〇五〇、〇〇〇	雜稅	二、〇五〇、〇〇〇	經常支出計	七〇、五六、九、二九四
雜收入	一、六〇三、一〇四	國有地收入	四、六〇〇、〇〇〇	其他	二、七八、一一三、六
收入計	一、四一五、四、五五七、九	スエズ運河收入等	九八、二四七、五	合計	二、二七五、三、〇四三、〇
繰越金	六、六三、七、二二七	合計	二、二七五、三、〇四三、〇	合計	二、二七五、三、〇四三、〇
其他	六、九三四、七七二、四				
合計	二、一七五、三、〇四三、〇				

生業 農工商は共に發達して、當國の富力をして偉大ならしめたるが、殊に商工

の二業は世界第一にして、實に空前の盛況を呈せり而して其の原因たるや、石炭と鐵とに富めるを第一とし、製作品の販路に當れる殖民地の饒多なるを第二とし、世界各部の間に於ける交通上の機關たる船舶を十分に備ふるを第三とし、國人に有爲、着實、忍耐、不撓等の美性あるを第四とす。

先づ農業に就きて記さんに、イギリスの地積百分中、一七、六は耕作に適せず、三、九は樹木の占むる所と成り、三〇、三は牧地にして、四八、二は農業地なるが、最後のものは概して大農に屬し、八町歩以上の地主は百分の九十三強に達すと云ふ、殊にアイルランドにありては耕地は僅少の豪族の間に分たるゝを以て、農民は殆ど小作人たるに過ぎず、而して農産は馬鈴薯、亞麻、大麻等にして、イングランドの南部にありては果樹の栽培を見る、又土地の濕潤にして氣候の海洋的なるは牧草の生育に適するを以て、養畜の業は甚だ盛なり、豚四一八萬頭、牛一一五四、馬二〇九、羊二九〇三は、何れも良種として名を知らる、森林は多からざるが、アイルランドには皆無なりと云ふ、水産業は十萬七千餘人の漁夫と二萬四千七百餘隻の漁船とを以て、九百二十五萬餘ポンドの金額に達する魚介類を與へたるが、漁船中の約二千隻は汽船なり

とす、鑛業に就きては主要金屬の産出價額約一千五百二十五萬ポンドに達し、錫(五四)、鉛(二三)、亞鉛(二〇)等あり殊に各地より出づる鐵は凡そ一千四百二十萬ポンドなり、非金屬の總産額九千七百六十八萬餘ポンドの大部は石炭より成り、之に次げるは砂岩(一八〇)、粘土(一七七)、粘板岩(一三七)、花崗類(二三)なりとす、而して石炭はクライド(Clyde)、カトバーランド(Cumberland)、ジールハム、ノルサンバーランド(Durham, Northumberland)、ランカシャー(Lancashire)、ヨークシャー、デビルシャー、ヨークシャー、Derbyshire)、スタフォードシャー(Staffordshire)、南ウールズ、ブリストル(Bristol)等の煤田より出て、凡そ八千八百二十三萬ポンドの價額に達せり、殊に注意すべきは石炭と鐵とが相近き地に産することなりとす。

工業の状況を記さんに、機械の進歩改良が最高の度に達したるが爲、全地球をして當國製作品の供給を仰がしむるに至れり、而して工藝の中心は全國到る處に存して、鑄物、機械、兵器、刃物、針、時計、車輛、陶器、船舶、化學品、紙、其の他を製せり、殊に織物業は著しく約百三萬、男三、七、九、二、一、一、人の職工の従事するありて、綿布、羅紗、絹布、レース、

麻絲、麻布等を與ふ。
 貿易場は其の隆盛なる實に羨むべきものあり、左に最近十ヶ年間の貿易額に就きて表示する所あらんとす。

年次	輸入	輸出		輸出入計
		イギリス産	外國、殖民地産	
一九〇四	五、五二一、三六二、二二四	三、〇〇八、一七八九七	七、〇三二、一九一八	九、二三五〇、一九三九
一九〇三	五、四二六、〇〇二、八九九	二、九〇八、〇〇一〇八	六、九五七、三五六四	九、〇二九七、三九六一
一九〇二	五、二八三、九一二七四	二、八三四二、三九六六	六、五八一、四八一三	八、七七六三、〇〇五三
一九〇一	五、二一九九、〇一九八	二、八〇〇二、二三七六	六、七八四、一八九二	八、六九八五、四四六六
一九〇〇	五、二三〇、七五一六三	二、九一九一、九九六	六、三一八、一七五八	八、七七四四、八九一七
一八九九	四、八五〇、三五五八三	二、六四四九、二二一一	六、五〇四、二四七七	八、一四五七、〇二四一
一八九八	四、七〇五、四四七〇二	二、三三三五、九二四〇	六、〇六五、四七四八	七、六四五五、八六九〇
一八九七	四、五一〇、二八九六〇	二、三四二一、九七〇八	五、九九五、四四一〇	七、四五二〇、三〇七八
一八九六	四、四一八、〇八九〇四	二、四〇一四、五五五一	五、六二三、三六六三	七、三八一一、八一八

一八九五	四、一六六八、九六五八	二、二六二二、八二四六	五、九七〇、四一六一	七、〇二五二、二〇六五
------	-------------	-------------	------------	-------------

前表中の輸入及びイギリス産輸出額に就きて一人割の額を算せば、

年次	輸入	輸出	年次	輸入	輸出
一九〇四	一一二、一七八	七〇、七	一九〇〇	一一一、七	六一、九
一九〇三	一一二、一六	六一、七	一九〇一	一一一、三	六一、五
一九〇二	一一二、一〇	六一、五	一九〇〇	一一一、五	六一、七
一九〇一	一一二、一	六一、四	一九〇〇	一一一、三	六一、一
一九〇〇	一一二、一四	六一、六	一九〇〇	一一一、六	六一、四

次に一九〇二年及び一九〇三年に於ける輸入高并にイギリス産輸出高を地方別にして示さん「単位千」

地方	一九〇二年		一九〇三年	
	輸入	輸出	輸入	輸出
イギリス殖民地	一〇、六七九三	一一、三六七二	一〇、九〇二九	一一、二一四七
イギリス王國	一四、九二二	一四、九二二	一四、九二二	一四、九二二

世界地理 ヨーロッパ イギリス王國

ヨトロッパ	二二六六一	一七四五	二九八七	三〇七五
北アメリカ	二九九五	二七二八七	一〇八九二	一一七〇三
西印度南アメリカ	三〇六五八	二二七八	二七二二	二八四八
オーストラリア新ジ ーランド	二八七二四	三〇五二二	二五三四五	二二五四〇
東印度	六〇五三	三二三〇五	三二六八二	三四四七七
海峽殖民地	四三八七	五八九三	二七四五	三二二六
セイロン	六一〇	四三五四	一四四六	一四四〇
香港	二四三	五八三	二二三六	二七二〇
マウリチアスシエ セル	五六五四	二一〇	三九九	四三三
南アフリカ	一九九二	五七九四	二四四三七	二五二八八
イギリス西アフリカ	三七四	二一四三	二七三七	二八五九
其他	四二二五九八	五五七	五〇一	六三八
外國	二五六七四	四二八九二九	一七四三九五	一七九六五三
ロシア		三〇九三三	八六三五	九一一四

七五六

スエリゲノルゲ	一四九七六	一六〇六六	七一九五	七二〇一
ダンマルク	一五七二九	一六七九六	三七〇二	四〇七八
ドイツ	三三六三四	三四五三三	二二八五〇	二三五五一
エステラライヒ ウンガレン	一三四〇	二五四四	一九二三	一七四四
オランダ	三四八四三	三四九七四	八四四六	八六八六
ベルジック	二六五三九	二七七九二	八四一〇	八七九八
フランス	五〇六四三	四九三四七	一五五八七	一五八〇〇
イスパニア	一四二八六	一三九五九	四七八五	四五七五
ポルトガル	三四一一	三三七〇	一八四一	二〇三六
イタリア	三五八二	三四四二	七四一〇	七八〇一
ギリシア	一六五〇	一四三二	一七一六	一五六六
トルコクレテ	一六八三	一三三九	二六五七	二三一一
ブルガリヤ	四五八	二二二三	三二六	三五二
スルビヤ				
ロマーニア	七六九二	四二二三	一二二四	九一五

世界地理

ヨーロッパ

イギリス王國

七五七

ヨロツパ計	二三六一四〇	二四〇九八三	九六七〇七	九八五二八
合衆國	一二六九二六	一二二一一三	二二七六一	二二六〇五
メキシコ	三〇五	七三八	二一七一	一八四〇
中央アメリカ	六四〇	七一八	七一九	六八九
キツバ、ポルトリコ	四三	三三四	一二二九	一五三三
其他四印度	一一八	九八	四二九	五二〇
グイアナ	四五	六二	三〇九	六一二
ベネズエラ	六二〇八	六七三六	五三九〇	五六〇六
ブラジル	一四六七六	二〇〇二二	七四二一	九六九〇
アルヒエンチナ、ウル	三六〇	五六二	五九四	七六一
グアイバラ、グアイ	二四九	一四七	三一	三三四
エクアドル	一三五一	一六二三	九四八	九六五
ペルー	四五二四	四五九八	二八三九	三〇〇九
チレ	一五五四八一	一五七七五一	四六一二二	四八一六四
アメリカ計				

七五八

支那	二四〇七	二六七九	七四二二	六七四一
日本	一八九九	二二七六	五〇六六	四五九二
フィリピン	二二五一	一九八六	八一四	六六三
オランダ東印度	二五八	七〇七	二四一八	二五四三
アジアトルコ	四四三二	四五二九	三三九四	三二二三
其他アジア、ポリネシ	九七六	六七三	一二七五	一九二二
エジプト	一三七六五	一二九八四	六一六二	六四四〇
チャニツア、トリポリ	四九三	五六一	四〇一	四四六
アルジェリア	六〇三	五六九	四一六	五四六
マロッコ	七〇〇	五六〇	八四九	六九一
アフリカ諸地方	二一七一	二六三七	三六三〇	五一五三
其他	二二	三四		
他地方計	二九九七七	三〇一九五	三一五六七	三二九六一
總計	五二八三九一	五四二六〇〇	二八三四二四	二九〇八〇〇

世界地理 五九

五九

次に主要貿易品を示せば、輸入に穀類六四五六萬ポンド、實綿四四八四、肉類四〇六四、木材二七一一、生毛二二八五、タバコ八〇、化學品一六四七、砂糖一六三八、絹布二三四八、果物一三三八、畜類一〇四三、茶九六四、等あり、輸出に綿布六六二〇、石炭二八七二、鐵器二二七七、器械二〇〇六、毛布一五八六、化學品二二二三、鐵一一五八、綿絲(七四一)、被服六三八、毛絲五九五、麻布五五五、生毛四六七、等あり。

船舶出入の状況は次表單位の如くなるが、商港の主要なるものはロンドン、リバプール、グラスゴー、ロンドンデリ、クインスタウン、プリストル、等なり。

行航岸沿	年次	入			出		
		イギリス旗	外國旗	合計	イギリス旗	外國旗	合計
海航洋遠	一九〇一	三三三三七	一七二六四	四八六〇一	三二四五三	一七二九七	四八七四九
	一九〇二	三三三〇二	一七三三八	四九六二〇	三二六〇〇	一七六五二	五〇二五三
	一九〇三	三四三四九	一八一六六	五二五一五	三四八六三	一八二四一	五三二〇四
沿岸航	一九〇二	五五二一四	三五二一九	五八七四四	五三九三三	三二一三六	五七〇七〇
	一九〇三	五四六六一	三六〇八	五八二六九	五三四三二	三二七一九	五六七一三

鐵路の長さは三萬六千餘軒にして、之を三部に分てば、イングランド、ウェイルスの二萬四千九百四十三軒、スコットランドの五千八百九十七軒、アイルランドの五千二百六十二軒と成るなり、此等の長さを地積に對比すれば、世界屈指の鐵道國たるの實あり、從て交通上に利便を供すること甚だ大なり、就中ロンドンの市街鐵道は市内の各區の間を連絡せり、又商船は帆船に一萬四百五十五隻、百九十五萬噸ありて、汽船に九千八百三隻、八百十萬噸あるが、之に殖民地に於ける帆船の一萬一千八百十四隻、九十三萬噸、汽船四千四百隻、六十三萬を加へば、如何に當國の商船の富力の強大にして、世界第一と稱せらるゝの實あるを知るに足らん、此の外、交通機關としては郵便局を二萬二千六百餘ヶ處に設け、電信局を九千九百餘ヶ處に設くるが、電信線の長さは約七萬九千軒にして、延長七十七萬軒に達せり、而して電話線は一萬六千五百餘軒、其の延長七萬五千餘軒あり、運河の延長は六千二百八十八軒あり。

處誌。 **イングランド** **ロンドン** (London) 四六一、三八一二、北緯五一度三十分、東經三度三十分、テムズ河に跨り三萬餘町歩の地に互る、聯合王國の首都なるが、人口、富力、商船、商業、工業等に依りて世界第一の市街たり、寺院、家屋等の建築は美ならざるに非ざるも、港船

渠、倉庫、工場の廣大なる天下に其の比を見ず、工藝の中心としては絹布、馬車、刃物等
 を製作し、世界の最大市場としては商業上の覇權を握りて、五大洲に號令す、實に盛
 を極むと云ふべし、又幾多の學校學會の設ありて、文學科學の社會に於ても第一流
 の都府たり、グリニチ (Greenich) 北緯五一度二分三十八秒 は有名の天文臺の所在地にして、本初
 子午線は此の地を通過す、トテンハム (Tottenham) (一〇二五一九) ウルトハムストウ
 (Wolhamstow) (九五一二五) レイトン (Leighton) (九八八九九) エストハム (West Ham) (二六七三
 〇八) ホルンシー (Hornsey) (七一〇五六) サルヴェスデン (Willesden) (一一四八一五) クロイ
 ドン (Croydon) (一三三三八八五) 等は亦ロンドンの近傍にあり、シールネス (Sheerness) は
 テームスの河灣を掩護し、チャタム (Chatham) はミットエイ河灣に於ける要港たり、ダヴン
 (Dover) 并にフォルクストン (Folkestone) は海峡渡航の要衝に當れるが、甲者はフランス
 のカレー、乙者はブローローニヤに通ぜり、ハスチンゲス (Hastings) (六五五二八) はロンドン
 の南南東にありて海に而す、風色佳なり、ニールハーブエンはフランスのチエップと共に
 海峡渡航の衝に當れり、ブライトン (Brighton) (一二二五四〇五) は海水浴地として名あ
 り、ポーツマス (Portsmouth) (一九四九六〇) 北緯五一度四分一三秒 は前に風色の美な

るを以て名を知らるるワイト島を扣え、東にスピットヘッド、西にソレントを備ふる長
 六軒幅三軒の一大軍港を有するが造艦、防禦等に關する設備は偉大なりと云ふ、サ
 ウサンプトン (Southampton) (一〇四九一一) は渡洋船の出入する處なり、プライマウス
 (Plymouth) (一一二〇二二) は軍港を有するが海峡艦隊の根據地の一たり、デボンポ
 ー (Devonport) (六九六七四) 及びストーンハウス (Stonehouse) と共に所謂三市を爲せるが
 造兵廠、甲裝砲臺等を有せり、ブリストル (Bristol) (三三八八九五) は大商港の一にして
 銅、鉛、砂糖を輸出す、ニールポート (Newport) (六七二九〇) はセベルン河に臨めり、リー
 デンゲ (Reading) (七二二一四) はケンネット、テームス兩河の會する處に位す、製鐵、製紙
 等に從事せり、オクスフォード (Oxford) はロンドンの西北西ケンブリヂ (Cambridge) は北
 微東にありて孰れも大學を以て著はる、イプスキッチ (Ipswich) (六六六二二) はロンドン
 の北東オルエル河畔にあり、ノルウィッチ (Norwich) (一一四三五一) はヤール (Yare) 河に瀕し
 毛布を産す、ノーサンプトン (Northampton) (八七〇二二) はロンドンの北西微北、ネン
 (Nen) 河の左岸に建ちて製靴業の中心たり、バーミンガム (Birmingham) (五三三二〇二九)
 はイングランドの畧ぼ中央に位し、冶金業の一大中心にして針、釘等を製す、此の地

に近くコブレンツトリー(Coventry)(六、九八七七)ハンツウマンズ(Handsworth)(五、二一九二)ブレ
 マンマン(Aston Manor)(七、七三二一〇)キングスノルトン(Kings Norton)(五、七二二〇)
 スムトキン(Smethwick)(五、四五六〇)西ノロムキン(West Bromwich)(六、五、一七二)ワル
 サル(Walsall)(八、六、四四〇)サクスノルトン(Wolverhampton)(九、四、一七九)等の都會あ
 りて製鐵業に従事せり、レイヌスター(Leicester)(二、二〇、二七二)は Trent 河の支流に
 沿ひ、バーミンガムの北東東にあり、毛織、靴下、彈力ゴムを製し、羊の市場たり、ブルト
 ン(Burton)(五、〇、三、八六)デバンズ(Derby)(一、一、八七〇)は Trent 河流域にあり、ヘルバ
 ートマンサリーの生地とす、ノッチンガム(Nottingham)(二、四、五、九八五)は綿布、レ
 スを製す、ハンリー(Hanley)(六、一、五、二、四)は Trent 河の上流に近し、陶器の産あり、
 シンフィールド(Sheffield)(四、一、五、五、三、二)は Don 河の會流地に位し、鋼鐵、及
 物を製す、ロザーム(Rotherham)(五、四、三、四八)は Don 河の右岸に於ける工業地なり、ハル
 (Hull)(二、四、九、六、三、九)はハンバー河灣に沿ひ、捕鯨に従事す、屈指の商港にして、石炭、農
 産畜産等を集散す、グリンズビー(Grimsbay)(六、三、一、三、八)はハルの東南東に於ける港
 なり、ハンデルズフィールド(Huddersfield)(九、四、九、六、三)は石炭の産地にあり、ハリフックス

(Halifax)(一〇、六、七、五、四)は綿布を産す、リーズ(Leeds)(四、四、三、五、五、九)はロンドン
 の北北西、エール(Aire)河の谷にありて毛織、羅紗、陶器を産す、ブラドフォード(Bradford)(二、八、三、四
 一、二)は紡織に従事す、ヨーク(York)(七、七、七、九、三)はウーヌ河の澁にあり、歴史上有名の
 地とす、ミッドルズボロー(Middlesborough)(九、一、二、一、七)は北海の岸に於ける商港たり、
 ストックトン(Stockton)(五、一、四、七、六)はチーヌ河を控へ港を有す、サンデルランド(Sunder-
 land)(一、四、八、五、七、二)サウスミーヌズ(South Shields)(九、七、二、六、七)タイムマウス(Tyneo-
 uth)(五、一、五、一、四)ゲートヘッド(Gateshead)(一、一、五、五、三、一)は石炭を以て有名なる、ニ
 ューカッスル(Newcastle)に近し、バロー(Barrow)(五、七、五、八、四)はアイルランド海に沿ひ、商港
 を有す、プレストン(Preston)(一、一、四、四、〇、四)はリッブル(Ribble)河灣に沿ひ、織物、其の他を
 製す、アークライフト(Arkwright)は此の地の人なり、ブラックバーン(Blackburne)(一、二、七、五
 二、七)はプレストンの東に位し、綿布を産す、ボルトン(Bolton)(一、七、三、四、〇、一)ブリー
 (Bury)(五、八、〇、八、二)ブルンリー(Burnley)(九、九、四、六、九)オールドハム(Oldham)(一、三、八、七、八
 六)サルフォード(Salford)(二、二、〇、九、五、六)は孰れも十九世紀の始には小邑たるに過ぎざ
 りしが綿布業の發達と共に現況を呈するに至れり、マンチェスター(Manchester)(五、五

三四八六北緯五三度四分二九分四秒はロンドン北北西約三百軒の北北西約三百軒、イニウェル(Irwell)の東岸に建つ綿布製造の最大中心にして、此の地に産する織物は地球の各處に普及せり、リヴァプール(Liverpool)北緯五三度四分二四秒は綿布の市場なり、メルシー河に瀕す、聯合王國中ロンドンに次げる通商地にして、ヨーロッパ第三の商港たり、對岸にビルケンヘッド(Birkenhead)一一三三五九八あり、近郊にブートル(Boole)五八五五八あり、セントヘレンス(St. Helens)八四四一〇も稍、名を知らるるがリヴァプールを距ること遠からず。

カルヂフ(Cardiff)一七二五九八はエールス最大の都會なり、セバルン河に臨み優良の石炭を輸出す、スワンシー(Swansea)九五四八九はカルヂフの西北西に於ける港なり、銅、錫、鉛、亜鉛等の製練に従事す、メルチルチドフル(Merthyr Tydfil)六九二二七はカルヂフの北西に於ける鑛業地にして、鍛鐵、製鋼に従事し、鐵板、鐵葉を製す。

スコットランド

グラスゴー(Glasgow)七六〇四二二三はクライド河に瀕す、王國第二の都會なるが盛に綿布、モスリンを製し、冶金業、造船業に従事す、ヘイスリー(Paisley)七九三三五五は白カルト河に沿へる工業市なり、グリーンノック(Greenock)六七六四

五は商港なり、エヂンバラ(Edinburgh)三二一六四七九北緯五三度一〇分四七秒は舊都の地なり、工業并に學術の中心たり、レイト(Leith)七六六六七はフォース灣の南岸に於ける商港にして、エヂンバラに接せり、ダンディー(Dundee)一六〇八七二は黃麻業の中心にして、帆布、網具を製す、アベルデー(Aberdeen)一五三二一〇八はチー河に瀕す、織物、絲類を製し、遠洋漁業に従事す。

アイルランド

ダブリン(Dublin)三二七三二七九北緯五三度二〇分一七秒はリッフェイ(Liffey)河に跨りて舊都の地なり、商業に従事す、ベルファスト(Belfast)三二四八九六五は北水道の一灣に臨み、亞麻布の産あり、コルク(Cork)七五九七八はリー河に沿へる商港なり。

殖民地 イギリス人は所謂先天的の殖民移民家なるにや、本業を企圖するに當りて、良土豊地の多くは他國に屬し、商權は先進者の專有する所なりしに拘らず、事を遠大に期し、強者と謀り弱者を抑へ、尺進に甘ざるを知りて、而も寸退を之恐れ、主として領土の擴張を務め、實利を重じ、名義に拘泥せず、遂に當今の如く空前の殖民的大帝國を構成するに至りたり。

土地	地積	人口	方料ニ付
地中海	九六一〇	四五、九五三七	四八
アジア	五一六、七三〇〇	三、〇一五、一六〇〇〇	五八
印度帝國	四八〇、九一〇〇	二、九五二、一三〇〇〇	六四
アフリカ	五一五、一二〇〇	四〇〇、二八〇〇〇	八
喜望峯殖民地	七一、七四〇〇	二四〇、九八〇〇四	三
ロデシア	一〇五、八〇〇〇	一二九、〇〇〇〇	一
アメリカ	一〇〇、二、九四〇〇	七五五、七三〇〇	〇、七
カナダ領國	九五八、九七〇〇	五三七、二〇〇〇	〇、五
オーストラリア南洋	八二五、八一〇〇	五八一、一〇〇〇〇	〇、七
合計	二八六一、五六〇〇	三、五五三、七二〇〇〇	一一二

南部

イベリア半島

境域 本半島はヨーロッパの南西部にありて、大西洋と地中海との間に介在し、北邊の一部はピレネー山脈に依りてフランスに連なれり、地積はバレアル諸島を合すれば五十八萬六千方料と成るが、其の中、四十九萬五千方料はイスパニア王國に屬し、殘餘の九萬八千方料はポルトガル王國に屬せり。

土地 海岸は概して屈曲に富まざるが、太平洋に瀕する海岸は一千六百七十五料にして、地中海の沿岸は一千五百五料に亘るも、顯著なる港湾を見ることなし、而して半島の内部は海拔五百乃至一千米突の土塊を形成し、山脈にて圍繞せらるる數個の盤地を抱括せり、其の北にあるをレオン、舊カステルラの盤地とし、其の中部にあるを新カステルラの盤地とす、ピレネー山脈は長さ四百二十料に亘り、平均の幅は百二十料に達せり、而して最高峯はポセツ(Poseis)三三六七なりとす、又カンタブル山脈はピレネー山脈に連續して五百五十料の長さを有するが、此の他にデマソダ并にモンカイヨのシエラあり、シエラモレナ、シエラネバダ、三、四、八、一、米、突、等、あ

り、此等は幾多支脈を分派して、一帯の高地を形成し、殆んどイスパニアの全部を蔽へり、河流は長さも水量に乏しく、春冬に稍多くして夏秋に極めて少なし、而して河床の傾斜は強くして交通上不便なり、エブロ(Ebro)、ドゥーロ(Douro)、タエ(Tago)、グアダナ(Guadiana)、グアダルクビル(Guadaluquivir)等を以て主流とす。

氣候 氣候は臺地にありては寒暑の差烈しく、地中海沿岸の地にありてはアフリカのなり、大西洋沿岸の地に於ては濕潤にして溫和なるも、山岳の附近に於ては寒暑の激變を覺ゆ、雨量の年平均はオビエドの二千六十糎にして、マドリッドの二百七十五糎なり、又平均溫度に就きては半島の北部に十三度を示し、南部に二十度を指せり。

イスパニア王國

住民 イスパニア(España)王國の住民は約一千八百六十二萬なれば、之を地積に對比するに、方料に付き三十七人と成るなり、イスパニア人は諸種の人民と混和せしものにして、ヨーロッパ人中、アフリカの分子を含有する種族の一なり、國教はカト

リック教なるが、住民の殆んど全部は之を信奉せり、教育は不振にして、下流社會には無智のもの多く、大學の効力は顯著ならず。

政治 イスパニアは一八七六年以來立憲王國と成りて、内閣は代議、元老の兩院より成る國會の贊助に依りて政治に與れり、行政上は地方を四十九州に區分せり、兵備は陸軍に平時の九萬三千餘人、戰時の約十三萬人ありて、海軍に兵艦三十八隻、七萬四千餘噸あり、又歳入は十億七萬、ベセタに近きが、歳出は九億六千八百九十一萬、ベセタ餘なり、而して國債は八十九億四千二百三十萬、ベセタを超過せり。

生業 イスパニアに於て水あるの地は必ず豐饒なり、カステラは麥を産し、地中海沿岸の地は柑類、無花果、桃、杏、石榴、オリブ、葡萄等を産す、然れども北部并に中部には無水の地、鹹水の平原ありて、全く生産力を缺けり、而して山岳地方は鐵、石炭、水銀、鉛、銀、銅、亞鉛、食鹽等を産す、貿易は輸入に實綿、石炭、器械、化學品、木材、皮革、鐵及び鐵器等の九億二千百六十萬、ベセタありて、輸出に鐵、鉛、銅、オリブ、油、柑類、葡萄酒、コルク、綿布、畜類等の八億五千六十萬、ベセタあり、交通機關は乏しく、鐵道は一萬三千八百五十一軒、商船は一千百十隻、五十六萬餘噸にして、電信線は延長八萬二千五百

餘料、電話線は四萬三千八百餘料の延長を有せるが、郵便局は三千二百八十七ヶ所あり。

○マドリッド(Madrid)五三、九五八五(北緯四三度四一分三〇秒は王國の首都なり、新カスチラの地にありてマンザレス河に瀕す、市街は美麗なれども工業は振はず、バルセロナ(Barcelona)五三、三〇〇〇はカタロニアにありて地中海に沿へり、軍府の一にして王國第一の商港を有するが、又工藝の中心として絹布、羅紗、綿布、レース等を製造す、 Валенシア(Valencia)二一、三五五〇はグアダラビアル河口に建ち絹布、石鹼紙類を製するが殊に扇子は有名なりセビラ(Sevilla)一四、八三一五はグアダルキビルの左岸にあり、舊都の地にしてアルカザルの宮殿并に宏大なる寺院を有せり、マラガ(Malaga)一三、〇一〇九は地中海に於ける商港の一にして、葡萄酒を輸出し又冶金に従事す、ムルシア(Murcia)一一、一五三九はセグラ(Sagra)河畔の農業地にあり、繁華の地なり、カルタゼナ(Cartagena)九、九八七一はムールシアの南、地中海の軍港なり、サラゴサ(Zaragoza)九、九一一八はエbro河の瀕に位せる工業地にして交通上の要衝に當れり、ビルバオ(Bilbao)八、三三〇六はビスカヤ灣に近き商業地に

して金屬類を輸出す、サンタンデル(Santander)五、四六九四は繁昌なる商港なり、グラナダ(Granada)七、五九〇〇は、グアダルキビルの支流セニルに沿ひ歴史上著名の地なり、ロルカ(Lorca)六、九八三六はムールシアの南西にありて近傍は銀を産す、カディツ(Cadix)六、九三八二はレオン島にあり、大軍港なるが又商業に従事す、パルマ(Palma)六、三九三七はバlear諸島の首府にして葡萄酒類を輸出す。

○殖民地 イスバニア人はホルトガル人に倣ひ、商利を得るを目的として立ち、領土の擴張と宗教の傳播とを兼ね、一時は尨大の殖民地を保有するに至りしも、施政上に過失多く、經濟の原則に戻りたるが爲、各殖民地の離反を來たしたれば、現時は僅に二十二萬方料足らずの地を餘すのみ。

土 地	地 積	人 口	方料ニ付
フェルナンドポ	一九九八	二、〇七四二	一〇
アンノボン	一七	一一〇四	六九
リオムイ	二、五七〇〇	一三、九〇〇〇	五

世界地理 ヨーロッパ 南部 アンドラ半島 イスバニア共和国

リオデオロ	一八、五〇〇〇	一三、〇〇〇〇	〇、七
合計	二二、二七〇〇	二九、一〇〇〇	一、三

七七四

アンドラ共和国

アンドラ(Andorra)はピレネー山脈中にありて、四百五十二方呎の地積と五千餘の人口とを有する一小共和国なるが、イスパニアのウルジェル僧正并にフランスに兩屬せり、政權は六村より推舉せられたる二十四人の評議員に屬し、ウルジェル僧正并にフランス政府は各一人の治罪官を駐在せしめ、又交番に一人の民事官を派遣す、首府はアンドラと稱せらる。

ジブラルタル

ジブラルタル(Gibraltar)は舊とイスパニアに屬せしが、一七〇四年以來イギリスの領する所と成れり、地中海の咽喉たるジブラルタル海峡の一隅に於ける一小半島にして、地積は五方呎に過ぎざるが、堅城鐵壁の稱ある砲臺は直立四二九米突の岩石上にあり、軍港とし倉庫地として有名なるのみならず、又貿易港としては船舶の出入頻繁にして、總噸數は約三百九十萬に達せり。

ホルトガル王國

住民[○] ホルトガルはイベリア半島の南西部にありて、五百四十餘萬の人口を有するを以て、九萬二千百餘方呎の地積に對比すれば、方呎の人口は六十一人と成るなり、種族はイスパニア種族に似たる所多けれども、亦アフリカの分子の一層強きを觀る、教育は不振にして普及せず、又進歩するの望みなし、國教はカトリック教なれども多少の新教信者あり。

政治[○] 政體は立憲君主制にして、立法權は貴族と代議との兩院より成る國會に屬し、行政權は内閣に屬せり、而して行政上は地方を十七縣に區分せり、兵備は陸兵に三萬人ありて、兵艦に四十二隻、約三萬噸あり、歳入は五千六百五十五萬餘、ミルレイスにして、歳出は凡そ五千七百三十六萬、ミルレイスなり。

生業[○] 農業は米、柑類、葡萄酒、果實等を與ふるも、採鑛業は僅に少量の石炭、食鹽、銅

等を生ずるのみ、其他、工藝の如きは更に振はず、貿易は輸入に凡そ五千八百八十八萬、ミルレイヌありて輸出は三千六十萬餘、ミルレイヌなるが、主要輸出品は葡萄酒、ニコルク、畜類、魚類、銅、綿布、オリブ油等なりとす、商船は五百九十一隻、十一萬九千噸許ありて、鐵道は二千三百九十四軒、電信線は一萬八千八百餘軒、郵便局は三千四十九ヶ所あり。

處誌。リスボア(Lisboa)三三、五、六〇〇九北緯三九度四二分三一秒はリスボン(Lisbon)リスボンヌ(Lisbonne)リサボン(Lisabon)と呼ぼる、王國の首府にしてタヒョ河に瀕し、軍港と商港とを兼ね、イギリスの製品及び殖民地の物産を輸入す、ポルト(Porto)一六、七九五五(即ちオポルト(Oporto))はツィロ河に接し、盛に葡萄酒、果實等を輸出す、此の外、ブラガ(Braga)一四、二〇〇二、セツバル(Seitbal)一三、一〇七四、ブンチャル(Bunchal)一三、〇八四四は少しく名あり。

殖民地。ホルトガル入はヨーロッパの西端に於ける狹隘の地に國を建つるが故に陸上に事を爲すの難きと海上に利を得るの易きとを先覺して立ち、以て商業的殖民地を各處に設け、一時は盛大を致せしも、本國の微力なると競争國の優勢なる

とに因りて漸、衰退を來たし、遂にインド、ブラジル等を失ひしが、今尙ほ二百九萬方軒の土地と七百二十七萬の人口とを有せり。

土	地	地	積	人	口	方軒ニ付
アフリカ			二〇七、〇〇〇 <small>カ</small>		六四六、〇〇〇	三
アンゴラ			一二七、〇二〇		三八〇、〇〇〇	三
モザンビク			七六、一一〇		二三〇、〇〇〇	三
アジア			一九九、一八		八一、〇〇〇	四〇
合計			二〇九、〇〇〇		七二七、〇〇〇	三

イタリア王國

境域。イタリア(Italia)王國はイタリ(Ial, l'Italie)イタリエン(Italian)とも稱せらる、南ヨーロッパの中央部にありて、大陸半島、島嶼の三部より成り、北はエステルライヒ、シツウィツに境し、北西はフランスに接し、西南、東の三方は悉く海に臨めり、地積は二

十八萬六千餘方呎なれば、我が帝國の三分の二に當れり。

海岸線の延長は六千七百八十五呎に達するが、主要なる海灣はリギリア(Liguria)海、チルベニア(Tyrenia)海、アドリア海、ナポリ(Napoli)灣、サレルノ(Salerno)灣、タラント(Taranto)灣、ヴェネチア(Venezia)灣等にして、重要なる地角はメシナ(Messina)オトラント(Otranto)ト、オロンピノ等なり、又半島部は別にカラブリア(Calabria)オトラント、ガノ(Gargano)等の半島を形成して、スバルチメント(Spartivento)サンタマリアデレウカ(St. Maria di Leuca)等の岬崎を以て終れり、而して島嶼にはシチリア、サルデニア、リパリー、島、エルバ等あり。

土地 山岳はイタリアの北境を爲す所のアルプ山脈と半島、島嶼を通貫するアペニン山系とに屬するが、顯著なる高峯ベジバ(一二〇〇)エトナ(三三一一)は共に火山なり、又ストロンポリ島に於ける火山は活氣の盛なるを以て名を知らる。

イタリアの大陸部はアルプ山脈に圍まれ、ポー(Po)河并に其の支流の爲に潤さる、本河の長さは六百三十呎に過ぎざれども、水量に富める點に就きてはヨーロッパ洲屈指の河流なり、水源をピソ(Piso)山に發し、積雪氷河より湧出する水を左岸に受け

て洪積地を潤す、河口はマドリヤ海にありて、毎歲凡そ七十米突づゝの突出を爲すと云ふ、アヂジャ(Adige)河も亦アルプ山脈より流下して、ポー河と共に三角洲を爲して海に注ぐ、而して半島部の河流は長からずしてアルノ(Arno)(一一三〇)チムレ(一一三七)は稍著し。

氣候 北部のイタリアは陸候を有するを以て嚴寒酷暑を覺ゆ、然れども南下するに従ひて、氣候は地中海的と成りて、冬季は溫暖を覺ゆるも、夏季の溫度はメシナとミラノとに大差なし、降雨は夏季に少なく、時にシロッコ風の吹き荒むことあり。

住民 人口は三千三百二十二萬弱にして、方呎に付き百十六人となるが、住民の配布は一ならずして一二九七乃至三〇の間であり、人口の増殖は著し、信教上はカトリック教に屬するもの最も多くして三千百五十餘萬人と算せらるゝが、新教に約七萬、ユダヤ教に三四萬あり、教育は振はざるに非ざるも未だ普及するに至らず、大學は二十二ヶ處にあり。

政治 政體は立憲君主國にして、君主は内閣と共に行政を司り、元老、代議の兩院より成る國會は君主と共に立法に従事せり、地方の行政には六十九州の設けあり、

兵備は強勢にして、陸軍は平時に士官一萬三千六百四十人、下士卒二十六萬四千五百十六人、戦時に三百三十二萬餘を有するが、兵艦は三百二十三隻、凡そ四十二萬噸あり、財政に就きては、歳入に十八億五千四百七十六萬リラありて、歳出に十八億三千五百九十萬リラあるが、國債は五億七千五百五萬リラなりとす。

生業。農業はイタリア人の生業の主たるものにて、王國富力の首位を占む、灌漑の利あるポル河の平野にありては寸地の不毛に屬するなく、米、麥、蜀黍等の耕種盛に行はれ、リギッリア、トスカニア、其の他の山腹の階段地は葡萄、オリーブ等の果樹の栽培に適せり、又南部にありては椰子樹生育し、シチリア島に於ては草綿の收穫あり、然れども産額の巨大なるは葡萄にして、三千萬乃至三千五百萬箇に達せり、而して南部の牧地は羊、牛を飼養せり、鑛産は鐵、大理石、硫黃等の數種に過ぎずして、工業は未だ盛なるに至らざるも、機械の製作、造船、製鐵等に從事し、絹布、羅紗を織出だす、貿易は左表の如くなるが、

年次	貨物		貴金屬	
	輸入	輸出	輸入	輸出
一八九九	一五、〇六五、六一	一四、三二四、一六	五五三、〇	一五八四、六

一九〇〇	一七、〇〇二、三、六	一三、三八二、四、六	七二四、四	一六五五、四
一九〇一	一七、一八四、八、九	一三、七四四、五、八	一一七五、九	一六三六、九
一九〇二	一七、七五七、四、三	一四、七二四、二、一	三四七七、五	九九八、二
一九〇三	一八、六一九、六、〇	一五、一七四、四、四	一、五六九、八、〇	六七六、八

輸入國はイギリス、ドイツ、合衆國、ロシア、フランス、エステルライヒ、イギリス、印度等にして、輸出國はシツウィツ、ドイツ、フランス、合衆國、イギリス等なり、又輸入品は穀類、絹、實綿、石炭、鐵、器械、木材、生毛、皮革、化學品等にして、輸出品に生絲、葡萄酒、絹布、綿布、果物、硫黃、木材及び木具、鶏卵、オリーブ油等あり。

交通的機關は商船に五千六百九十隻、凡そ百二萬噸あり、鐵路は一萬六千三十九軒あり、郵便局は八千三百七十一ヶ所にありて、電信線は延長十七萬七千六百軒許、電話線は延長三萬六千五百軒に達せり。

處誌。ローマ(Roma)四六、二七八、二三^{北緯}四一、二^{東經}五三、分五、四分五、三秒は、一にローム(Rome, Rom)と云ふ、チベレ河に跨れる市街なるが、一千八百七十年以來王國の首都と成れ

り、歴史上殊に宗教史上有名なる舊市にして、ローマ法王の居住處、カトリク教徒の聖地なり、美術的建築に就きては世界無比と稱せらる、此の地はローマ時代以後の各種建築物を有ぜり、就中、コリゼ、パンテオン、サンペトロ、バチカン等を以て著しとす、而して此の地の生業は羅紗、絹布、敷物、蠟燭等を製するが、殊に寄石細工、彫刻物等の美術品を輸出するを以て有名なり、ナポリ (Napoli) 五六、三五、四〇 (分北緯四〇度五一分四度一五秒はベジッパ山の麓にありて、ナポリ灣に瀕す、王國の最大都會なるが、學術の中心とし、將また工藝商業の中心として著はる、殊に古物展覽會は世の知る所なり、ミラノ (Milano) 四九、一四、六〇 (北緯四九度一一分三〇秒はポー河の平野に位せる商業の中心なり、絹布、綿布、馬車類を製造す、トリノ (Torino) 三三、五、五六、五六 (北緯四十五度四分四八秒はポー河に瀕す、舊都の地にして、學藝の中心なり、兵器、絹布等を製す、ジェノバ (Genova) 二三、四、七一〇 (北緯四十四度五五分二九秒は地中海に瀕す、軍港、商港の地なり、クリストコロポは此の地に生る、フィレンツェ (Firenze) 二〇、五、五、八九 (北緯四十四度一分四分二九秒は美術史上有名の地なり、絹布、釋帽を製す、ボローニア (Bologna) 一五、二〇〇、九はフィレンツェの北にあり、學術の中心として著はる、が、又工業、商業に従事

す、ベネチア (Venezia) 一五、一八、四〇 (北緯四十五度二一分五〇秒は潟地に建設せられたる市街にして、中古の時代には盛を極めしが、宮殿寺院等の建築を以て名を知らる、此の地に造船所あり、リボルノ (Livorno) 九、八、三、二二 (北緯四十三度二分一七秒は海濱なり、パドバ (Padova) 八、二二、八一 (北緯四十六度一分一七秒は潟地に建設せられたり、パリー (Pari) 七、七、四、七八 (北緯四十七度四分一七秒はアドリア海の一半島に於ける工業地なり、ルッカ (Lucca) 七、二、九、七一 (北緯四十二度一分一七秒はリボルノの北東に位し、オリーブ油を集散す、ヴェローナ (Verona) 七、二、二、七一 (北緯四十二度一分一七秒はベネチアの西に、アレクサンドリア (Alessandria) 七、一、二、九、八 (北緯四十二度一分一七秒はトリノの東南東にあり、孰れも軍府たり、ブレシア (Brescia) 七、〇、六、一一 (北緯四十六度一分一七秒はミラノの東に位し、毛織物を産す、スペチア (Spezia) 六、一、五、六一 (北緯四十二度一分一七秒はジェノバの南東に當れる軍港なり、モデナ (Modena) 六、四、八、四、三 (北緯四十二度一分一七秒はボローニアの北西にありて、絹布を産す、ラヴェンナ (Ravenna) 六、四、〇、三一 (北緯四十二度一分一七秒はボローニアの東に位し、亦織物の産あり、ピストヤ (Pistoia) 六、二、六、〇、六 (北緯四十二度一分一七秒はフィレンツェの北西にあり、鐵器を製す、ペルジヤ (Perugia) 六、一、三、八、五 (北緯四十二度一分一七秒はチヘレ河の右岸にあり、絹布、綿布を産す、ピサ (Pisa) 六、一、三、二、一 (北緯四十二度一分一七秒はアルノ河の下流に瀕す、斜塔を以て著名なり、タラント (Taranto) 六、〇、七、三、三 (北緯四十二度一分一七秒は商港を有す、レジオ (Reggio) 五、八、四、九、〇 (北緯四十二度一分一七秒はメシナ海峡に沿へる

海港なり、アンコナ(Ancona)(五六八三五)はラベンナの南東に於ける商港なり、フォジ
(Foggia)(五三二一五二)はバリーの北西にありて多少名を知らる。

パレルモ(Palermo)(三〇九六九二)北緯三三度二一分二八秒はシチリア島の最大都
會なり、貿易に従事す、メシナ(Messina)(一四九七七八)は軍港の一なるが又絹布、綿布を
製す、カタリーニア(Catania)(一四九二九五)はエトナ山の麓に於ける一商港なり、トラパ
ニー(Trapani)(五九四五二)はパレルモの西に位し又商港なり、マルサラ(Marsala)(五七
五六七)は港を有し商業に従事す、アルカモ(Alcamo)(五一八〇九)はパレルモの南西に
ありて少しく名を知らる、カリヤリ(Cagliari)(五三七二七)はサルヂニア島の最大都
會なり。

殖民地 殖民地はアフリカに於て五十一萬方呎あるに過ぎずして、人口は七十
三萬餘に止まれり、イタリア人の殖民業に於けるや成功少なし、是れ事業を企圖す
るに當り、其の方法に慎重を缺きたるの故ならん。

サンマリノ共和国

サンマリノ(San Marino)はアドリア海の沿岸地に於けるチタノ山の麓にあり、六
十一方呎の地積と九千五百三十五人の住民とを有する一小共和国にして、六十人
より成る大會と十二人より成る小會とを有するが、六ヶ月毎に改撰せらるゝ二人
の首長は政務を司れり。

マルタ

マルタ(Malta) ゴゾ(Gozo) コモニノ(Comino)の三島は一千八百年以來イギリスに屬す、
地積は三百二十三方呎に過ぎざるも、人口は十九萬三千三百餘人に達して、方呎に
付き五百九十八人の割合なり、土地は岩石より成りて耕耘に適せざるが、シチリア
島より輸送し來れる壤土に依りて、僅に柑類、草綿を栽培せり、氣温は零度に下るこ
となくして更に寒氣を覺えざるも、夏季は乾燥に失し、冬季は強風屢起る、殊に降雨
少なく源泉に乏し、首府バルレッタ(Valletta)はマルタ島の東岸にあり、軍港は堅固にし
て地中海艦隊の根據地なり、商港は地中海に瀕する諸港中の錚々たるものにして、
百貨の集散甚だ盛なり。

バルカン半島

境域 南部ヨーロッパに於ける三大半島中にて東にあるをバルカン(Balkan)半島と名づく、其のヨーロッパ大陸に接続する部分は廣潤なるに似たれども、一帯の水脈は殆ど間断なく半島の周りを圍繞せり、北にユナ(Una)サエドナウの河流あり、東に黒海、ボスポロス海峡、マルマラ海、ダルダネル海、エーゲ海あり、南に地中海あり、西にイオニア海、アドリア海あり、面積は約五十七萬方軒なりとす。

海岸 海岸は屈曲に富めり、海灣に就きては黒海にブルガス(Burgas)灣あり、エーゲ海にサロス(Xeios)エノス(Enos)オルノニ(Orfani)サロニキ(Saloniki)ボロ(Volos)等の諸灣あり、イオニア海にマラソニニコロン、パトラス(Patras)コリント(Corinth)アムタ(Arta)等の數灣あり、海峡にエブリボス(Evros)タランタ、ペンント、コルヌ(Korfu)等あり、半島にガリポリ(Gallipoli)カネキス(Chalkis)モレヤ(Morea)あり、地角にコロシナ、マタパンあり、地峽にコリントあり、又島嶼は其の數甚だ多く、主なるものゝみを擧ぐるも、インブロス(Inbros)島、レムノス(Limnos)島、北スボラテス諸島、エブリボス(Evros)島、シン

ラデス(Cyklades)諸島、カルパリス島、クレタ(Krete)島、セリフ(Cerigo)島、ザンテ(Zante)島、ケフalonia)島、ヘッサカス(Hellas)島、イオニア諸島等あり。

地勢 半島は山地多く平地少なし、到る處山岳丘陵蟠繞して、山脈の趨勢の如きも極めて錯綜せり、北東にあるをバルカン(Balkan)山脈最高峯をイットルグチヤと云ひ、高(二三七四)と云ふ。、北西にあるをチナラアルプと云ふ、又アドリア海の沿岸にある高峯をトルミトル(Dumitro)山(二五二八)コム(Kom)山(二四四八)、チャルダグ(二〇五〇)、ヤンラニツ(Jablanica)(二二八二)とし、南部にあるものをカタボスラ(二二五八)、バルナス(二四五九)とす、次に河流を列擧せんに、ドナウ河は支流サエドリナ(Doina)モラワ(Morava)等を容れて黒海に往き、マリツマ(Maritsa)ストロフ(Shumna)ソルダマ(Ward)の數流はエーゲ海に往き、アドリア海并にイオニア海の斜面に注ぐ、河流は顯著ならず、其の他、スクタリ(Skutar)オクリダ(Ochrida)プレズン(Presba)ベシタ(Beshtik)等の數湖あり。

氣候 氣候は一樣ならず、ブルガリアの平野にありては寒暑の差烈しく、スルビヤ又はマセドニアの山間平地にありては稍温和なり、高山秀嶺の地に於ては冬季